

島根大学
大学概要
2015-2016

SHIMANE

UNIVERSITY

Profile of Shimane University

2016

さあ、ともに島根大学から。

地域の拠点としての「知」の集積と創造による グローバル社会への貢献

島根県は、宍道湖、隠岐諸島や三瓶山など豊かな自然とともに、石見銀山、出雲大社、松江城など歴史的な文化遺産も多数あり、自然や歴史・文化を身近に感じることができます。島根大学はこのような豊かな自然と落ち着いた佇まいに恵まれた松江市と出雲市の2つのキャンパスに、5学部、6研究科を持ち、文化系、理科室、医学系のほとんどすべての学問領域において教育・研究を行っている総合大学です。

島根大学は、山陰地域における知と文化、及び医療の拠点として培ってきた「知」の次世代への継承を行うとともに、日々の研究において新たな「知」を創造しています。そして、総合大学としての強みを最大限に発揮し、グローバルな感性と豊かな教養、そして高い専門性を身につけた学生を育成することにより社会の維持・発展に寄与することを考えています。

さらに、地域における課題に向き合い地域との協創を強化し、その課題の解決を図るとともに、解決の普遍性、汎用性を追及し、広く国内、世界各地において有用となる知識・技術を開発することにより、グローバル社会に広く貢献することを目指します。

島根大学長 服部 泰直



PROFILE OF SHIMANE UNIVERSITY CONTENTS

- 01 学長メッセージ
- 02 島根大学憲章
- 03 豊かな人間性と高度な専門性を身につけた、自ら主体的に学ぶ人材の養成
- 05 特色ある地域課題に立脚した国際的水準の研究推進
- 07 地域問題の解決に向けた社会貢献活動の推進
- 08 文部科学省 地(知)の拠点整備事業(大学COC事業)
- 09 アジアをはじめとする諸外国との交流の推進
- 11 学問の自由と人権の尊重、社会の信頼に応える大学運営
- 13 法文学部・人文社会科学研究科
- 14 教育学部・教育学研究科
- 15 医学部・医学系研究科
- 16 医学部附属病院
- 17 総合理工学部・総合理工学研究科
- 18 生物資源科学部・生物資源科学研究科
- 19 法務研究科
- 20 キャンパスマップ(松江)／附属図書館(本館・松江)
- 21 キャンパスマップ(出雲)／附属図書館(医学図書館・出雲)
- 22 学内施設等

データブック

- 24 沿革・学年暦
- 25 沿革図
- 27 運営組織図
- 29 役職員・経営協議会委員・教育研究評議会評議員
- 31 教職員数
- 32 学部・大学院
- 33 附属図書館
- 34 附属病院
- 35 学生数／附属学校児童・生徒・幼児数
- 37 入試状況
- 41 卒業者数・修了者数
- 43 卒業・修了後の状況
- 45 公開講座・公開授業
- 47 科学研究費補助金等の受入状況
- 48 収入・支出決算額
- 49 外国人留学生の受入状況
- 50 留学状況／奨学生数
- 51 定期刊行文献
- 52 土地・建物
- 53 連絡先一覧
- 54 アクセス



島根大学憲章

島根大学は、学術の中心として深く真理を探究し、専門の学芸を教授研究するとともに、教育・研究・医療及び社会貢献を通じて、自然と共生する豊かな社会の発展に努める。とりわけ、世界的視野を持って、平和な国際社会の発展と社会進歩のために奉仕する人材を養成することを使命とする。

この使命を実現するために、島根大学は、知と文化の拠点として培った伝統と精神を重んじ、「地域に根ざし、地域社会から世界に発信する個性輝く大学」を目指すとともに、学生・教職員の協同のもと、学生が育ち、学生とともに育つ大学づくりを推進する。

1. 豊かな人間性と高度な専門性を身につけた、自ら主体的に学ぶ人材の養成

島根大学は、深い教養に裏づけられた高い公共性・倫理性の涵養を教育の基礎に置き、現代社会を担う高度な専門性を身につけた人材の養成を行う。

島根大学は、学生が、山陰の豊かな自然、歴史と文化の中で、学修や関連する諸活動を通して積極的に社会に関わりながら、自ら主体的に学び、自律的人格として自己研鑽に努めるための環境を提供する。

2. 特色ある地域課題に立脚した国際的水準の研究推進

島根大学は、社会の多面的要請に応えうる多様な分野の研究を推進するとともに、分野間の融合による特色ある研究を強化し、国際的に通用する創造性豊かな研究拠点を構築する。

島根大学は、社会の要請に応え、地域課題に立脚した特色ある研究を推進する。

3. 地域問題の解決に向けた社会貢献活動の推進

島根大学は、教育・学修、研究、医療を通して学術研究の成果を広く社会に還元する。

島根大学は、市民と連携・協力して、地域社会に生起する諸課題の解決に努め、豊かな社会の発展に寄与する。

4. アジアをはじめとする諸外国との交流の推進

島根大学は、地域における国際的な拠点大学として、アジアをはじめとする国際社会に広く目を向け、価値ある情報発信と学術・文化・人材の交流を推進することによって、国際社会の平和と発展に貢献する。

5. 学問の自由と人権の尊重、社会の信頼に応える大学運営

島根大学は、真理探究の精神を尊び、学問の自由と人権を尊重するとともに、環境との調和を図り、学問の府にふさわしい基盤を整える。

島根大学は、学内外の意見を十分に反映させつつ透明性の高い、機動的な運営を行う。

豊かな人間性と高度な専門性を身につけた、 自ら主体的に学ぶ人材の養成

島根大学では、学生主体の教育活動を一層促進することを目的に、学士課程教育を構築・実施しています。学士課程教育とは、大学卒業者に授与される学士号にふさわしい能力・資質を定め、体系的に構築された教育課程を通じてそれを獲得していくことを意味しています。質の保証された学士課程教育を通じて、現代社会の要請に応え得る豊かな教養と高い倫理観を備え、かつ、科学的探求心に富む有為な人材を育成します。

全学共通教育

専門分野を超えた能力・知識の育成

全学共通教育とは、専門分野の枠を超えて島根大学の学生に共通に求められる基礎的な力や幅広い知識を育成するための教育のことです。全学共通教育は、その履修を通じて島根大学の全学生が身に付けて欲しい能力・資質の目標(下の①から⑤)を定め、自らの学びをさらに深めることができる人間、現代社会を形成するにふさわしい人間を育成します。

- ① 知の探求者として育つ ② 市民社会の形成者として育つ
- ③ 地域社会の創造者として育つ ④ 国際社会の貢献者として育つ
- ⑤ 自己の開拓者として育つ



専門教育

基礎から専門へ深化する一貫教育

専門教育は学士課程ごとに定められた教育目標に応じて構築された教育のことです。全学共通教育で培った能力・資質を発展させるとともに、高い専門性を身に付けることを目指し、基礎から専門へと体系的に深化する一貫した教育を行っています。専門性を活かして現代社会の課題を発見し、理性的・創造的に解決する力を育成します。

各学士課程教育
において、
現代社会に
対応した教育を
実施します。

- 法文学部 人を知り、人を創る
- 教育学部 体験が育む、プロの教育実践力
- 医学部 人類の福祉と地域医療に貢献する医療人の育成
- 総合理工学部 科学・技術が創る人間の未来
- 生物資源科学部 “いのち”あふれる地球を育む

■特色ある全学教育プログラム

学びのセルフプロデュース ～自分でデザインする新しい学びの形～

島根大学では、自分の専門・専攻の学びに加え、「プラスαの学び」を用意しています。大学での学びを自分自身で計画的にデザインしていく仕組み、それが学びのセルフプロデュースです。

+α1 自分の興味を活かして学ぶ中から「イノベーション基礎力」を身につける

多様な価値が交錯し、これまで誰も当りなことがなかったような問題が次々に現れる今日の複雑な社会情勢の中、大学卒業者に求められている力、それがイノベーションを生み出す力です。既成の方法の適用ではなく、自ら新たな課題を発見し、その解決を独自の道筋を立てて追求し、変革(イノベーション)をもたらす力。それを手にいれるためにはまず、現実の社会との関わりを持ち、その実体験の中から主体的に学んでいく態度と方法を身につけることが重要です。

島根大学においてはキャンパスを飛び出し、山陰地域の自然・歴史・文化・産業を実体験しながら学ぶ「ソーシャルラーニング」プログラム、環境に関するグローバルで多角的な視野を有し、地域に貢献できる人材養成のための「環境教育」プログラム、多様で個性豊かな地域遺産について学び、地域活性化を考える「ジオパーク学」プログラム、島根県の地域資源でもあるRuby(ルビー)プログラミング言語を身に付け、地域で活躍する人材を養成する「Ruby・OSS履修プログラム」を用意しています。



+α2 キャンパスで、仕事の現場で、動いて学ぶ中から「人間力・就業力」を身につける

社会的自立のために求められる多様な能力を伸ばし、自分が社会に出て働くイメージをつかむ、そのような「人間力・就業力」を身につける重要性が近年、増えています。そこで、そのような力をつけるため、自らのキャリアを切り開く力をつける「就業力育成特別教育プログラム」が展開されています。

このプログラムは、毎年100名程度の学生が履修しており、学部の垣根を越えた学びの場が提供されています。キャリア教育科目の拡充、短期海外チャレンジ研修及び中山間地域での実地体験活動等を試みることで、国内企業及び海外や中山間地などの地域振興で活躍する幅の広い人材養成を目指しています。



+α3 英語高度化プログラムと積極的な留学体験で「国際感覚・英語力」を身につける

島根大学では国際感覚あふれる幅広いものの見方を身につけ、それを実践的に活かすことができるように、グローバルな教育を展開しています。

高度な英語力を伸ばしつつ、グローバル社会に必要な資質を養成する「英語高度化プログラム」、医療現場で役立つ英語を向上させ、地域と世界に貢献できるグローバルな医療人を目指す「アドバンスト・イングリッシュスキルコース」(医学部)を開講しています。

また、「中国語実用化プログラム」を開講し、実用的な中国語コミュニケーション能力を育成し、中国語圏の社会・文化について深い理解と高い見識を醸成します。

夏休みや春休みを利用した短期海外研修プログラムなど、充実した短期・長期の留学制度も用意されています。



特色ある地域課題に立脚した国際的水準の研究推進

幅広い分野にわたって高度な研究成果を蓄積し、それぞれの分野においてアクティブな知能集団として研究活動を推進するとともに、多様化する社会の要請に柔軟に対応できる研究組織の拡充強化を図ります。大学の使命を果たすために、学問の自由の理念に基づき、常に自らの教育研究活動に対する点検・評価を行い、新たな知的創造に向けての努力を行います。

また、大学院における教育研究活動をさらに推進し、地域に密着した個性的な研究及び国際的レベルの独創的な研究を重点的に育成するとともに、人類に共通する知的財産の継承発展や社会貢献を目指す学問領域も大切に学風の構築を行います。

学部の枠を超えた研究活動「戦略的研究推進センター」

地域の知の拠点としての先端的研究の推進

学部的に取り組むべき具体的研究テーマを設定し、本学の特徴ある研究を集中的な経費配分のもとで推進しています。

重点的に取り組む研究プロジェクトは「戦略的研究推進センター」の次のような各部門及びプロジェクトセンターに位置づけられ、期限と目標を明確にして集中的に進められます。

戦略的研究推進センターのHPは、<http://www.proken.shimane-u.ac.jp/>をご覧ください。

重点研究部門

中期計画に沿った具体的研究テーマを学際的に推進し、本学の特色ある研究として国際的な研究拠点をめざす研究プロジェクトで構成されます。

現在、1件のプロジェクトが推進中です。

萌芽研究部門

数人規模の個別テーマや小規模な学際的テーマで、近い将来本学の重点研究プロジェクトへの発展が期待される研究プロジェクトで構成されます。

現在、7件のプロジェクトが推進中です。

特別研究部門

すでに外部資金等を獲得している研究のうち、本学が重要な研究と位置付け学内外に向けて情報発信することとした研究プロジェクトで構成されます。

現在、4件のプロジェクトが推進中です。

プロジェクトセンター

部局を超えて特徴的な教育研究プロジェクトに参加する研究グループをプロジェクトセンターとして位置付けて見える化することにより、研究活動の一層の活性化と推進を目指すものです。

- Ruby・OSSプロジェクトセンター
- くにびきジオパーク・プロジェクトセンター
- 疾病予知予防プロジェクトセンター
- ナノテックプロジェクトセンター
- 自然災害軽減プロジェクトセンター
- 農林水産業の六次産業化プロジェクトセンター
- ヒッグス・初期宇宙プロジェクトセンター
- 水産資源管理プロジェクトセンター
- ウッド・デザインプロジェクトセンター
- 医・生物ラマンプロジェクトセンター
- たたらナノテックプロジェクトセンター
- 先天異常総合解析プロジェクトセンター
- 膀胱がん撲滅プロジェクトセンター
- 古代出雲プロジェクトセンター
- 東アジア・太平洋歴史文化プロジェクトセンター

研究内容の詳細については、http://www.proken.shimane-u.ac.jp/01project_center.htmlをご覧ください。

ホームページに「研究見本市」開設

島根大学研究見本市は、Web上で本学の各教員の研究紹介を行い、学内の研究ニーズ・シーズの発掘や情報共有及び学外の皆さまに本学の研究シーズをわかりやすく紹介することで、さらなる研究活動の活性化と共同研究の推進を図ることを目的に開設しています。<http://www.shimane-u.ac.jp/search/announce/index.cgi>からご覧いただけます。

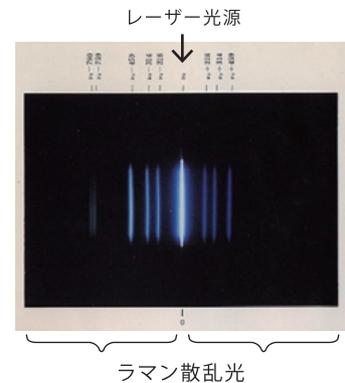
「部局名」「教員氏名」「キーワード」により検索することができますので、是非ご活用ください。

■ 平成26年度重点研究プロジェクト

島根大学のシーズを活かした学際的新規医療技術開発拠点の確立

基礎研究と応用研究による ラマン分光法の医療技術への応用を目指す

本学では、ラマン分光法による生細胞の代謝評価などの基礎的研究と、好酸球性食道炎の簡便な診断などの応用研究の両方が、第3期重点研究プロジェクト「S-グリーンライフナノ材料プロジェクト」を中心に確実に進められてきました。本研究プロジェクトは、これらを継承するもので、臨床診断へのラマン分光法の基礎研究と応用研究を柱とする3つのサブグループで構成し、従来よりも直進性が高く深部の臓器の超音波診断への応用技術の開発、酸化亜鉛ナノ粒子やフタロシアニンなどのナノマテリアルのがん治療への応用を目指した研究を行います。また、本学ナノテクノロジープロジェクトセンターで集積されてきたナノテク関連機器とも組み合わせることで、ラマン分光の医療技術応用の研究を本格的に行う世界初の研究センターを開設し、特徴的な診断・治療技術と共に本学の学際的な教育研究の核の一つとして発展させることを目指します。



四塩化炭素のラマン散乱光
(「ラマン分光法」浜口宏夫・平川暁子編、学会出版センター(1988)の扉写真を改変して作成)

■ 平成26年度萌芽研究プロジェクト

新しいヒッグス理論と初期宇宙についての研究

素粒子の標準模型の謎を解明する

本研究ではスイスのCERNで行われているLHC実験が発見したヒッグス粒子を鍵として理論的研究を行います。このヒッグス粒子の性質を明らかにする新しい理論が初期宇宙の現象を記述する可能性を探り、宇宙の謎を解き明かすこともまた同時に取り組んでいます。

本プロジェクトリーダーの波場 直之 教授が提唱する、ニュートリノの極微質量がニュートリノとのみ湯川相互作用する新しく導入したヒッグス場の真空期待値の小ささに起源を持つニュートリノフリック・ヒッグス模型において、我々の宇宙が物質ばかりで反物質が少ない理由を、宇宙初期の新しいバリオン非対称性生成のメカニズムで説明できることを示します。さらに、LHC・ILC実験、ダークマター観測実験、宇宙線観測での検証可能性を調べます。

また、標準理論に存在するStrong CP問題をこれまでのアキシオンによる解決方法ではなく、「余剰次元空間が存在するために自動的に解決されている」可能性に挑戦します。これは、間接的な余剰次元空間の存在証明をすることにもつながり、続いて、実験や宇宙観測でどうしたら、直接、余剰次元空間の存在を確かめられるかについて調査します。



新しい模型構築に向け学生に指導をする波場教授

山陰地方強靱化を目指した自然災害の統合的研究

山陰地域の自然災害の特性解明と防災・減災を目指す

中山間地域や長大な海岸線を有する山陰両県は自然災害に対して脆弱です。2013年には島根県西部が2度の激甚災害(気象・洪水災害及び土砂災害)に見舞われ、国道、県道及び鉄道等のインフラが重大なダメージを受けるとともに、地域経済も大きな影響を受けました。また日本海に面する地域に多いゼロメートル地帯は津波災害の危険性が内在しています。本研究は上記のような現状を踏まえ、自然災害に対する山陰地域の強靱化を目指して、気象・洪水災害、津波災害及び土砂災害を統合的に研究するものです。

「気象・洪水災害」では、山陰地域の気象災害、特に大雨災害の時間的、空間的、量的な変化についてGISによる分析を行い、近年の特性を明らかにします。「津波災害」では、山陰両県の海岸地域における津波堆積物の広域的な調査、津波の到達範囲とその分布の高精度な把握、津波による浸水域の見積もりを行います。「土砂災害」では、特に近年顕在化している集中豪雨・豪雪による突発土砂災害を対象に、その発生機構を解明します。



地域問題の解決に向けた社会貢献活動の推進

山陰地域・環日本海地域という本学の置かれる地域の歴史的・地理的特性を生かして、人類に共通の財産としての学術・文化の継承発展を担い、さらに、地域固有のテーマに関する知的創造を通じて普遍的な真理を探究するとともに、本学が有する知的財産を活用して、教育・研究・文化の拠点として地域社会の発展に貢献します。このため、大学全体として地域のニーズに応える体制を構築することにより、地域に必要とされ、信頼される大学を目指します。

地域に飛び出す学生たち

地域貢献活動

地域との繋がりを深めることを目的として、松江市の伝統行事である「鑿行列(どうぎょうれつ)」への参加、地域で開催されるイベントの企画や農家での農作業活動、地域興しを目的とした祭りの企画・実施など、多くの学生が地域貢献活動を行っています。また、各種スポーツ競技団体は地域で開催される競技会へ補助員として参加したり、学校等に向いて学童に実技指導等を行っています。



鑿行列の様子



秋緑祭の様子

ボランティア活動

ボランティアに取り組む学生が多いのも島大の特徴の1つです。療養所や保育園との交流、夜間に地域の皆さまと大学周辺を巡回する「防犯パトロール」、東日本大震災の被災地を訪れて行う復興支援ボランティアなど、さまざまなボランティア活動を行っています。また、ボランティア活動やサークル活動などの正課以外の諸活動を頑張る学生にポイントを付与することにより応援する、ピットポイントという島根大学独自の制度があります。

<http://shienp2.jn.shimane-u.ac.jp/>



安全安心まちづくりボランティア

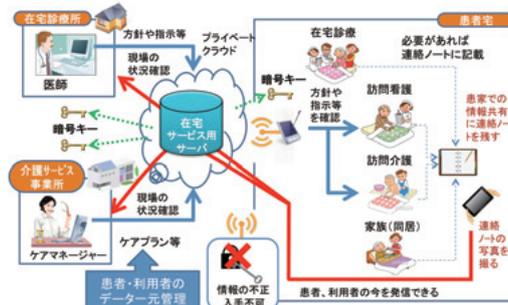


東日本大震災ボランティア

産学連携の具体例

在宅医療・介護分野における情報共有システム「電子連絡ノート」

在宅医療や介護分野においては、医師や介護サービス事業者、患者の家族等、様々な関係者が関わっていますが、電子化が進んでおらず、患者宅にある紙の連絡ノートを使った情報共有が大勢を占めています。特に、島根県のような中山間地域では、診療所や介護サービス事業者と患者宅が離れていることが多く、関係者間での情報共有が行いにくいという課題があります。株式会社テクノプロジェクト(松江市)が開発したシステムでは、この紙の連絡ノートをスマート端末のカメラで撮影し、プライベートネットワーク上にアップすることで、多職種間での情報共有を迅速かつ容易に行うことを可能にします。スマート端末で撮影された写真や、サーバーと交換されるデータ等は、総合理工学研究科の六井淳研究室で開発された「三次元カラーバーコードシステム」による暗号化ツールが活用されています。



就寝状態確認システム「寝憎」

日本の高齢化は近年ますます進行し、それに伴い医療・介護の現場は安全面での対応が求められています。特に高齢者の転倒・転落、徘徊等は大きな問題であり、早期の発見や予知が大切です。一方で、寝たきり等になった場合の褥瘡(じょくそう)対策や孤独死の防止も必要です。これまでは例えばマット式センサーによる離床(ベッド等から離れる動作)検知が行われてきましたが、センサー検知時には既に離床しており、発見が遅れました。これらを解決する目的で、全く新しい発想によるセンサーシステムを、島根大学医学部附属病院医療情報部と山陰制御(有)(安来市)が産学連携で開発しました。センシングにはキーボードで用いられるスイッチを利用し、マットレス(あるいは敷布団)の下9ヶ所(背中、腰、すねの位置で中央と左右)にスイッチを置くとともに、一定以上の重量がかかった際にスイッチがONとなるよう弾力を持ったカバーを取り付けました。各センサーのON/OFFはプロセッサに集約され、ONの分布とその変化の有無を解析することで、離床、寝返り、起き上がり、「寝返りを打っていないこと」が検知できます。



ベッドの横梁に取り付けたセンサー (ピンクの棒がセンサー)

大学の開放

公開講座・公開授業

島根大学では市民の要望や社会の要請に応じて、多様な公開講座、公開授業、大学開放事業等の学びの機会を、生涯教育推進センターを窓口を提供しています。これからも様々な講座やイベントを企画提供するとともに、市民が利用できる大学施設の開放も進めるなど地域社会に向けた社会貢献活動を推進します。



松江の茶の湯文化と出雲の陶磁文化

春と秋の農場開放日

松江市上本庄町の「附属生物資源教育研究センター」(通称:本庄農場)において、春の桜開花期と、秋の収穫期に一般開放事業を実施しています。地域の人々にとっても恒例行事となっています。



文部科学省 地(知)の拠点整備事業(大学COC事業) —課題解決型教育(PBL)による地域協創型人材養成—

大学COC事業とは、地(知)の拠点、すなわち地域コミュニティの中核的存在(Center of Community)としての大学の機能強化を目的とし、文部科学省が平成25年度より開始した事業です。

島根大学ではこれまで、「知と文化の拠点として培った伝統と精神を重んじ、く地域に根ざし、地域社会から世界に発信する個性輝く大学」を目指す」という理念を掲げ、地(知)の拠点としての機能強化を進めてまいりました。

平成25年度には、「課題解決型教育(PBL)による地域協創型人材養成」(しまだいCOC)というテーマで大学COC事業の採択を受け、これまで以上に島根県内の地域社会と連携し、地域を志向した教育・研究・社会貢献の一層の充実を目指します。

教育

地域志向教育の強化

島根大学のCOC事業では、全学をあげて地域志向の強い教育に取り組んでいます。具体的には学部、プロジェクトセンター、連携自治体が協働して「地域基盤型教育」と「課題解決型教育」の強化を図り、従来の専門教育に加えることによって「地域協創型人材」の養成を目指します。

◎COC関連科目の可視化

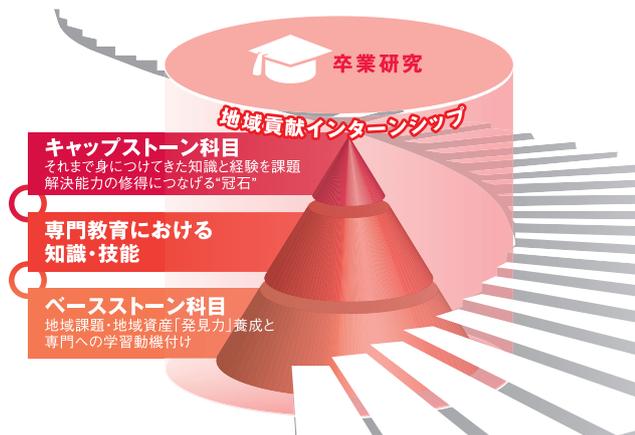
地域志向の強い教育を推進するために、全科目のなかから地域に関連するものを「ベースストーン科目」と「キャップストーン科目」に指定し、可視化します。学生はこれらの履修を通じて、地域に対する知識を養い、自らの力を地域に活かす技能を学びます。

◎ベースストーン科目(BS科目)

地域の基礎的な現状と課題について学習することのできる科目であり、地域社会との関わりを通じて、大学で専門領域を学ぶことへの意欲を喚起できる科目です。

◎キャップストーン科目(CS科目)

大学で学んだ知識と経験を実際の地域での課題解決に活用するための能力や見識、技能を学習できる科目です。



地域貢献人材育成

◎地域貢献人材育成入試

島根大学は、地域で活躍し、地域と共に地域活性化や地域課題解決に取り組む人材の育成を目指して、主に山陰地方の各地から地域志向の強い学生を各学部へ受け入れる「地域貢献人材育成入試」を実施します。

◎COC人材育成コース

「地域貢献人材育成入試」で入学した学生は、実際に所属する学部の専門教育を受けるとともに「COC人材育成コース」に属し、教育プログラムに基づいてBS科目・CS科目・地域貢献インターンシップを段階的に履修します。またコース生たちは所属する学部の垣根を越えて、セミナー等に参加し、教育プログラムと合わせて地域の現状と課題を知り、大学で学んだ専門的な知識を地域の課題に則して応用するための高度な能力や見識、技能を獲得していきます。

研究

地域志向教育研究経費

地域志向型の授業科目の開発や、地域課題解決型研究の促進を目的として、教員個人又はプロジェクトセンター等の研究グループに対して助成する経費です。毎年約40のテーマが採択され、島根の地域学習や地域課題解決に特化した教育・研究が行われます。



経費を用いた研究による地盤調査

プロジェクトセンターと自治体の連携

プロジェクトセンターと自治体との連携をこれまで以上に強化し、実際の地域課題解決に必要な研究に取り組みます。特にRuby・OSSプロジェクトセンター、自然災害軽減プロジェクトセンター、農林水産業の六次産業化プロジェクトセンターにおける研究は、自治体とのワーキング・グループを組織して重点的に行っていきます。

社会貢献

研究成果の公開

プロジェクトセンターで得られた研究成果を、セミナーや公開講座、シンポジウムなどで積極的に公開し、地域に還元していきます。



公開講座

(医・生物ラマンプロジェクトセンター)

地域学習支援ITシステム

ポータルサイトから地域学習に役立つ動画を配信します。コンテンツは島根大学の「島根学」など地域関連の授業、プロジェクトセンターが行ったシンポジウム等があります。

<https://portal.lscrp.shimane-u.ac.jp>



アジアをはじめとする諸外国との交流の推進

最先端の学術・文化に関する情報を世界に発信するとともに、研究者・技術者・学生による学術・技術・文化の交流を通じて国際社会に貢献します。特に、アジアとの国際共同研究、学術交流及び留学生交流に重点を置きます。人情に厚く、住みやすい島根県に所在する本学の歴史的・地理的特性を活かして、日本の自然と文化に触れてもらい、外国人研究者との共同研究や「未来からの大使」としての留学生の教育や交流などを通じて大学の最新情報を世界に発信します。

学生交流

島根大学では、海外の協定校のうち「学生交流に関する協定書覚書」を締結している協定校から交換留学生を受け入れるのと同時に、島根大学の学生を学籍上「在学」の扱いで、その大学に交換留学生として派遣することにより学生の相互交流を推進しています。

また、交換留学制度以外にも授業の一環として、春や夏の長期休暇の時期に米国、カナダ、韓国、中国での海外研修を実施しています。この研修は、ホームステイ、文化講座の受講、現地学生との交流会等盛りだくさんの内容になっています。この研修に参加し、自身の成長を体感した学生が、改めて交換留学に申込みケースもあります。

米国 アーカンソー大学との連携による春期海外研修

アーカンソー大学で毎年春に本学の学生が約3週間の海外研修を行っています。この研修はアーカンソー大学英語学習センターでの授業、ホームステイ体験、カンパセーションパートナーとの交流、豊かな自然環境の中での野外活動等、様々な体験を通して実践的な生きた英語を学びます。



平成26年度研修の様子(2015年3月)

韓国慶尚大学校との連携による夏期研修

約10日間にわたり慶尚大学校(慶尚南道晋州市)において、韓国語の初歩を学ぶとともに、文化講座、見学旅行、慶尚大学校学生との交流を通じて韓国の文化・社会・歴史などに触れ、日韓両国の相互理解を深めます。また、研修前半では首都ソウルに滞在し、地方との文化比較体験も行います。



平成26年度研修の様子(2014年8月)

交流協定締結校(部局間交流協定を含む)

2015.7.1現在

大学等名	国名	協定締結日	大学等名	国名	協定締結日
セントラル・ワシントン大学	アメリカ	1982.3.26	釜山大学校工科大学	韓国	2014.11.4
ケント州立大学	〃	1982.8.31	釜慶大学校自然科学大学	〃	2015.1.16
カリフォルニア大学デイビス校	〃	1986.2.11	ジャン・ムーラン・リヨン第3大学	フランス	1990.11.24
アーカンソー大学	〃	1993.3.1	オルレアン大学	〃	2002.7.12
コロラド・デンバー大学医学部	〃	2006.2.23	トリバン大学	ネパール	1991.12.8
テキサス大学ダラス校	〃	2007.8.10	アングラス大学	インドネシア	1997.5.6
アリゾナ大学	〃	2010.5.26	ハサスディン大学	〃	2013.12.17
テキサス大学タイラー校	〃	2012.10.17	モンゴル科学技術大学	モンゴル	1999.3.24
フロリダ大学	〃	2014.8.4	モンゴル健康科学大学	〃	2002.10.4
東北林業大学	中国	1989.12.28	リンショーピン大学	スウェーデン	2005.4.21
南京林業大学	〃	1993.4.15	ルド大学プライマリーヘルスケア研究センター	〃	2014.4.28
中国農業大学	〃	1996.12.29	ハノイ医科大学	ベトナム	2005.10.17
寧夏大学	〃	1997.8.18	トリア大学	ドイツ	2008.11.20
北京林業大学	〃	1997.8.23	マヒドン大学シリラジ病院	タイ	2011.2.2
吉林大学	〃	1999.2.1	コンケン大学	〃	2014.4.10
河北師範大学	〃	2002.7.29	タマサート大学	〃	2014.9.2
大連大学	〃	2003.6.30	キングモンクツ工科大学トンブリ校	〃	2014.9.2
寧夏医科大学	〃	2004.2.27	プリンセス・チュラボン・カレッジ、バトゥムタニ	〃	2014.9.2
北京師範大学	〃	2004.3.18	はなまる日本語学校	〃	2014.9.2
中国人民大学経済学院	〃	2005.4.14	ダッカ大学	バングラデシュ	2011.4.12
山東大学	〃	2005.7.20	セメイ国立医科大学	カザフスタン	2013.1.28
浙江大学教育学院	〃	2006.3.31	アワサ大学	エチオピア	2013.9.7
東北師範大学	〃	2012.11.22	インド科学大学	インド	2013.11.5
大連理工学数学科学学院	〃	2014.2.10	バナラスヒンドゥー大学	〃	2015.5.1
北京農学院	〃	2014.5.14	台湾国立交通大学総合科学センター	台湾	2014.1.23
閩南師範大学	〃	2014.9.12	国立台湾師範大学生命科学系	〃	2014.11.13
北京大學歴史学部	〃	2015.3.23	国立台湾大学分子イメー징センター	〃	2015.2.12
西北農林科技大学	〃	2015.5.22	開南大学	〃	2015.2.12
釜山教育大学校	韓国	1990.3.23	ワイカト工科大学	ニュージーランド	2014.2.5
慶尚大学校	〃	1991.3.5	JAMK応用科学大学	フィンランド	2014.2.13
慶北大学校	〃	1991.3.6	ペラデニア大学	スリランカ	2014.3.25
釜山大学校自然科学大学	〃	2013.12.2	スリランカラジャラータ大学	〃	2015.5.14
全北大学校	〃	2013.12.5	エクセター大学	イギリス	2014.4.4



国際交流センター

国際交流センターは、その前身である1998年開設の留学生センターの成果を受け継ぎ、2006年より多くの関係者のご協力を得て島根大学の国際交流事業を推進しています。本センターでは、島根大学憲章の精神に基づき、グローバル人材育成を目指して国際的に通用する人材を養う講義を行うとともに、海外の66の協定校や地域のコミュニティと連携しながら次のような重点施策を推進しています。

1. 島根大学の重点教育研究分野において海外の先進大学群との戦略的ネットワークの構築
 2. 島根大学から派遣する学生数や研究者数の増加
 3. 海外からの留学生や研究者の受け入れ体制の強化
- 島根大学の学生や留学生の皆さんが、気軽に相談できるセンターを目指します。



島根大学・寧夏大学国際共同研究所

1987年、本学の教員が外国人として初めて中国寧夏回族自治区南部山区に入り学術調査を行い、それがきっかけになり、本学と寧夏大学との研究交流に発展しました。研究交流開始10周年にあたる1997年には、両大学間で交流協定が締結されました。2004年に両大学間で長年続けてきた研究交流を本格的に発展させるとともに、人材育成事業に協力するため、寧夏大学キャンパス内に島根大学・寧夏大学国際共同研究所を設置し、2005年に建物が完成しました。当研究所では、都市と農村との地域間格差問題、中山間地域(条件不利地域)の活性化、開発と環境問題などを主テーマとして共同研究を行い、これまで12回にわたって学際的な国際セミナーを重ね、最近では2014年11月に、10周年記念行事とともに日中国際セミナーを島根大学で開催しました。セミナーでは、報告数と報告者の範囲が年々拡大していますが、今後はとくに自然科学系・技術系の研究者がより多く参加することで、その議論も深まり一層実り多いものとなるよう期待しています。また2013年には日本文化をより広く知ってもらうため、島根大学教職員・島根県民から寄贈された図書を寧夏大学に寄贈し、研究所内に図書館を開設しました。

島根大学は、今後も当研究所での研究成果を世界に発信するとともに、国際交流と人材育成を積極的に展開し、当研究所を中国・西部地域研究の学術ネットワークの拠点として活用していく予定です。



研究所の業務内容

- 研究事業(主なテーマ)
 - 「日中条件不利地域、とくに農村地域の持続可能な発展に関する研究」
 - 「気候変動緩和対策と持続可能な畜産・食料生産に関する研究」
 - 「日中両国の社会経済の変容への対応と伝統文化の維持発展に関する研究」
 - 「島根大学型環境教育システムの中国への移転と教育人材の養成(プロジェクト)」
- 学術交流、文化交流、国際学術セミナー・シンポジウムの開催(日本・中国)
- 図書館資料の蓄積と提供、島根大学への留学希望者に対する情報提供
- 島根県、松江市等の国際交流事業への協力



学問の自由と人権の尊重、 社会の信頼に応える大学運営

教育研究環境の向上・充実を図るために、教員組織と事務組織その他全ての職員組織を有機的に機能させ、大学においては学生へのサービス体制と教育研究、附属病院においては教育研究及び医療を重視した管理運営を目指します。このため、本学独自の多角的な自己点検・評価及び外部評価を活用し、学長のリーダーシップと補佐体制の充実による企画・立案機能の向上と迅速かつ合理的に目標や計画の実行が可能となる管理運営組織を構築するとともに、その責任体制を明確にします。また、教職員・学生の声が反映され、透明性のある管理運営を行うとともに、教職員にとって働きがいのある職場環境の充実を図ります。

教職員・学生みんなの「声」が創る島根大学

島根大学では、学生の現状を把握し、彼や彼女らの声を掬い上げ、教育改善を図るべく、入学時アンケート、初年次教育ポストアンケート、授業評価アンケート、卒業生・修了生アンケートを教学企画IR室と教育開発センター中心に実施しています。各アンケートの結果は、教員にフィードバックされ、授業を改善する際の基盤として位置づけられます。

FD・SD(大学教職員の能力向上・資質開発)は、従来の大学教育の中で質の高い活動を行っていくと同時に、大学の概念にとらわれずに地域の様々な方との関わりの中で意見交換を行っています。さらにより質の高い教育を実施するためには、学びの主体となる学生の意見も重要です。授業評価アンケートでは、個々の教員が学生の声を教育改善に反映しやすいシステムを整えました。また、先輩学生が後輩をサポートする様々なピアサポートプログラムも展開しています。

このように島根大学では、学生の声や教職員の協働をもとに、よりよい大学環境づくりを邁進しています。



大学と地域を結ぶソーシャルラーニング

島根大学では、平成24年度から、文部科学省「大学間連携共同教育推進事業」の採択事業である「大学と地域社会を結ぶ大学間連携ソーシャルラーニング」に取り組んでいます。この取り組みは、代表校である本学の他に、連携校として鳥根県立大学・鳥取環境大学・鳥根県立大学短期大学部・鳥取短期大学、協力校として米子高等専門学校・松江高等専門学校という山陰地域の高等教育機関が参加して、地域社会の方々との共同で学生を育成していくものです。

本取り組みでは、「ソーシャルラーニングポリシー」という教育目標を設定しています。それは「山陰地域をフィールドに、その豊かな自然・歴史・産業・文化的資産を活かし、地域社会と高等教育機関が協働して「主体性」、「コミュニケーション能力」、「イノベーション基礎力」を備えた人材の育成を行う」というものです。この目標に向かって大学と地域が連携して教育を行っていきます。

「ソーシャルラーニング」とは、ここでは社会での活動を通じて学びあうことを指します。教室で学ぶという従来の大学での授業スタイルに加えて、学生は、地域社会に飛び出していくことで、様々な学びの体験をすることになります。



ワークライフバランスの実現



冊子「育児するお父さんへのエール」



コートタイプのマタニティ白衣



医学部附属病院「うさぎ保育所」

島根大学では、構成員の職場環境を整備し、組織を最大限に機能させることにより、教育研究環境の向上・充実を図っています。

男女共同参画推進室では、ホームページやメールマガジン等を通じた妊娠、出産、育児及び介護に関する支援制度の紹介や、育児休業を取得したことがある男性職員による子育てに関するコラム集「育児するお父さんへのエール」の配付、また、講演会等の意識啓発事業を行っています。

平成25年1月には、島根県では6例目となる「子育てサポート企業」(国が認定する子育て支援に取り組む企業・団体)として認定され、認定マーク「くるみん」を取得しました。

また、出雲キャンパスでは「病児・病後児保育」、公設の学童保育終了時刻後に保育者の勤務終了まで子どもを預かる「学童一時保育」の実施、並びに就学前の子どもを預かる院内保育所の設置等の保育支援を行っています。

平成25年度末、医学部全教職員を対象とした学童一時保育に関するアンケートの集計結果を踏まえ、平成27年1月より利用要項を改正し、利用時間の延長、希望者への夕食の提供、院内保育所の入所定員の増員を行いさらなる利便性向上に努め、出産後の職場復帰に寄与しています。

また、「病児・病後児保育」については、要項の改正を行い利用者枠の空きがあれば、学外の利用も受け付け、市民への子育て支援も併せて行っています。

医学部附属病院では、平成19年3月に女性医師・全ての医療従事者が安心して働くことができる病院として「働きやすい病院評価」の認証を国立大学病院として初めて受け、平成24年3月に認証の更新が認められました。また、病院の診療支援施設に「ワークライフバランス支援室」を設置し、働きやすく学びやすい医学部・附属病院を目指すために、「ワークライフバランス支援室相談室」を新設し、様々な事業に取り組んでいます。例えば、本学職員の要望から産学共同で「コートタイプのマタニティ白衣」を開発し、教職員・学生へのマタニティ白衣のレンタル事業を行う等多様なライフスタイルに適したキャリア継続支援を行っています。また、メンタルヘルスにも配慮した対応を心掛けるとともに、平成26年度に実施した職員満足度アンケート調査を平成27年度からは、年2回実施し、アンケート結果等を考慮し、ソフトとハードの両面から職場環境を改善し、キャリアプランを実現できるようバックアップをしています。仕事と家庭の両立支援相談や、職場環境改善のご意見・ご要望等も受け付けています。

市民パスポート会員制度

島根大学では、生涯学習社会に対応して教育・研究の成果を広く社会に公開してきました。平成26年度からは、「地(知)の大学」として、さらに充実した生涯学習を提供するために『市民パスポート会員制度』を新設しました。この制度は年会費5,000円でどなたでも入会することが可能です。「広報しまだい」の送付や大学施設の利用、島根大学の様々な活動に参加が可能など、多くの特典を用意していますが、一番の魅力は「公開講座」の一部や「公開授業」を無料で受講できることです。このようなサービスを提供することで、市民の皆さまに生涯現役として「知る」という楽しみを感じていただいています。



平成26年4月に完成した学生市民交流ハウス

法文学部 人文社会科学研究科

Faculty of Law and Literature
Graduate School of Humanities and Social Science

人を知り、人を創る

私たちは、他者との関わりのなかで自己という存在を強く意識しひとから人へと成長していきます。人を知り、人を創る技を磨くことが、社会を、国家を、世界を知ることにつながっていくのです。全国屈指の少人数教育に情報技術や国際交流を取り入れた法文学部をステップとして、世界へ、人間探求へと飛躍してください。



■ 法文学部ホームページ
<http://www.hobun.shimane-u.ac.jp/>



法経学科

法経学科では、経済学と法学の両面から社会について学び、民間企業の法務・金融担当者や司法書士、行政書士等の法律経済関係の専門、一般職に就く人を育成するだけでなく、法科大学院やビジネススクール、研究者養成大学院等に進学する人を育成します。また地域には、環境、少子高齢化、地方分権、中山間地域、地域振興等、解決すべき課題が山積みしています。これらの課題の解決に必要とされる法学・経済学の基礎的な知識と応用力を身につけ、分析能力・政策立案能力や問題処理能力を養うことによって、国・地方公共団体等の行政部門やNPOで活躍できる人を育成します。



社会文化学科

社会文化学科は現代社会・歴史と考古・福祉社会の3つのコースに分かれています。所属コースは、1年生の後期に決定されます。

現代社会コース

人間と環境、地域と人間の相互関係、地域社会の構造や機能、文化の特徴等を体系的に理解する視点を養います。座学中心の講義や演習に加えて、実験や観察、社会調査やフィールドワーク等の実習教育を重視し、データ収集と分析技法を身につけた人を育てます。

歴史と考古コース

歴史学では日本史・東洋史・西洋史・現代史について、考古学では日本列島を含めた東アジアを対象に、それぞれ専門的に教授し、理論と実地調査への認識を培っています。学生研究室は、学生自身が自主的に運営しており、分野・時代ごとの自主ゼミが開設されるほか、研修旅行も毎年企画しています。

福祉社会コース

現代社会の重要テーマである社会福祉の問題に取り組み、地域社会に貢献できる人の育成を目指します。講義や演習に加え、福祉現場での実習を通して社会福祉の全体像を学ぶことができます。本コースでは所定の科目を履修すれば、社会福祉士国家試験の受験資格が取得できます。



言語文化学科

言語文化学科では、東洋・西洋の言語文化について古代から現代まで幅広く学ぶことができます。学生の皆さんは2年生以降、所属する分野を自由に選び、自分が興味を持つ事柄を深く学びながら、言語文化を理解する方法を習得し、論理的に思考を表現する力を身につけ、語学力を高めています。

日本・東アジア言語文化分野

日本語学・日本文学の分野では、古代から現代に至るまでの日本語と、それによって生み出された文学について幅広く学ぶことができます。中国語学・中国文学の分野では、遠く神話、甲骨文字の時代から、現在活躍中の中国作家の作品に至るまで、広く研究することができます。

英米・ヨーロッパ言語文化分野

イギリスとアメリカ、及びドイツ・フランス語圏の言語、文学、文化の研究を通して幅広い視野、分析力を身につけます。また、様々な演習の授業を通じて各言語の読解力とコミュニケーション能力を高めます。異文化交流に積極的な学生が多く、毎年何人も語学研修や海外留学に出かけています。

文化の創造と理解分野

人が生み出したものを理解し、その理解をもとにしてさらに創造する—この分野では、継承・衝突・創造が繰り返す人間の文化活動を研究の対象にします。また、芸術・文学・映画・音楽などの作品にも実際に触れながら、文化理解のための技術を習得していきます。



大学院

人文社会科学研究科

- 法経専攻 (法政コース・地域経済コース)
- 言語・社会文化専攻 (言語文化コース・社会文化コース)

入学した大学院生は、各自の研究課題や修了後に目指す進路に応じた4コース(法政コース、地域経済コース、言語文化コース、社会文化コース)のいずれかに属し研究のスキルを磨き、各分野の高度な専門的知識と技法を習得します。さらに、学際的・国際的な研究を通じて、総合的実践的能力を育むことも目指します。

■ 人文社会科学研究科HP <http://www.hobun.shimane-u.ac.jp/jinbun/>

教育学部 教育学研究科

Faculty of Education
Graduate School of Education

体験が育む、プロの教育実践力

山陰地域唯一の教員養成専門学部です。21世紀の教育改革をリードし、地域の教育課題の解明と解決に積極的に取り組むとともに、1000時間体験学修等の独自の教師教育プログラムにより、教職への限らない情熱と様々な教育的課題に対応できる優れた教育実践力を備えた教員の養成を目指します。



■ 教育学部ホームページ
<http://www.edu.shimane-u.ac.jp/>

教育学研究科

教育実践開発専攻

教育内容開発専攻

教育学部

学校教育課程

- 初等教育開発専攻 ○特別支援教育専攻 ○言語教育専攻
- 共生社会教育専攻 ○数理基礎教育専攻
- 自然環境教育専攻 ○人間生活環境教育専攻
- 健康・スポーツ教育専攻 ○音楽教育専攻
- 美術教育専攻 ○臨床心理特別副専攻

初等教育開発専攻

現代社会における教育の使命を考えながら、確かな知識(理論)をもとに実践に取り組む資質・能力を備えた小学校の教員を養成します。理論と実践との往還を通して、よりよい授業や学級経営、学校経営を志向し続ける高度な専門性を獲得できます。

特別支援教育専攻

学習や生活上の困難を抱えた心身に障がいのある幼児・児童・生徒等を対象とする指導の基礎となる知識や教育実践力を身につけた教員の養成を目指します。

共生社会教育専攻

教職に関する基礎的学力はもちろん、歴史学、地理学、哲学・倫理学、社会学、社会科教育学等の専門分野に立脚した教科内容の研究能力を育成し、社会科系諸教科の素養を養います。

言語教育専攻

<国語教育コース>

日本語学、古典文学、近代文学、漢文学、書写・書道、国語科教育学の6分野で専門の授業を行い、教員・社会人に相応しい実践的な国語力やコミュニケーション能力を修得していきます。

<英語教育コース>

英語教育の理論と実践を学ぶのはもちろん、英米文学の原典を読んでその真髄に触れたり、また会話や作文を通しての英語運用能力向上にも力を入れています。

人間生活環境教育専攻

家政教育(衣・食・住)、幼児教育、技術教育(ものづくり・栽培・情報)などの人間が生活していく上で基本となる知識を身につけます。さらに、それぞれの領域において、専門知識を身につけるとともに、実習によって実践力を備えた教員を養成することを目指しています。

数理基礎教育専攻

計算や数式・図形を理解・操作する能力及び論理的思考力を身につけ、数学について深く理解し、問題や課題を見つけて教材化する力を持ち、的確な指導と説明のできる教員の養成を目指します。

自然環境教育専攻

理科教員に必要な自然科学に関する基礎的知識・技能や探究方法を身につけるとともに、子どもの知的好奇心を刺激し、自然を探究する楽しさを伝えることができる指導法や教材開発について学びます。

美術教育専攻

基礎的な造形能力や美術教育理論を習得する授業と、それらの専門性を深める授業、さらには豊富な臨床的教育体験等でカリキュラムを構成し、造形と美術教育の理論及び実践的能力を身につけた教員の養成を目指します。

健康・スポーツ教育専攻

保健体育の理論や実践力を身につけるとともに、地域の子どもの対象にした様々なスポーツ活動支援を通して、子どもの理解を深め、発達段階に応じた適切な指導が行える専門的能力を育成します。

音楽教育専攻

声楽、ピアノ、管弦打楽器、作曲、音楽教育学の各分野のうち、専科として1つの分野の専門性を深めるとともに、副科として幅広い分野を学ぶことができます。また、授業を通して学外での音楽教育活動を積極的に行い、実践力を備えた音楽教員の養成を目指します。

臨床心理特別副専攻

臨床心理学の多様な技法と理論をベースに、児童生徒の心理を深く理解できる優れた専門性をもつ教員になれるよう、学びます。また、大学院に進学し、臨床心理士資格の取得を目指すこともできます。

大学院

教育学研究科

●教育実践開発専攻 ●教育内容開発専攻

急速に国際化、情報化が進展する現代社会において、新時代を担うべき優れた教員を養成することが重要課題となっています。本研究科は、「スクール・リーダー」となる高度な資質を有する学校教員の養成を目的とし、山陰地域における教員養成基幹大学院として現職教員及び学部卒業生の双方を対象に高度な専門性に裏打ちされた、地域の教育界を担う人材の育成を目指しています。そのために、学校教育現場における学校教育研究、授業研究の力を養成する「教育実践研究」科目を開設するなど、学部教育のカリキュラムとの有機的関連性を重視しています。また、教職経験3年以上の現職教員を対象に、通常の2年課程に代る「1年短期履修コース」を設置し、教育課程・教育方法等に特段の措置を講じることで現職教員が自ら求める専門職性の向上に努めています。

■ 教育学研究科HP http://www.edu.shimane-u.ac.jp/gakubu_daigakuin/

医学部 医学系研究科

Faculty of Medicine
Graduate School of Medical Research

次世代を担う医療人の育成と 先進医療の地域への還元

生命の尊厳と患者の権利・人格の尊重を教育の理念とし、
広い教養と高い倫理観、科学的な探求心と総合的な判断能力を身につけ、
時代の要請に応じて社会に貢献する医師・看護師を養成することを目指しています。



■ 医学部ホームページ
<http://www.med.shimane-u.ac.jp/>

医学系研究科 (博士課程)

医科学専攻

研究者育成コース
高度臨床医育成コース
地域がん専門医育成コース
総合診療医指導者育成コース
(医理工農連携教育プログラム)

医学系研究科(修士課程) 看護学専攻

看護援助学コース
看護管理学コース
母子看護学コース
成人看護学コース
地域在宅看護学コース
高齢者看護学コース
老人看護CNSコース

医学系研究科(修士課程) 医科学専攻

総合医科学コース がん専門薬剤師養成コース
地域医療支援コーディネータ養成コース
医療シミュレータ教育指導者養成コース
(医理工農連携教育プログラム)
地域包括ケア人材養成コース(医療経営重点)

医学部

医学科(6年)

医学部

看護学科(4年)

看護師
保健師
助産師(選択)
看護教諭1種(選択)

医学科

一般入試、推薦入試の他、地域枠推薦入試、緊急医師確保対策枠入試、学士編入を行い、多彩な人材を募集しています。入学後は、豊富な教養科目により豊かな創造力・幅広く柔軟な思考能力・高いコミュニケーション能力を培うとともに、医療の現場体験ができる早期医学体験実習、実習が充実した基礎医学科目、チュートリアル教育を取り入れた臨床医学科目を通して、高度な専門医学知識・医療技術を学びます。臨床実習は、医学部附属病院の他、大田総合医育成センターや県内の45医療施設を選択して行い、実践的な臨床能力を培います。地域医学を学習できる機会が多いことも特徴です。

また、国際的な場で活躍できるべく徹底した医学英語の習得、先進医療の体験や学習、海外医療施設での実習の機会も用意しています。



看護学科

医療の高度化が急速に進展する一方、超高齢社会の到来によって、人々の看護に対するニーズはますます増大し、多様化してきています。

看護学科ではこうした社会の要請に応え、医療機関であれ地域であれ、一人ひとりの健康ニーズを的確に把握し、適切に援助していくことのできる専門性の高い有能な看護職の養成を目指しています。

課題を論理的に分析し解決していく問題解決能力や、科学的根拠に基づいて援助を実践する能力、ケアの対象者との信頼関係を構築する対人関係能力など、総合的な看護実践能力の基礎を身につけられるように、少人数による課題解決型の演習や、島根大学医学部附属病院や保健所、社会福祉施設等での実践を通して学ぶ臨地実習、ゼミ形式の卒業研究など、多様な方法と場を設定した教育に力を注いでいます。



大学院

医学系研究科

《博士課程》● 医科学専攻(研究者育成コース 高度臨床医育成コース
地域がん専門医育成コース 総合診療医指導者育成コース)

《修士課程》● 医科学専攻(総合医科学コース がん専門薬剤師養成コース 地域医療支援コーディネータ養成コース
医療シミュレータ教育指導者養成コース 地域包括ケア人材養成コース(医療経営重点))

● 看護学専攻(看護援助学コース 看護管理学コース 母子看護学コース
成人看護学コース 地域在宅看護学コース 高齢者看護学コース 老人看護CNSコース)

医学及び看護学の発展と人類の福祉の向上に寄与するため、医学及び看護学に関する学術の理論とその幅広い応用を教授研究します。医学分野では、研究者として自立して研究活動を行うのに必要な高度の研究能力とその基礎となる豊かな学識を備えた研究者を養成し、同様に優れた研究能力と応用力を有する臨床医・腫瘍専門医、高度職業人を育成します。看護学分野では、広い視野に立って精深な学識を授け、看護学における研究能力や高度の専門性を要する職業等に必要能力と、豊かな人間性を備えた研究者、高度専門職業人を養成します。

■ 医学系研究科HP <http://www.med.shimane-u.ac.jp/graduate/index.html>

医学部附属病院

University Hospital

理念『地域医療と先進医療が調和する大学病院』

目標

- 患者さん中心の全人的医療の実践
- 人間性豊かな思いやりのある医療人の育成
- 地域医療人との連携を重視した医療の提供
- 地域社会に還元できる研究の推進



■島根大学医学部附属病院ホームページ
<http://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/index.html>

県内唯一の大学病院として医療人養成、高度医療提供、臨床研究を推進しています。医療人育成のための島根プログラムは全国でも高く評価されています。がん医療では、都道府県がん診療拠点病院として高度で先進的ながん医療を実施しています。病院機能評価は元より、卒後臨床研修評価、プライマシーマーク等の認証を受け質の確保に努めています。大学病院初の「働きやすい病院機能評価」、附属病院として全国初のISO14001(環境マネジメント)も取得するなど、ワークライフバランスを重視しています。2013年3月末に既設病棟・外来棟・中央診療棟の改修も終了し、2013年8月には「みらい棟」が完成し、「卒後臨床研修センター」「しまね地域医療支援センター」等が入り、島根県の医療を担う若手医師の養成拠点としての役割を果たしています。

手術支援ロボット「ダ・ヴィンチ」

「ダ・ヴィンチ」とは体腔鏡下3次元画像で遠隔操作手術を行うもので、ロボットアームの関節が人の動きを超えた可動域を持ち、精緻な動作が可能な手術支援ロボットです。島根県内では本院が唯一の導入施設で、現在は週1回のペースで前立腺全摘除術を行っています。膀胱全摘除術、腎部分切除術へと適応を拡大し、消化器外科、婦人科の手術もダ・ヴィンチを用いて実施しています。



「働きやすい病院評価」「ISO9001(本院薬剤部)」 「病院機能評価(3rdG:Ver.1.0)」

平成19年3月に、女性医師・すべての医療従事者が安心して働くことができる病院として「働きやすい病院評価」の認証を受け、また、平成25年3月には、病院の現状を様々な角度から確認し、基準を満たした病院として「病院機能評価(3rdG:Ver.1.0)」、平成25年11月には、本院薬剤部が、品質マネジメントを評価する「ISO9001」の認定を受けました。



クリニカルスキルアップセンター

本センターは、体系的カリキュラムのもとに医療技能訓練を行うことで、優れた技術を備えた医療人を育成するために平成21年度に開設されました。模擬ICUにシムマンなど高度な機能を持つシミュレータ機器を多数揃え専任講師による研修を常時行っています。また、隣接する内視鏡手術トレーニングセンターには、ダ・ヴィンチ、内視鏡手術のシミュレータを設置しており、学生から若手医師まで、内視鏡手術のトレーニングが可能となっています。



病児・病後児保育室「ニコニコうさぎ」

職員の職場環境改善の一環として、院内保育所「うさぎ保育所」を開設しています。院内保育所と同じ施設内では病児・病後児保育室「ニコニコうさぎ」を開設し、保育環境の充実にも努めています。出雲市民の子どもさんにも開放しています。



ちょっと気になる健康講座

病院1階待合ホールで毎週1回(原則木曜日)、各診療科の医師等がそれぞれの分野での、日常生活における「ちょっと気になる」健康や医療に関する内容をお話しています。この度、健康講座の内容を冊子にまとめて地元の出版社から発刊し、患者さんをはじめ県民の皆さまに健康維持のポイントなどを紹介しています。



「B型肝炎ウイルス再活性化」の予防を目的としたシステム

化学療法の影響等で免疫力が低下すると、B型肝炎が治癒した状態でも「B型肝炎ウイルスの再活性化」を引き起こすことがあります。本院ではこの再活性化を防止するため、医師が電子カルテ上で化学療法の治療計画の指示を出す際に、当該患者さんの検査結果等に応じて、ガイドラインに基づいた必要な処置を促すシステムを構築しています。

先進医療への取り組みについて

- 平成27年7月現在、下記の先進医療に取り組んでいます。
- 培養細胞による脂肪酸代謝異常症または有機酸代謝異常症の診断
 - IL28Bの遺伝子診断によるインターフェロン治療効果の予測評価
C型慢性肝炎(インターフェロン・リパビリン併用療法による効果が見込まれるものに限る。)
 - EBウイルス感染症迅速診断(リアルタイムPCR法)
 - CYP2C19遺伝子多型検査に基づくテラレーメイドのヘリコバクター・ピロリ除菌療法
 - コレステロール塞栓症に対する血液浄化療法
 - LDLアフェレシス療法

総合理工学部 総合理工学研究科

Interdisciplinary Faculty of Science and Engineering
Interdisciplinary Graduate School of Science and Engineering

科学・技術が創る人間の未来

最新の手法を駆使して自然科学を解明しようとする理学系分野と、
未来の最先端科学技術を担う工学系分野が、既存の学問分野の枠を越えて
1つの学部で総合、融合、一体化した全国的にもユニークな学部のひとつです。
素粒子サイズから地球サイズまで、様々な対象を科学的に捉え、
基礎理論から先端技術への応用まで幅広く扱う学際的教育・研究システムを特色としています。



■ 総合理工学部ホームページ
<http://shimane-riko.jp/>

総合理工学 研究科 (博士後期課程)

総合理工学専攻

- 理工学際創成コース
- 数理・物質創成科学コース
- 地球科学・地球環境コース
- 機械電子情報工学コース

総合理工学研究科 (博士前期課程)

総合理工学専攻

- 理工・医連携コース
- 物質・材料科学コース
- 物質化学コース
- 地球資源環境学コース
- 数理学コース
- 情報システム学コース
- 機械・電気電子工学コース
- 建築・生産設計工学コース

総合理工学部

- 物質科学科
- 地球資源環境学科
- 数理・情報システム学科
- 機械・電気電子工学科
- 建築・生産設計工学科

物質科学科

物理分野

物理分野では、素粒子論から新素材開発まで、物質に関する幅広い教育・研究を行っています。物理学、材料科学に関する専門知識、技術、研究能力を持ち、物質科学の発展に寄与できる技術者、研究者の育成を目指します。教育プログラム「物理系コース」は、JABEEの認定を受けています。

化学分野

化学分野は、化学の基礎から応用まで深く学びたい人、新機能を持つ物質を研究したい人、応用技術を修得したい人のための教育を提供します。JABEE対応の教育プログラムに基づいた技術者養成を目指す「機能材料化学コース」、幅広い知識を基に多分野で活躍できる人材育成を目指す「基礎化学コース」があります。

地球資源環境学科

地球資源環境学科は、地球物質システム学、環境地質学、自然災害工学の3教育分野からなり、地質学をベースとして、地球のなりたちや天然資源、自然災害工学等について総合的に教育・研究しています。本学科では、JABEE認定の技術者教育プログラムを実施し、また野外実習や実験を重視したカリキュラムを組んでいます。

数理・情報システム学科

数理分野

数理分野は、数理構造と数理解析の2コースから構成されます。1年次には数学と情報の基礎を、2年次以降に数理系の専門科目を学びます。数学の学習を通じて、論理的な思考力や柔軟な発想力、適切な判断力、そして豊かな表現力を持ち合わせた、教育を含む諸分野で指導的役割を果たせる人材を育成します。

情報分野

情報分野では情報システムコースと情報工学コースの2コースから構成されています。1年次に数学と情報の基礎を学び、2年次以降は主に情報工学に関連する専門科目を学びます。ソフトウェアやハードウェアの研究開発を通じて、国際的に通用する技術や幅広い見識を持ち合わせた人材の育成を行っています。

機械・電気電子工学科

機械・電気電子工学科は、機械工学、電気工学及び電子工学の3分野を融合した学科です。これらの分野の核心的基礎を幅広く学習した上で、さらに1分野について、より応用的・専門的な科目を深く学ぶことによって、激動の21世紀で活躍できる高い専門性を持った技術者の育成を目指しています。

建築・生産設計工学科

建築・生産設計工学科は、健康で快適な生活と、資源循環型社会の実現のために材料設計、プロセス設計(生産プロセス設計・循環プロセス設計)、製品設計(建築設計・機械設計)の全般に対応できる、広い知識と独創性を兼ね備えた人材の育成を目指して、JABEE認定を受けたコースを含め教育を行っています。

理工特別コース

「理工特別コース」は既存の5学科7分野を横断する総合理工学部の学部共通教育コースです。それぞれの学科・分野の教育活動と共同しながら、学科の枠を超えて学部の全教員の協力を得て学生の教育に当たります。AO入試の合格者及び各学科への入学から選ばれた優秀な学生に対し、1~2年次の連続したアクティブ・ラーニングセミナーと3年次の早期研究室配属を通して、入学時から継続的に理工系分野の研究面への興味・意欲、国際的視野を育む教育を行うことが、このコースの特徴です。

大学院

総合理工学研究科

《博士前期課程》■総合理工学専攻

- 理工・医連携コース
- 物理・材料科学コース
- 物質化学コース
- 地球資源環境学コース
- 数理学コース
- 情報システム学コース
- 機械・電気電子工学コース
- 建築・生産設計工学コース

《博士後期課程》■総合理工学専攻

- 理工学際創成コース
- 数理・物質創成科学コース
- 地球科学・地球環境コース
- 機械電子情報工学コース

総合理工学研究科は現代社会の新たな要請に応えるため、博士前期課程と博士後期課程を平成24年度から平成26年度にかけて改組し、それぞれ1専攻8コース、1専攻4コースの教育体制に刷新しました。各コースでは、科学技術の総合化・理工融合という研究科の設置理念に則した教育を進め、新たな科学技術の創造に貢献できる人材を養成します。

本研究科では、既存の研究科の枠を超えた教育研究を推進する博士前期の「理工・医連携コース」と博士後期の「理工学際創成コース」、外国人留学生とともに修学する『英語による「地球」教育研究特別プログラム』を設置するなど、先進的教育を実践しています。

■ 総合理工学研究科HP <http://shimane-riko.jp/graduate/index.html>

生物資源科学部 生物資源科学研究科

Faculty of Life and Environmental Science
Graduate School of Life and Environmental Science

“いのち”あふれる地球を育む

本学部は、「生物、生態、生命、生産、生活を包含するライフを総合的に科学する学部」として、生命現象の基本から、生物資源の育成、利用、開発保全と、それを育む環境に関する広い分野を教育研究の対象としています。一方、島根大学が位置する山陰地域は古い歴史と豊かな自然環境、そして、中山間地での過疎・高齢化などの課題もあります。そこで、本学部では、山陰地域での生物資源の活用、高齢化社会における豊かな農山村の創造につながる取り組みを行っています。

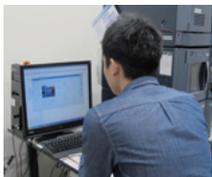


■ 生物資源科学部ホームページ
<http://www.life.shimane-u.ac.jp/>



生物科学科

教育研究対象は、DNAやタンパク質などの分子レベルから、細胞レベル、組織・器官レベル、個体レベル、種レベルにいたる構造（形態）と機能（生理）、時間軸が重要な発生、遺伝、進化など非常に広い範囲にわたっています。これら多様な生物現象の不思議に触れ、解き明かす過程を経験してもらうことにより、論理的思考力、問題解決能力を身につけた社会人として活躍できる人材の育成を目的としています。



生命工学科

ライフサイエンスとバイオテクノロジーに関する幅広い知識と高度な専門技術を学びます。生物学と化学の知識を基盤に、遺伝子操作、生命情報解析、バイオメーキング、有機合成、分子構造解析等の最先端技術・機器を駆使して、微生物・動植物が持つ様々な生命現象の基本的なメカニズムの解明とともに、生物の持つ有用機能を食品・化学・医薬等の生物産業と化学産業に役立てるための教育と研究を行っています。



農林生産学科

農林業生産による豊かな人間生活の実現を目指し、様々な問題を抱える農産物及び林産物に関する持続可能な生産技術、経営・経済、並びに生産環境を取り巻く生態系について教育と研究を行う学科です。豊かな自然環境に恵まれた山陰地域という立地条件を活かしたフィールド学習など幅広いカリキュラムを通して、農林業とそれを取り巻く生態系、地域社会について総合的に学ぶことができます。本学科は、農産物の生産とその品質・安全性など、国内外の農業生産現場が抱えている問題を解決するための理論と方法を学ぶ農業生産学、森林の生態と育成・保全、土壌・水環境、森林資源の林業機械による収穫、バイオマスエネルギー利用、リモートセンシングによる管理、森林に関する政策・経済について学ぶ森林学、植物・昆虫・微生物などが織りなす生命現象とその多面的な価値に注目し、持続可能な農林業と生態系と環境の保全・管理・活用に関する知識と技術を習得できる農林生態科学、国内外の農業・農村を主な対象とし、中山間地域の活性化問題や資源・環境問題、農業経営・市場問題などの社会経済問題を考察し、解決していくための手法について学ぶ農村経済学の4つの教育コースからなり、相互に連携しながら専門性を高める教育と研究を行っています。



地域環境科学科

環境に調和した循環型社会の確立を目指し、土・水・生物等の地域の資源及び環境を適切に調査・評価し、総合的に保全・管理するための知識と技術を習得する学科です。宍道湖・中海や中国山地などの豊かな自然と食糧生産の基盤である農山村地域をフィールドとして、実践的な教育を行います。本学科は、人と自然との共存や生態系の保全を目指し、生物が息づく水・土環境で生じる様々な現象とそのメカニズムを理解するための知識と方法を学習する生態環境科学、資源循環型社会の構築を目指し、地域資源の有効かつ持続的利用のための生態系の保全・修復技術を学習する環境資源工学、地域の豊かな生産環境・生活環境・自然環境を創造・管理・保全するための専門的な基礎学力と技術を、工学的な観点から習得する地域工学[JABEE(日本技術者教育認定機構)コース]の3つの教育コースを提供します。教育コースの決定は、各自の希望を基に、2回生後期開始時に行います。



附属生物資源教育研究センター

森林科学、農業生産科学、海洋生物科学の三部門からなり、島根県の豊かな自然と多様な生物のもたらす恵みを受容して利用するため、県中部及び西部に設けられた演習林、県東部、中部にある実験農場、隠岐の島にある臨海実験施設を活用して、自然への親しみ、実地体験、新たな発見に貢献できる教育研究を行っています。臨海実験施設では、共同利用拠点として学外から実習を受け入れています。

大学院

生物資源科学研究科

● 生物生命科学専攻 ● 農林生産科学専攻 ● 環境資源科学専攻

本研究科では、各専攻それぞれに「課題研究コース」「学術研究コース」「地域産業人育成コース」を設け、各人の志向に応じたカリキュラムの選択を可能にしています。課題研究コースでは多様な高度専門職業人を養成するための、学術研究コースでは連合大学院博士課程への進学等研究者を目指す人材を養成するための、また、地域産業人育成コースでは地域産業において指導的役割を果たす人材を養成するための教育プログラムを提供します。また、セメスター制の採用により秋入学を可能にし、社会人や留学生の利便性の向上をはかっています。講義では研究科共通科目の必修科目として「科学方法論」や「生物資源科学論」を設け、総合科学的な視点を深めるとともに、専攻・コースに応じた研究や演習により、高い独創性と実践力、国際的な対応力を養っています。

■ 生物資源科学研究科HP <http://www.life.shimane-u.ac.jp/daigakuin/index.html>

社会人・未修者の教育へ力を発揮する山陰の法科大学院

島根大学大学院法務研究科(山陰法科大学院)は、地域社会の法化の進展に寄与するとともに、国際化時代にも対応できる、高度な法的思考力と知識を有する専門ジェネラリストとしての法曹の養成を基本理念にしています。

本研究科では、高度で多様な専門知識の修得のみならず、法曹として生涯役立つ法的知性の基礎作り、地域社会の紛争に敢然と立ち向かい解決への道筋を立てる意欲と熱意を育む教育を重視しています。

司法試験に合格した修了生の多くは社会人と未修者で、本研究科の教育実践は2008年度及び2013年度の認証評価において、公益財団法人日弁連法務研究財団が定める法科大学院認証評価基準に適合していると認定されています。

なお、全国的な入学者激減傾向等を踏まえて、2015年度から募集停止を決めざるを得ませんでしたが、在学生全員が修了するまで本研究科は継続して法曹養成教育を行い、他大学との連合法科大学院構想の実現に向けて取り組んでいます。



● 地元弁護士による教育支援

本研究科では、島根・鳥取両県弁護士会に所属する、法科大学院を終了して司法試験に合格された若手の弁護士の方々に法務アカデミック・アドバイザー(AA)に就任していただき、学生に対する課外の教育支援を行っています。AAの方々には、日頃の学生の学習相談、自主ゼミのチューターなど法科大学院での正規の授業を補完する学習支援の活動を担っていただいています。

また、AAのほかに両県弁護士会に所属する弁護士と本研究科の教員が参加する「法曹養成教育研究会」を年に3回開催して、AAによる教育支援・学習支援の活動の報告に基づいて、学生に対する教育内容、方法の改善について意見交換を行って、法曹養成教育の充実を図っています。



● 地域に根ざした法曹養成教育の実践

— 地域法律相談センター

本研究科には、「地域法律相談センター」が設置されています。島根、鳥取両県の住民の皆さまからの無料法律相談(月2回)に実務家教員(弁護士)がお応えするにあたり、相談者の同意を得て学生も参加します。この相談に基づいて、本研究科では実務基礎科目であるリーガルクリニックの授業を展開しています。この相談と授業は、学生にとって、地域において現実に起こっている法律問題を実感することができるのと同時に、相談者とのコミュニケーションの方法を実体験する貴重な機会となっています。



● 地域社会への貢献 — 消費者法律相談、講演活動

本研究科では、例年、島根県消費者センターと連携して、県内各地において、消費者法律相談及び講演活動を行っています。近年、激増している特に高齢者を狙った詐欺事件に対応するために、高齢化率全国1位の島根県において高齢者に対する消費者教育は、社会的に高く要請される課題です。この要請に応えるべく、本研究科では、発足当初より相談、講演活動を県内各地で展開しています。講演活動は研究者教員が担当し、法律相談は実務家教員が担当し、法律相談には学生も参加して、地域に根ざした法曹養成教育を実践しています。

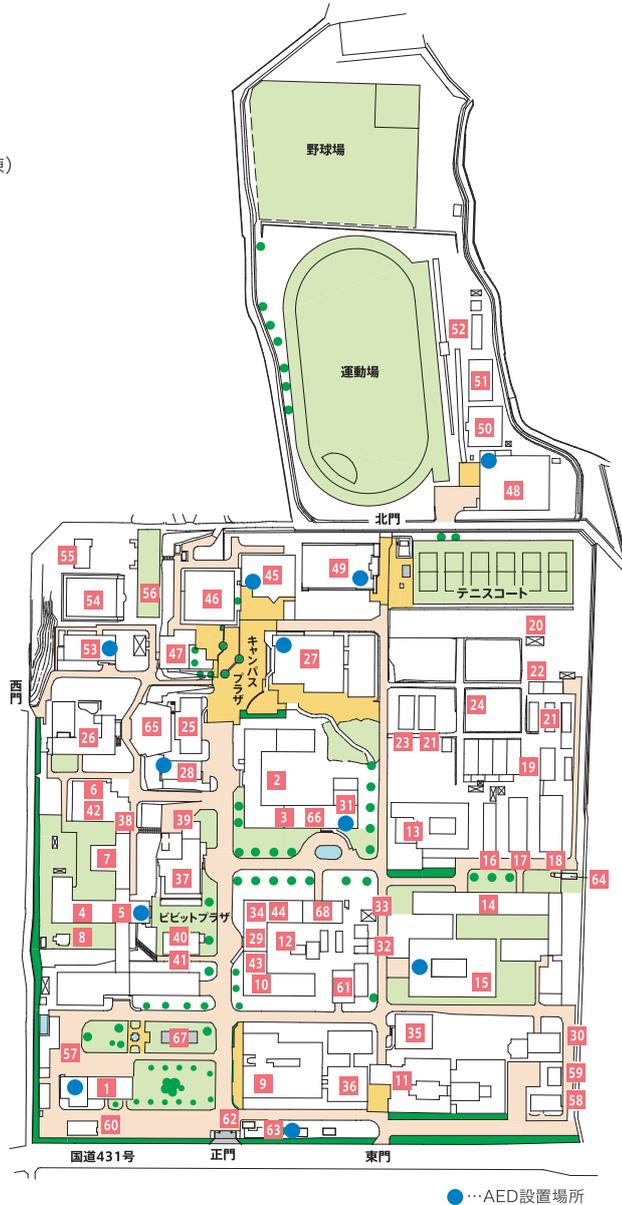
キャンパスマップ

グーグルストリートビューで、松江、出雲の各キャンパス内をご覧ください。

松江キャンパス

〒690-8504 松江市西川津町1060 TEL.0852-32-6100

- | | |
|--|---------------------------------|
| 1 本部棟 | 36 総合理工学部1号館(大学院棟) |
| 2 法文学部棟 | 37 学生センター |
| 3 山陰研究センター | 38 教育開発センター |
| 4 教育学部棟 | 39 入学センター |
| 5 教育学部附属教育支援センター | 40 学生支援センター |
| 6 教育学部附属教師教育研究センター | 41 キャリアセンター |
| 7 教育学部附属FD戦略センター | 42 外国語教育センター |
| 8 光物性実験室 | 43 国際交流センター |
| 9 総合理工学部1号館 | 44 島根大学・寧夏大学
国際共同研究所(島根大学分室) |
| 10 総合理工学部2号館 | 45 学生会館 |
| 11 総合理工学部3号館 | 46 第1食堂 |
| 12 動物飼育室 | 47 第2食堂 |
| 13 生物資源科学部1号館 | 48 第1体育館 |
| 14 生物資源科学部2号館 | 49 第2体育館 |
| 15 生物資源科学部3号館 | 50 トレーニングセンター |
| 16 水利実験室 | 51 武道館 |
| 17 農業機械実験室 | 52 体育器具庫 |
| 18 林産加工場・実験動物飼育施設 | 53 課外活動共用施設 |
| 19 製材加工室 | 54 プール棟 |
| 20 器具庫 | 55 弓道場 |
| 21 温室 | 56 アーチェリー場 |
| 22 動物実験飼育室 | 57 車庫 |
| 23 ガラス棟 | 58 環境安全施設 |
| 24 圃場 | 59 焼却処理施設 |
| 25 教養講義室棟1号館 | 60 特高受変電棟 |
| 26 教養講義室棟2号館 | 61 ボイラー室 |
| 27 附属図書館 | 62 守衛室 |
| 28 保健管理センター | 63 中央監視室 |
| 29 生涯教育推進センター | 64 薬品庫 |
| 30 総合情報処理センター | 65 大学ホール |
| 31 汽水域研究センター | 66 山陰法実務教育研究センター |
| 32 ミュージアム | 67 学生市民交流ハウス |
| 33 古代出雲文化資料調査室 | 68 地域課題学習支援センター |
| 34 男女共同参画推進室 | |
| 35 総合科学研究支援センター
遺伝子機能解析部門
RI実験施設 | |



附属図書館

<http://www.lib.shimane-u.ac.jp/>

附属図書館は、学術情報資源を集積した大学の知の拠点として、学修、教育・研究活動を支援します。



本館(松江キャンパス)

本館は、主に松江キャンパスの学生や教職員に対する図書館サービスを提供する他、地域市民に対しても開放しています。

建物は、入口に近い方から「交流」「学習」「研究」の3つのゾーンに分けられ、奥に進むに従って静かに学習や読書ができるゾーン構成となっています。「交流ゾーン」には、ディスカッションしながら学習できるラーニングcommonsや、PCルーム、新聞・雑誌コーナー、休憩のためのラウンジが設けられています。「学習ゾーン」は、学習用図書と開放的な閲覧席を配置した明るく落ち着いた学習環境を提供しています。「研究ゾーン」は、個人機や個室が設置され、特に一人静かに学習や研究を深めたい人のためのスペースです。この2つのゾーンは、いずれも、学習用図書が配置された閲覧室と研究用資料が配置された開架書庫が有機的に連結され、資料の活用のしやすさに配慮しています。

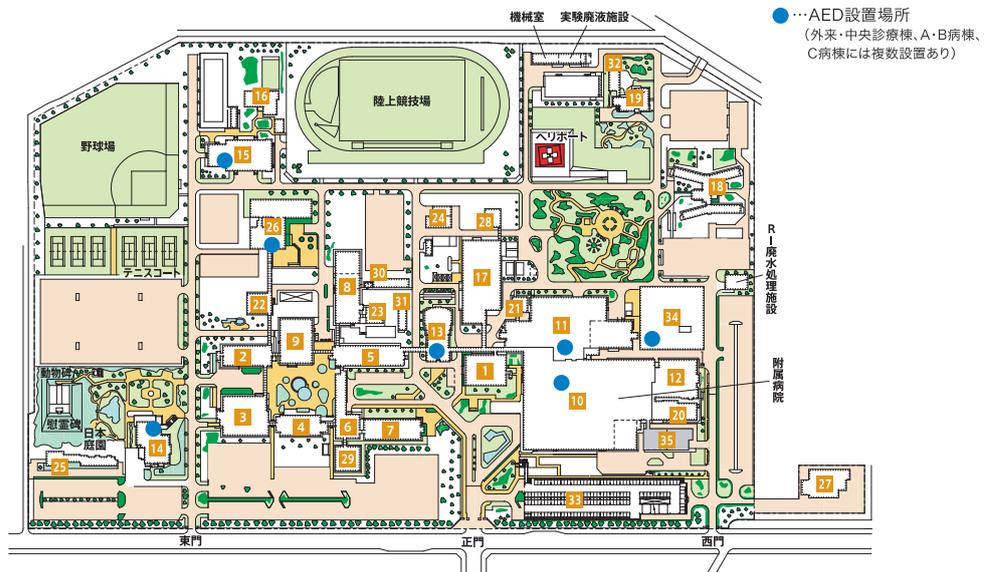
図書約79万4千冊、雑誌約1万2千誌が収蔵されているほか、約1万4千タイトルの電子ジャーナルや文献データベース、デジタルアーカイブのコンテンツなどWeb上で利用できる電子的な情報資源が提供され、無線LANにより館内のほぼどこからでもアクセスできます。

多様な学術情報を適切に使いこなせるように、図書館利用ガイダンスや情報検索講習会を開催して支援をしているほか、学生の図書館コンシェルジュが図書館利用をサポートしています。

キャンパスマップ

出雲キャンパス

〒693-8501 出雲市塩冶町89-1 TEL.0853-23-2111



- | | | |
|-----------------------------|---------------------------|-----------------------------|
| 1 本部棟(医学部) | 13 臨床講義棟 | 23 RI研究棟 |
| 2 講義棟 | 14 学生会館 | 24 塵芥焼却炉室 |
| 3 実習棟 | 14 保健管理センター
(出雲保健センター) | 25 国際交流会館 |
| 4 基礎研究棟 | 14 食堂 | 26 看護学科棟 |
| 5 臨床研究棟 | 15 体育館 | 27 産学連携センター
(地域医学共同研究部門) |
| 6 共同研究棟 | 16 武道館 | 28 特高受変電棟 |
| 7 第二研究棟 | 17 中央機械室 | 29 第二共同研究棟 |
| 8 総合科学研究支援センター
RI・動物実験施設 | 18 看護師宿舎 | 30 第三共同研究棟 |
| 9 医学図書館 | 19 医学部会館 | 31 第四共同研究棟 |
| 10 外来・中央診療棟 | 20 MRI-CT装置棟 | 32 うさぎ保育所 |
| 11 A・B病棟 | 21 病歴室 | 33 立体駐車場 |
| 12 RI高エネルギー棟 | 22 第三研究棟 | 34 C病棟 |
| | | 35 みらい棟 |



附属図書館

<http://www.lib.shimane-u.ac.jp/>

附属図書館は、学術情報資源を集積した大学の知の拠点として、学修・教育・研究活動を支援します。

医学図書館(出雲キャンパス)

医学図書館は出雲キャンパスにあり、医学系専門図書館として、医学部の学生、教職員及び附属病院の医師、看護師、医療職員へ、学修・教育・研究支援のサービスを展開しています。開館時間外入館システムにより、出雲キャンパス所属者は24時間いつでも利用することができます。

資料は図書約13万5千冊、学術雑誌4千誌のほか、ビデオ、DVDも所蔵しています。また、電子ジャーナル、各種文献データベース、Webコンテンツ等を松江キャンパスと同等に提供するほか、医学図書館独自のコンテンツも提供しています。閲覧室には無線LANのアクセスポイントも設置されています。

医学図書館では、学生や教職員の学術情報収集のスキル向上を目指して、オンデマンドによる文献データベース等の検索講習会を数多く開催しています。また、地域貢献として、医学専門資料を所蔵する図書館を一般市民の方にも広く公開しています。さらに、島根県内の医療関係機関等の図書館(室)と連携しながら、関係職員の資質向上や地域医療従事者へのサービス向上にも努めています。



学内施設等

生涯教育推進センター

<http://www.ercll.shimane-u.ac.jp/>



地域の生涯学習の推進と市民の学習機会の拡充のため地域の生涯学習関連機関・団体と連携を図りながら、地域社会の発展に寄与しています。

汽水域研究センター

<http://www.kisuiiki.jp/>



「人間社会とそれを取り巻く自然環境の持続的発展を可能にするための汽水域の保全と利用」を基本理念として、環境変動や生物多様性のメカニズムの解明、資源解析や保全再生に取り組んでいます。

ミュージアム(本館など)

<http://museum.shimane-u.ac.jp/>



永年の教育・研究によって収集・蓄積されてきた標本・資料類等を整理、保管、調査・研究し、展示公開や情報発信を行っています。なお、松江キャンパス内には、このほか山陰地域資料展示室等の展示スペースもあります。

国際交流センター

<http://kokusai.shimane-u.ac.jp/>



島根大学の全学的な国際交流活動の拠点として、市民、行政、産業界等の地域社会と協力し、海外の大学等関係機関との共同研究や留学生の受け入れ、島根大学の学生の海外派遣などを戦略的に推進します。

産学連携センター

<http://www.crc.shimane-u.ac.jp/>



松江地区

産学官連携の拠点として大学の総合的窓口機能を担い、民間等との共同研究、受託研究及び科学技術相談への対応、知的財産に関する相談及び企業・民間の技術者・医療技術者への教育等の業務を行っています。

- 地域産業共同研究部門
- 地域医学共同研究部門
- 連携企画推進部門
- 知的財産創活部門

出雲地区



山陰法実務教育研究センター

島根大学が有する知的資産を有効に活用し山陰地域における法実務教育を行うとともに、そのための教育プログラム及び教育研究体制に関する調査研究を行い、もって山陰地域における法学教育の充実発展に寄与します。

総合情報処理センター

<http://www.ipc.shimane-u.ac.jp/>



総合情報処理センターは、センターに置かれた情報処理システムを整備・運用し、学内外の情報ネットワークとの連携を図ることで、学内の教育・研究などの情報処理のための利用をサポートするとともに、学術情報システム等の開発や人材育成の支援を行っています。

外国語教育センター

<http://cfle.shimane-u.ac.jp/>



外国語教育の計画立案・運営・実施及びその点検評価を組織的に行うほか、外国語教育を通して、地域・社会貢献及び国際貢献に寄与することを目指しています。また、外国語教育センターワークステーションでは、くつろいだ自学自習の空間を提供しています。

サテライトミュージアム(島根大学旧奥谷宿舎)

<http://museum.shimane-u.ac.jp/okudani.html>



1924(大正13)年、島根大学の前身・旧制松江高等学校の外国人教師用に建てられた洋館で、国登録有形文化財に登録されています。展示やミニ教室、町歩き観光の拠点として活用されています。

島根大学・寧夏大学国際共同研究所

【寧夏大学構内(中国寧夏回族自治区銀川市)】

<http://www.ningxia.shimane-u.ac.jp>



研究所を拠点に、中山間地域の活性化、開発と環境問題、都市と農村の格差是正、環境教育の推進等を主要なテーマとして共同研究を行い、研究成果をアジアをはじめとする世界に向けて発信することを目指しています。

広島オフィス

http://www.shimane-u.ac.jp/facility/facilities/hiroshima_office/



島根大学の情報発信・交流の拠点として利便性の高い広島市街に設置。入学希望者への情報提供、企業採用や共同研究、学生の就職支援、医療職員の採用、卒業生・同窓会との連携強化など、利用者のニーズに対応した相談体制を整えています。

総合科学研究支援センター

<http://www.ipc.shimane-u.ac.jp/~icsr/index.html>

既存の研究分野の枠を超えた共同利用体制の整備を実現し、生命・環境・ニューマテリアルに関する先端的及び学際的な教育・研究を強力に支援するとともに、その成果を社会の発展のために還元しています。

- 遺伝子機能解析部門(RI実験施設)(松江)
- 物質機能分析部門(松江)
- 実験動物部門(出雲) ●生体情報・RI実験部門(出雲)

学内施設等

大学会館

http://www.shimane-u.ac.jp/education/extra_curricular/extra_curri_facility/(松江キャンパス)



学生・教職員が相互交流できる場として、また学生の課外活動の場としても使用することができます。施設内では、書籍・文具及び日用品の販売、高速バス・J R 乗車券の予約発券等のサービスも行っています。

学生センター(松江キャンパス)

<http://nyucen.shimane-u.ac.jp/>(入学センター)



学内中央部に位置し、学生の修学上の支援・助言等を行っています。また、同センターには、教学企画IR室や入学センターも設置されています。

■教学企画IR室

教育の質保証・質向上に寄与することを目的とし、教育及び学生支援に関する諸データの統合的分析と情報提供・助言等を行っています。

■入学センター

島根大学における入学者選抜方法等の改善を図るため、入学試験の企画、広報、実施、評価、改善等を行っています。

食堂

<http://www.shimane-u.ac.jp/education/welfare/cafeteria/>(松江キャンパス)



松江キャンパスの第1食堂と出雲キャンパスの食堂は、朝食から夕食まで3食対応で自分でおかずを組み合わせる利用できます。松江キャンパスの第2食堂は、丼類やセルフバーなどを揃えた昼食対応の食堂です。

学生支援センター

<http://career.shimane-u.ac.jp/>(キャリアセンター)



学生支援センター内の学生支援課では、課外活動、就職関係、授業料免除・奨学金等学生生活上の各種支援を行っています。また、同センターには、キャリアセンターや学生支援センターも設置されています。

■キャリアセンター

学生の職業・進路選択及び就職活動をより円滑に推進するため、就職情報の提供、就職相談、キャリア教育の企画・実施等を行っています。

■学生支援センター

学生支援センターでは課外活動への支援、経済的な支援、障がい学生への支援等、学生生活の充実を図ることを目的に、学生支援業務を総合的に取り扱っています。

保健管理センター

<http://www.ipc.shimane-u.ac.jp/~health/>(松江キャンパス)
<http://www.med.shimane-u.ac.jp/health/index.html>(出雲キャンパス)

心身ともに健康な生活が送れるよう、専門的立場から支援するサービス部門です。定期健康診断の実施、病気やケガの応急処置、健康相談や医療機関の紹介を行っています。いろいろな悩みの相談には臨床心理士などの専門家が対応しています。身長、体重、血圧、視力測定が自由にできますので、日頃のヘルスチェックに役立ててください。

学生寮

<http://www.shimane-u.ac.jp/education/welfare/residence/>(松江キャンパス)



学生寮は松江キャンパスの北側(徒歩10分)に位置し、各居室にユニットバス・トイレ・ミニキッチンを備えた完全個室型のA棟(定員168名)、C棟(定員59名)及び各階に共同のキッチン・トイレ・シャワールーム等を備えた半個室型のB棟(定員91名)があります。

教育開発センター

<http://cerd.shimane-u.ac.jp/>

島根大学における学生の学びの質を保証・向上するために、教育システムの構築やFD、それらを支える各種調査、特色ある授業の創出や全学教育プログラムの企画・実施まで様々な学修支援に携わっています。

男女共同参画推進室

<http://gender.shimane-u.ac.jp>

誰もが学びやすく・働きやすい学内環境を作ることを目指して、男女共同参画の推進、研究者支援及びワーク・ライフ・バランスにかかる事業を行っています。

地域課題学習支援センター

<http://www.coc.shimane-u.ac.jp/local/>

島根大学が実施する「地(知)の拠点整備事業(COC事業)」において、地域協創型人材養成のための地域課題解決型教育(PBL)を推進するとともに、自治体と連携し地域課題の解決に貢献することを目的に設置され、地域課題解決型教育のマネジメント、地域人材養成のための教育コンテンツ等の作成の業務を行います。

その他の地区

深町地区(学寮)

〒690-0823 松江市西川津町字深町3371-1 TEL.0852-21-3118

北陵地区(産学連携センター・松江キャンパス)

●地域産業共同研究部門・知的財産創活部門・連携企画推進部門
〒690-0816 松江市北陵町2 TEL.0852-60-2290

大輪地区(附属学校)

教育学部附属小学校/〒690-0882 松江市大輪町416-4 TEL.0852-29-1200

教育学部附属中学校/〒690-0824 松江市菅田町167-1 TEL.0852-29-1300

教育学部附属幼稚園/〒690-0882 松江市大輪町416-4 TEL.0852-29-1120

部局名	所在地	電話番号	
生物資源科学部附属生物資源教育研究センター			
本部	〒690-1102 松江市上本庄町2059	0852-34-0311	
森林科学部門	三瓶演習林	〒694-0003 大田市三瓶町多根941-1	0854-86-0011
農業生産科学部門	本庄総合農場	〒690-1102 松江市上本庄町2059	0852-34-0311
//	神西砂丘農場	〒699-0822 出雲市神西沖町字蛇島2473-1	0853-43-2081
海洋生物科学部門	隠岐臨海実験所	〒685-0024 隠岐郡隠岐の島町加茂194	08512-2-1814
汽水域研究センター	中海分室	〒690-1401 松江市八束町江島字南土手附694	0852-76-9007
国際交流会館		〒690-0824 松江市菅田町字ドンド320	0852-25-9530

沿革

年 月	旧島根大学	旧島根医科大学
昭和24年 5月	旧制松江高等学校、島根師範学校、島根青年師範学校を母体として、 文理学部、教育学部からなる新制大学として発足	
昭和40年 4月	島根県立島根農科大学を国立移管し、農学部を設置	
昭和41年 4月	保健管理センター設置	
昭和42年 6月	農学部附属農場・農学部附属演習林設置	
昭和46年 4月	大学院農学研究科設置(平成12年生物資源科学研究科に拡充改組)	
昭和50年 10月		島根医科大学設置
昭和53年 4月		RI 実験施設設置
昭和53年 6月	文理学部を改組し、法文学部と理学部設置	
昭和54年 4月	教育学部附属複式教育研究センター設置	医学部附属病院設置
昭和56年 4月		医学部附属動物実験施設設置
昭和57年 4月		大学院医学研究科博士課程設置
昭和58年 4月		医学部附属実験実習機器センター設置
昭和60年 4月	大学院理学研究科設置(平成12年総合理工学研究科に拡充改組)	
昭和63年 4月	大学院法学研究科設置(平成9年人文社会科学研究科に拡充改組)	
平成元年 4月	島根大学、鳥取大学、山口大学の協力のもとに 大学院連合農学研究科博士課程を鳥取大学に設置	
平成2年 6月	遺伝子実験施設設置 教育学部附属教育実践研究指導センター設置	
平成3年 4月	大学院教育学研究科設置	保健管理センター設置
平成4年 4月	汽水域研究センター設置	
平成5年 4月	生涯学習教育研究センター設置	
平成6年 12月		情報ネットワークセンター設置
平成7年 2月		特定機能病院として承認
平成7年 10月	理学部と農学部を融合・改組し、総合理工学部と生物資源科学部設置	
平成8年 5月	地域共同研究センター設置	
平成9年 4月	大学院人文社会科学研究科設置 附属生物資源教育研究センター設置	
平成11年 4月		医学部看護学科設置
平成12年 4月	大学院総合理工学研究科設置 大学院生物資源科学研究科設置	
平成13年 4月	教育学部附属教育臨床総合研究センター設置 機器分析センター設置	地域医学共同研究センター設置
平成14年 4月	大学院総合理工学研究科を博士課程に改組 総合情報処理センター設置	
平成15年 4月		大学院医学研究科を大学院医学系研究科に改称し、 看護学専攻(修士課程)設置

年 月	島根大学
平成15年 10月	旧島根大学と旧島根医科大学を統合し、新島根大学を設置 共同研究センター・総合科学研究支援センター設置
平成16年 3月	島根大学・寧夏大学国際共同研究所設置
平成16年 4月	国立大学法人法の施行により、国立大学法人島根大学となる 大学院法務研究科設置、大学院医学系研究科に医科学専攻(修士課程)を設置 教育学部附属教育支援センター設置、医学部教育企画開発室設置 外国語教育センター設置、法文学部山陰研究センター設置
平成16年 10月	共同研究センターを改組し、産学連携センターを設置、評価室設置、総合企画室設置
平成16年 12月	教育開発センター設置、入試センター設置
平成17年 3月	プロジェクト研究推進機構設置
平成17年 10月	キャリアセンター設置
平成18年 4月	ミュージアム設置、国際交流センター設置
平成19年 4月	教育学部附属教師教育研究センター設置
平成19年 6月	教育学部附属FD戦略センター設置
平成20年 7月	男女共同参画推進室設置
平成23年 4月	広報室設置
平成23年 10月	広島オフィス設置
平成25年 4月	センター機構化
平成25年 8月	みらい棟設置
平成25年 10月	地域課題学習支援センター設置
平成26年 2月	山陰法実務教育研究センター設置
平成26年 3月	総合企画室廃止
平成26年 4月	学生市民交流ハウス設置

学年暦

4月1日	学年始	9月30日	前期終	10月17日~18日	大学祭(出雲)
	前期始	10月1日	後期始	12月24日~1月3日	冬季休業
4月6日	入学式		開学記念日	3月14日	学位授与式(出雲)
8月7日~9月30日	夏季休業	10月11日~12日	大学祭(松江)	3月25日	学位授与式(松江)

沿革図

(文理学部の前身)

大9.11 松江高等学校 (～昭25.3)

(教育学部の前身)

明8.4 鳥根県小学教員伝習所

明9.10 松江師範学校

明11.8 松江女子師範学校 (～明14.8)

明17.7 鳥根県師範学校

明19.8 鳥根県尋常師範学校

明31.4 鳥根県師範学校

明36.4 鳥根県女子師範学校 (～昭18.3)

昭18.4 鳥根師範学校 (～昭26.3)

昭8.4 鳥根県立実業公民学校教員養成

昭9.4 鳥根県立青年学校教員養成所

昭19.4 鳥根青年師範学校 (～昭26.3)

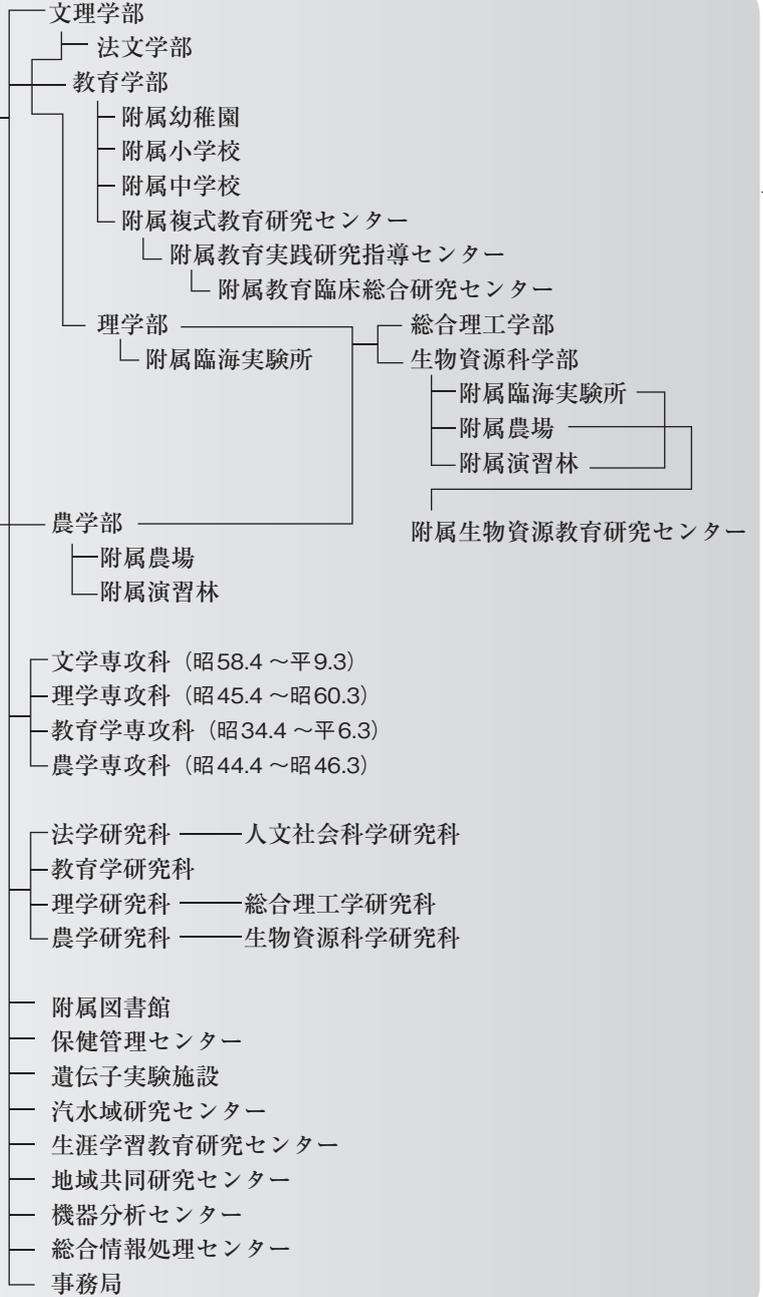
(農学部の前身)

昭22.9 鳥根県立農林専門学校

昭26.4 鳥根県立鳥根農科大学 (昭40.4国立移管)

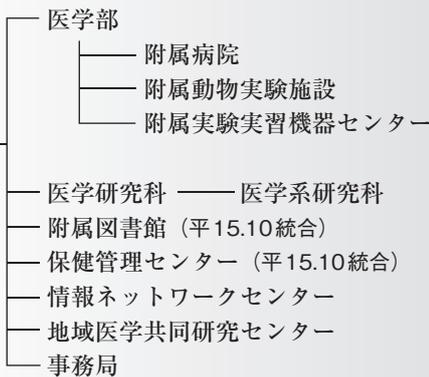
昭和24年5月31日

旧鳥根大学



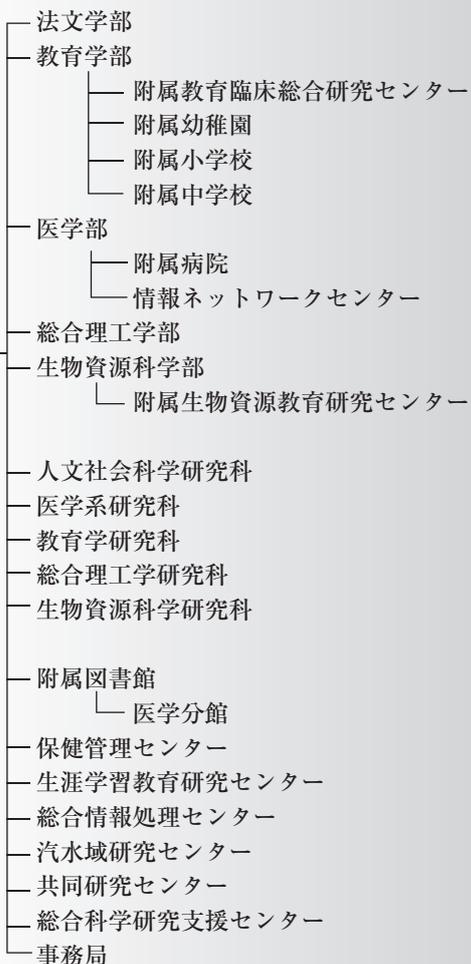
昭和50年10月1日

旧鳥根医科大学



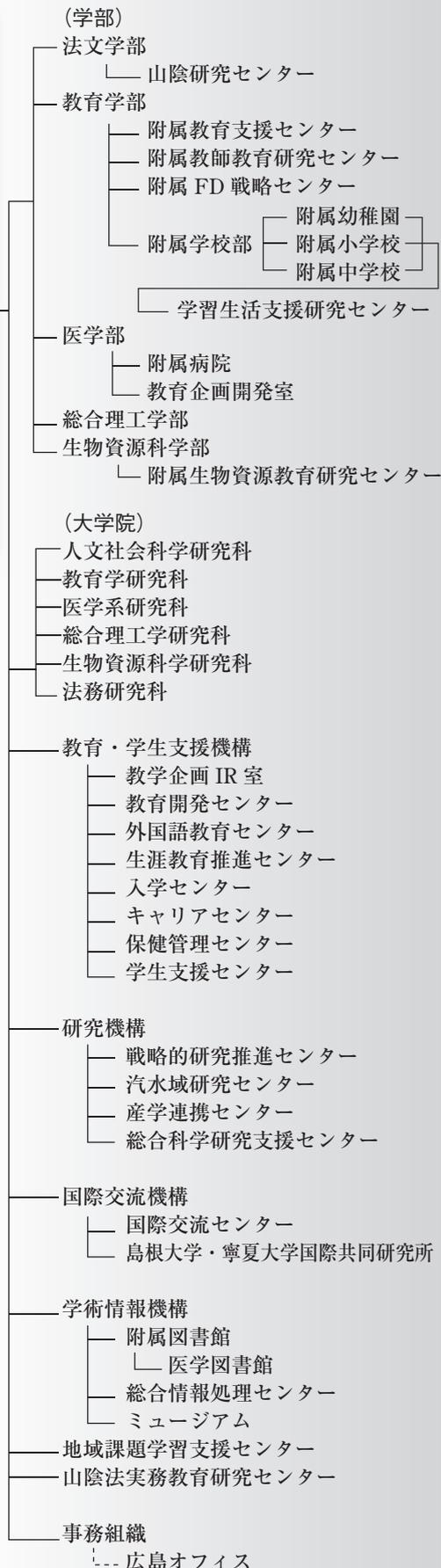
平成15年10月1日統合

新・島根大学

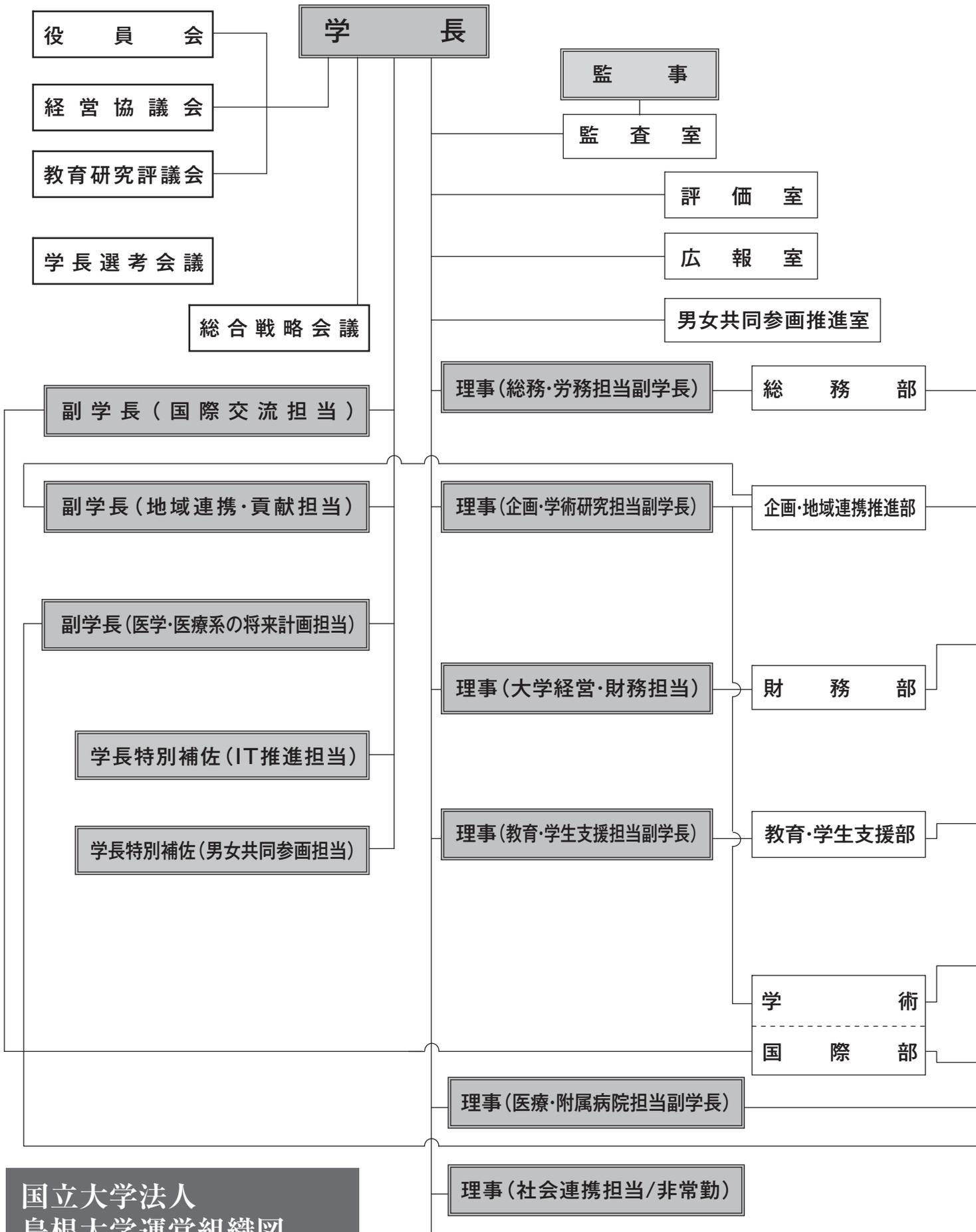


平成16年4月1日法人化

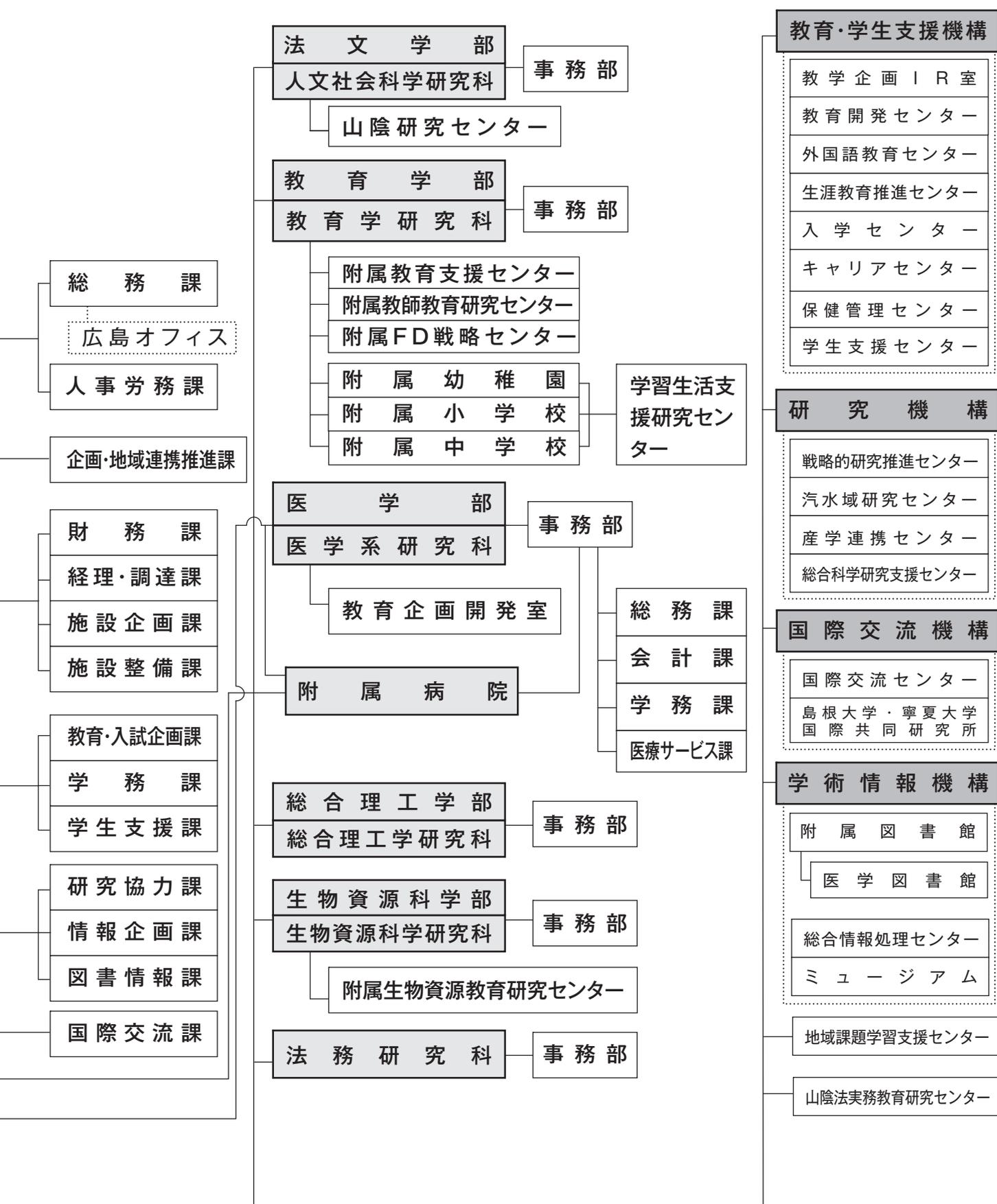
国立大学法人・島根大学



運営組織図



国立大学法人
島根大学運営組織図



役員・経営協議会委員・教育研究評議会評議員

学長

学長 服 部 泰 直

理事

理事(総務・労務担当副学長) 藤 田 達 朗
 理事(企画・学術研究担当副学長) 秋 重 幸 邦
 理事(教育・学生支援担当副学長) 荒 瀬 幹 榮
 理事(医療・附属病院担当副学長) 井 川 幹 夫
 理事(大学経営・財務担当) 松 浦 晃 幸
 理事(非常勤)(社会連携担当) 江 口 博 晴

副学長

副学長(国際交流担当) 出 口 顕
 副学長(医学・医療系の将来計画担当) 大 平 明 弘
 副学長(地域連携・貢献担当) 佐 藤 利 夫

学長特別補佐

学長特別補佐(IT推進担当) 平 野 章 二
 学長特別補佐(男女共同参画担当) 河 野 美 江

監事

監事 千 家 充 伸
 監事(非常勤) 谷 口 博 則

理事の下に置く部

理事(総務・労務担当)
 総務部
 総務部長 山 本 晃
 総務課長 阿 部 祐 一
 人事労務課長 吉 田 隆 司

理事(企画・学術研究担当)
 企画・地域連携推進部
 企画・地域連携推進部長 門 城 祐 司
 企画・地域連携推進課長 吉 木 祐 茂

理事(大学経営・財務担当)
 財務部
 財務部長 堀 池 幸 浩
 財務課長 門 脇 幸 見
 経理・調達課長 石 飛 寿 実
 施設企画課長 川 飛 本 和 弘
 施設整備課長 青 木 勝 幹

理事(教育・学生支援担当)
 教育・学生支援部
 教育・学生支援部長 為 石 勝 美
 教育・学生支援部次長 山 崎 幸 司
 教育・入試企画課長 福 間 栄 子
 学務課長 倉 橋 幸 子
 学生支援課長 山 崎 幸 司

理事(企画・学術研究担当)
 学術国際部
 学術国際部長 小 村 陽 悦
 研究協力課長 洲之内 善 基
 国際交流課長 土 屋 健 一
 情報企画課長 大 西 啓 治
 図書情報課長 田 中 俊 二

監査室

室長 (空 席)

学部・大学院

法文学部・人文社会科学研究科

学部長・研究科長 吹 野 卓
 副学部長 田 坂 夫
 副学部長 野 田 哲
 副学部長 武 田 信
 事務長 野 津 和 明

教育学部・教育学研究科

学部長・研究科長 小 川 巖
 副学部長 加 藤 寿 朗
 副学部長 河 添 達 也
 副学部長 福 田 哲 之
 副学部長 福 原 茂
 附属教育支援センター長 川 路 澄 人
 附属教師教育研究センター長 伊 藤 豊 彦
 附属FD戦略センター長 河 藤 添 達 也
 附属学校部長 藤 田 英 樹
 附属幼稚園長 齋 藤 英 明
 附属小学校長 齋 藤 英 明
 附属中学校長 齋 藤 英 昭
 事務長 石 倉 昭 夫

医学部・医学系研究科

学部長・研究科長 大 谷 浩
 副学部長 川 内 秀 之
 副学部長 井 尾 祐 司
 附属病院長 木 下 幹 夫
 副病院長 森 田 芳 一
 副病院長 齊 藤 洋 伸
 副病院長 秦 美 子
 事務部長 後 藤 郁 則
 事務部次長 石 井 邦 彦
 総務課長 林 井 邦 幸
 会計課長 石 井 一 彦
 学務課長 増 田 元 雄
 医療サービス課長 林 元 之

総合理工学部・総合理工学研究科

研究科長・学部長 廣 光 一 郎
 副研究科長・副学部長 小 俣 江 実 司
 副研究科長・副学部長 杉 江 須 郎
 副研究科長・副学部長 高 須 晃
 副研究科長・副学部長 芦 田 博
 事務長 塩 田 文 夫

生物資源科学部・生物資源科学研究科

学部長・研究科長 澤 嘉 弘
 副学部長 川 向 俊 誠
 副学部長 浅 尾 裕 樹
 副学部長 板 村 裕 之
 附属生物資源教育研究センター長 小 葉 田 文 亨
 事務長 原 裕 司

法務研究科

研究科長 朝 野 良 作
 事務長 田 津 和 男

2015.5.1現在

機構等

教育・学生支援機構

機構長	荒瀬 榮
教学企画IR室長	野田 哲 夫人
教育開発センター長	平川 正 人
外国語教育センター長	廣瀬 浩 三
生涯教育推進センター長	伊藤 康 宏
入学センター長	荒瀬 榮 薫
キャリアセンター長	水野 野 薫
保健管理センター長	尾崎 浩 一
保健管理センター副センター長	江副 智 子
学生支援センター長	境 英 俊

研究機構

機構長	秋重 幸 邦
戦略的研究推進センター長	秋重 幸 邦
汽水域研究センター長	清家 浩 二
汽水域研究センター副センター長	瀬戸 卓 也
産学連携センター長	大庭 河 徹
産学連携センター副センター長	並河 田 守
総合科学研究支援センター長	原 中 川 強
総合科学研究支援センター副センター長	中 川 強

国際交流機構

機構長	出口 顕 久
国際交流センター長	出口 顕 久
島根大学・寧夏大学国際共同研究所長	伊藤 勝 俊
島根大学・寧夏大学国際共同研究所副所長	一戸 俊 義
島根大学・寧夏大学国際共同研究所副所長	関 耕 平

学術情報機構

機構長	秋重 幸 邦
附属図書館長	杉江 実 利
医学図書館長	杉本 利 嗣
総合情報処理センター長	會澤 邦 夫
総合情報処理センター副センター長	六井 淳 明
ミュージアム館長	入月 俊 和
ミュージアム副館長	會下 和 宏

評価室

室長	秋重 幸 邦
----	--------

男女共同参画推進室

室長	藤田 達 朗
----	--------

広報室

室長	藤田 達 朗
----	--------

地域課題学習支援センター

センター長	松崎 貴
-------	------

山陰法実務教育研究センター

センター長	朝田 良 作
-------	--------

経営協議会委員

学長	服藤 泰 直
理事(総務・労務担当副学長)	部田 重 幸 邦
理事(企画・学術研究担当副学長)	秋重 幸 邦
理事(教育・学生支援担当副学長)	荒瀬 浩 三
理事(医療・附属病院担当副学長)	井松 浦 幹 夫
理事(大学経営・財務担当)	江口 澤 厚
理事(非常勤)(社会連携担当)	江有 大 大 棍
山陰中央テレビジョン放送株式会社代表取締役社長	澤谷 矢 田 敬
一畑電気鉄道株式会社代表取締役会長	中福 松 浦 正
島根県自治研修所 所長	
奈良学園大学長	
特定非営利活動法人VHJ機構理事	
島根県弁護士会 弁護士	
キャスター・エッセイスト	
松江市長	

教育研究評議会評議員

学長	服藤 泰 直
理事(総務・労務担当副学長)	部田 重 幸 邦
理事(企画・学術研究担当副学長)	秋重 幸 邦
理事(教育・学生支援担当副学長)	荒瀬 浩 三
理事(医療・附属病院担当副学長)	井松 浦 幹 夫
理事(大学経営・財務担当)	江口 澤 厚
法文学部長	吹野 川 谷 嘉 一
教育学部長	小大 澤 光 一
医学部長	大澤 廣 朝 廣
生物資源科学部長	廣朝 廣 大 田 野 加 河 並 熊
総合理工学研究科長	廣朝 廣 大 田 野 加 河 並 熊
法務研究科長	廣朝 廣 大 田 野 加 河 並 熊
外国語教育センター長	廣朝 廣 大 田 野 加 河 並 熊
産学連携センター長	廣朝 廣 大 田 野 加 河 並 熊
教授 法文学部	廣朝 廣 大 田 野 加 河 並 熊
教授 法文学部	廣朝 廣 大 田 野 加 河 並 熊
教授 教育学部	廣朝 廣 大 田 野 加 河 並 熊
教授 教育学部	廣朝 廣 大 田 野 加 河 並 熊
教授 医学部	廣朝 廣 大 田 野 加 河 並 熊
教授 医学部	廣朝 廣 大 田 野 加 河 並 熊
教授 生物資源科学部	廣朝 廣 大 田 野 加 河 並 熊
教授 生物資源科学部	廣朝 廣 大 田 野 加 河 並 熊
教授 総合理工学研究科	廣朝 廣 大 田 野 加 河 並 熊
教授 総合理工学研究科	廣朝 廣 大 田 野 加 河 並 熊

教職員数

2015.5.1 現在

区分	役員				教育職員										一般職員						医療職員			合計				
	学長	理事	監事	小計	教授	准教授	講師	助教	助手	校長	副校長 副園長	主幹教諭	指導教諭	教諭	養護教諭	小計	事務職員	技術職員	図書職員	技能職員	労務職員	教務職員	小計		医療技術職員	看護職員	小計	
学長	1			1												0							0			0	1	
理事		6		6												0							0			0	6	
監事			2	2												0							0			0	2	
監査室				0												0	2						2			0	2	
理事の下に置く部	総務部	総務部長			0											0	1						1			0	1	
		総務課			0												0	12			1			13			0	13
		人事労務課			0												0	21						21			0	21
	企画・地域連携推進部	企画・地域連携推進部長			0												0	1						1			0	1
		企画・地域連携推進課			0												0	6						6			0	6
	財務部	財務部長			0												0	1						1			0	1
		財務課			0												0	9						9			0	9
		経理・調達課			0												0	16						16			0	16
		施設企画課			0												0	8	5			2		15			0	15
		施設整備課			0												0	1	15					16			0	16
	教育・学生支援部	教育・学生支援部長			0												0	2						2			0	2
		教育・入試企画課			0												0	8						8			0	8
		学務課			0												0	24						24			0	24
		学生支援課			0												0	12						12			0	12
	学術国際部	学術国際部長			0												0	1						1			0	1
		研究協力課			0												0	7	1					8			0	8
		国際交流課			0												0	5						5			0	5
情報企画課				0												0	5	3					8			0	8	
図書情報課			0												0	4		12				16			0	16		
法文学部			0	30	32	5									67	6							6			0	73	
教育学部			0	40	29	9	1								79	11							11			0	90	
附属幼稚園			0							1		1	4	1	7								0			0	7	
附属小学校			0							1	1	1	16	1	20								0			0	20	
附属中学校			0						1	1	1	1	22	1	27								0			0	27	
附属学校学習生活支援研究センター			0										1	3	4								0			0	4	
医学部			0	56	28	8	77	4							173	104	49		4		1	158				0	331	
附属病院			0	3	10	34	77								124	1	2		10			13	147	640	787	924		
総合理工学研究所			0	50	43	9	20	1							123	8	3					11				0	134	
生物資源科学部			0	30	37	2	19								88	10	12					22				0	110	
法務研究科			0	7	4										11	2							2				0	13
教育・学生支援機構	教学企画IR室			0			1	1							2								0				0	2
	教育開発センター			0		3									3								0				0	3
	外国語教育センター			0	4	8									12								0				0	12
	生涯教育推進センター			0	1										1								0				0	1
	入学センター			0		1									1								0				0	1
	キャリアセンター			0			1								1								0				0	1
	保健管理センター			0	2	1									3								0	1	2	3	6	
学生支援センター			0	1										1								0				0	1	
研究機構	戦略的研究推進センター			0		1		3							4								0				0	4
	汽水域研究センター			0	2	3									5								0				0	5
	産学連携センター			0	3	1									4								0				0	4
	総合科学研究支援センター			0	2	2		5	1						10								0				0	10
国際交流機構	国際交流センター			0											0								0				0	0
	島根大学・寧夏大学国際共同研究所			0											0								0				0	0
学術情報機構	附属図書館			0											0								0				0	0
	総合情報処理センター			0											0								0				0	0
ミュージアム			0		1									1								0				0	1	
評価室			0			1									1								0				0	1
男女共同参画推進室			0												0								0				0	0
広報室			0												0								0				0	0
地域課題学習支援センター			0			1	1								2								0				0	2
山陰法実務教育研究センター			0												0								0				0	0
合計	1	6	2	9	231	204	71	204	6	1	3	2	4	45	3	774	288	90	12	15	2	1	408	148	642	790	1,981	

(注)1.理事及び監事には、非常勤の理事及び監事各1名を含む。2.病院診療職員は含まない。3.外国人研究員は含まない。

学部・大学院

■学部

学 部	学科・課程	講 座 等
法文学部	法経学科	法学、経済学
	社会文化学科	現代社会、歴史と考古、福祉社会
	言語文化学科	日本・東アジア言語文化、英米・ヨーロッパ言語文化、文化の創造と理解
教育学部	学校教育課程	初等教育開発、心理・発達臨床、言語文化教育、共生社会教育、数理基礎教育、自然環境教育、人間生活環境教育、健康・スポーツ教育、芸術表現教育
医学部	医学科	基礎医学系 解剖学、生理学、生化学、生命科学 臨床基礎医学系 薬理学、病理学、微生物・免疫学 社会医学系 法医学、環境保健医学、医療情報学、医療社会文化学 臨床医学系 内科学、皮膚科学、小児科学、外科学、整形外科学、脳神経外科学、泌尿器科学、精神医学、産科婦人科学、耳鼻咽喉科学、眼科学、放射線医学、麻酔科学、緩和ケア、歯科口腔外科学、臨床検査医学、救急医学、地域医療教育学、地域医療支援学、総合医療学、地域医療政策学
	看護学科	基礎看護学、臨床看護学、地域・老年看護学
総合理工学部	物質科学科	物質構造、物質設計、物質機能、量子物理、物質化学
	地球資源環境学科	地球物質システム学、環境地質学、自然災害工学
	数理・情報システム学科	数理構造、数理解析、応用情報学、計算機科学
	機械・電気電子工学科	制御システム工学、計測システム工学、電気電子システム工学、電子デバイス工学
	建築・生産設計工学科	材料工学、機械加工システム学
生物資源科学部	生物科学科	生物科学教育コース
	生命工学科	生命工学教育コース
	農林生産学科	農業生産学教育コース、森林学教育コース、農林生態科学教育コース、農村経済学教育コース
	地域環境科学科	生態環境科学教育コース、環境資源工学教育コース、地域工学教育コース

■大学院

研究科	専 攻	講 座 等
人文社会科学研究科 修士課程	法経専攻	法政コース、地域経済コース
	言語・社会文化専攻	言語文化コース、社会文化コース
教育学研究科 修士課程	教育実践開発専攻	学習開発コース、臨床心理コース、発達臨床コース
	教育内容開発専攻	言語系教育コース、社会系教育コース、数理系教育コース、自然系教育コース、生活系教育コース、健康系教育コース、芸術系教育コース
医学系研究科 博士課程	医科学専攻	研究者育成コース、高度臨床医育成コース、地域がん専門医育成コース、総合診療医指導者育成コース
医学系研究科 修士課程	医科学専攻	総合医科学コース、がん専門薬剤師養成コース、地域医療支援コーディネータ養成コース、医療シミュレータ教育指導者養成コース、地域包括ケア人材養成コース(医療経営重点)
	看護学専攻	看護援助学コース、看護管理学コース、母子看護学コース、成人看護学コース、地域在宅看護学コース、高齢者看護学コース、老人看護 CNSコース
総合理工学研究科 博士後期課程	総合理工学専攻	理工学際創成コース、数理・物質創成科学コース、地球科学・地球環境コース、機械電子情報工学コース
総合理工学研究科 博士前期課程	総合理工学専攻	理工・医連携コース、物理・材料科学コース、物質化学コース、地球資源環境学コース、数理科学コース、情報システム学コース、機械・電気電子工学コース、建築・生産設計工学コース
生物資源科学研究科 修士課程	生物生命科学専攻	課題研究コース、学術研究コース、地域産業人育成コース
	農林生産科学専攻	課題研究コース、学術研究コース、地域産業人育成コース
	環境資源科学専攻	課題研究コース、学術研究コース、地域産業人育成コース
法務研究科 専門職学位課程	法曹養成専攻	

附属図書館

■蔵書数

2015.3.31 現在

区 分	図書（冊）			雑誌（種）		
	和書	洋書	計	和書	洋書	計
本館	639,955	153,778	793,733	8,519	2,925	11,444
医学図書館	67,927	66,580	134,507	2,118	1,767	3,885

■利用状況

区 分	入館者数	貸出冊数	図書の貸借		文献複写	
			貸出	借受	受付	依頼
本館	312,042	67,645	272	491	1,001	2,116
医学図書館	187,193	13,051	4	8	1,512	1,199

■閲覧座席

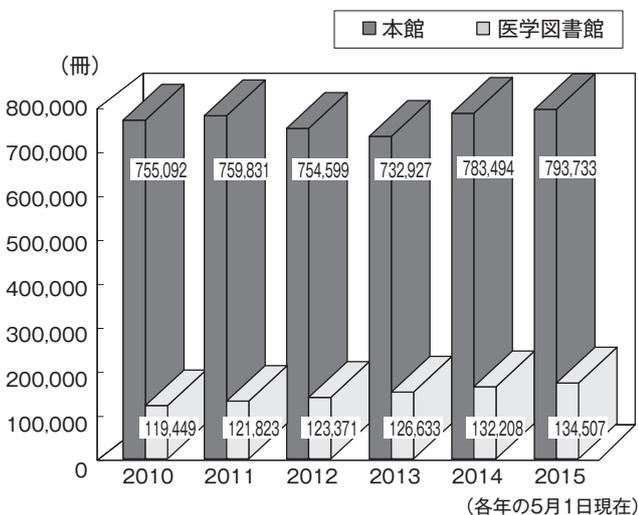
区 分	座席数	備考
本館	560	開架閲覧室298席、ロビー13席、ラーニングcommons80席、新聞・雑誌コーナー24席、ラウンジ17席、グループ学習室20席、AVルーム14席、PCルーム41席、研究個室8席、地域資料室4席、マイクロ資料室2席、書庫内15席、その他24席
医学図書館	266	開架閲覧室188席、文献検索コーナー 8席、セミナー室22席、自由閲覧室25席、ビデオ室12席、アメニティコーナー 11席

■開館時間等

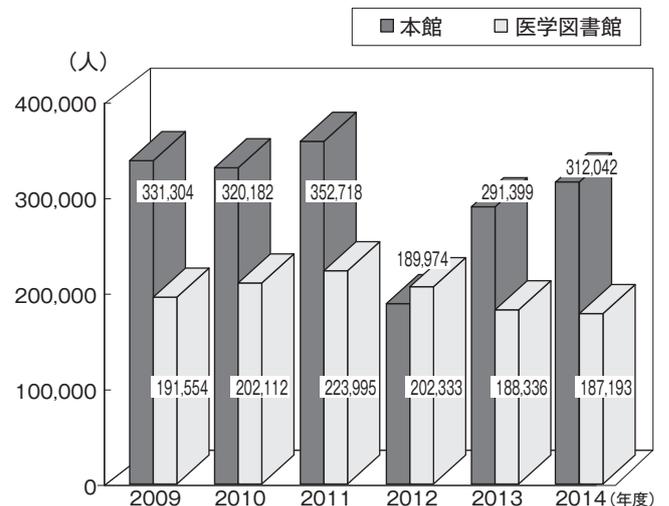
区 分	開館時間		休館日
	月曜～金曜	土曜・日曜・休日	
本館	8:30～21:30 (休業期は9:00～19:00 または9:00～17:00)	10:00～17:30 (休業期は休館)	休業期の土曜・日曜・休日 年末・年始(12月28日～1月4日) 夏季一斉休業期間(8月13日～15日) 上記のほか、資料整理のための臨時休館あり
医学図書館	9:00～20:00 (8月及び3月 9:00～17:00)	10:00～16:00	8月及び3月の土曜・日曜・休日 年末・年始(12月28日～1月4日) 夏季一斉休業期間(8月13日～15日) 医学図書館長が必要と認めた日

■蔵書数・利用状況の推移

●蔵書数（図書）



●利用状況（入館者数）



※本館では2012年度耐震改修工事のため入館者数が減少
 ※本館では2013年度から入館者数のカウント方式を変更

附属病院

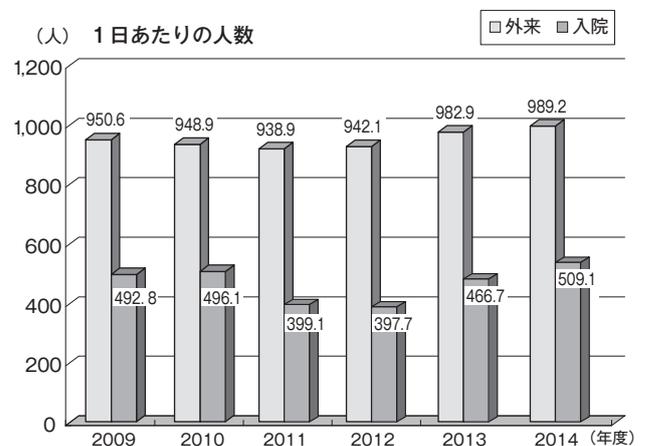
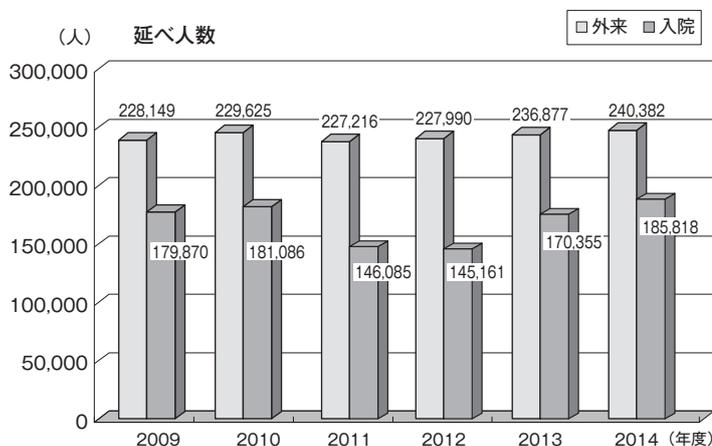
■附属病院患者数

(2014.4.1~2015.3.31)

診療科名等	外来患者数		入院患者数	
	延数	1日平均数	延数	1日平均数
内分泌代謝内科	12,014	49.4	4,377	12.0
腫瘍・血液内科	5,490	22.6	13,428	36.8
消化器内科	10,958	45.1	10,388	28.5
肝臓内科	7,051	29.0	4,116	11.3
神経内科	7,191	29.6	10,447	28.6
膠原病内科	7,111	29.3	2,020	5.5
呼吸器・化学療法内科	8,988	37.0	11,075	30.3
腎臓内科	3,908	16.1	3,244	8.9
循環器内科	8,859	36.5	9,096	24.9
皮膚科	14,593	60.1	3,670	10.1
小児科	9,547	39.3	10,265	28.1
消化器外科	6,417	26.4	13,098	35.9
肝・胆・膵外科	2,569	10.6	4,703	12.9
小児外科	1,467	6.0	1,120	3.1
乳腺・内分泌外科	4,139	17.0	1,199	3.3
心臓血管外科	1,772	7.3	4,440	12.2
呼吸器外科	1,614	6.6	3,619	9.9
整形外科	19,548	80.4	16,960	46.5
脳神経外科	4,238	17.4	7,408	20.3
泌尿器科	15,565	64.1	12,273	33.6
精神科神経科	15,242	62.7	8,402	23.0
産科	4,449	18.3	3,930	10.8
婦人科	10,590	43.6	5,992	16.4
耳鼻咽喉科	6,647	27.4	7,897	21.6
眼科	18,660	76.8	5,455	14.9
放射線科	1,253	5.2	179	0.5
放射線治療科	4,619	19.0	9	0.0
麻酔科	6,542	26.9	2,911	8.0
救命救急センター	9,211	37.9	846	2.3
歯科口腔外科	9,144	37.6	3,243	8.9
顎顔面インプラントセンター	866	3.6	8	0.0
臨床検査科	120	0.5		
ICU			(3,018)	(8.3)
NICU			(2,079)	(5.7)
救命救急センター第1ユニット			(2,839)	(7.8)
救命救急センター第2ユニット			(2,032)	(5.6)
合計	240,382	989.2	185,818	509.1

※ICU、NICU、救命救急センター第1ユニット・第2ユニットの患者数については、再掲で表示しております。

●患者数の推移



学生数

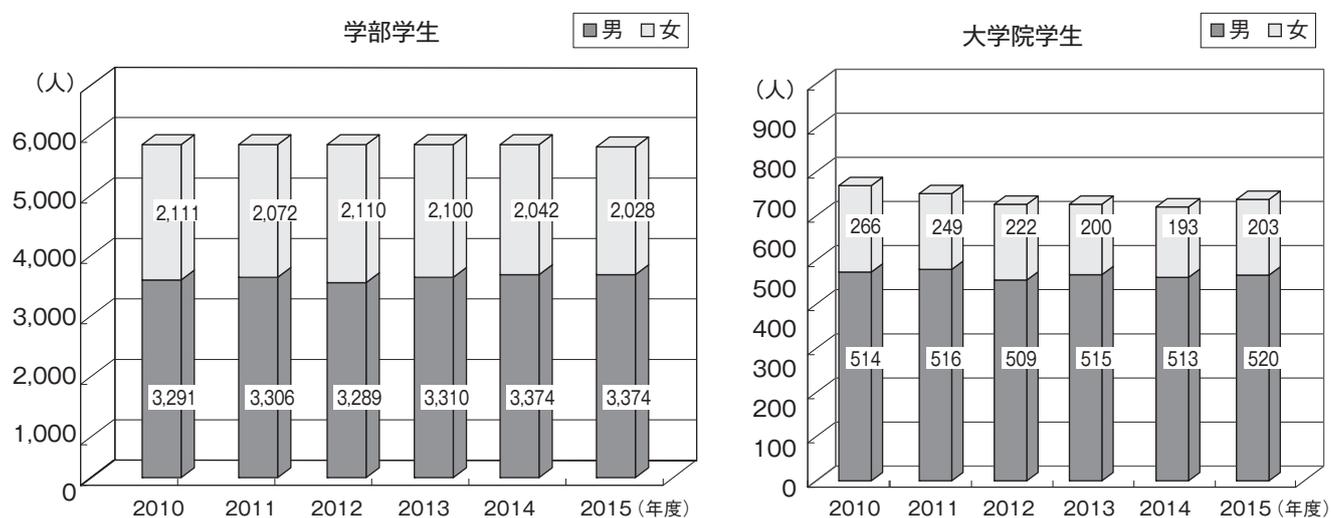
学部

2015.5.1現在

区 分	入学定員	収容定員	現 員			
			男	女	計	
法文学部	法経学科	90	360	252 (4)	139 (1)	391 (5)
	社会文化学科	70	280	138 (3)	175 (3)	313 (6)
	言語文化学科	65	260	76 (4)	231 (2)	307 (6)
	計	225[10]	920	466 (11)	545 (6)	1,011 (17)
教育学部	学校教育課程	170	680	361	362	723
	計	170	680	361	362	723
医学部	医学科	102	610	401	280	681
	看護学科	60	240	23	230	253
	計	162[20]	910	424	510	934
総合理工学部	物質科学科	130	520	484 (4)	91 (1)	575 (5)
	地球資源環境学科	50	200	171	41 (1)	212 (1)
	数理・情報システム学科	100	400	375 (1)	73	448 (1)
	電子制御システム工学科	—	—	34		34
	材料プロセス工学科	—	—	9		9
	機械・電気電子工学科	80	320	322 (8)	10	332 (8)
	建築・生産設計工学科	40	160	133 (2)	46 (2)	179 (4)
	計	400[12]	1,624	1,528 (15)	261 (4)	1,789 (19)
生物資源科学部	生物科学科	30	120	79 (3)	55 (1)	134 (4)
	生態環境科学科	—	—	8 (1)	1	9 (1)
	生命工学科	40	160	98	77	175
	農業生産学科	—	—	3	1	4
	地域開発科学科	—	—	11	1	12
	農林生産学科	85	340	222 (2)	151 (1)	373 (3)
	地域環境科学科	45	180	139 (3)	52	191 (3)
	計	200[20]	840	560 (9)	338 (2)	898 (11)
合 計	1,157[62]	4,974	3,339 (35)	2,016 (12)	5,355 (47)	

注)1.入学定員欄の【 】は、第3年次編入学定員で外数 2.現員欄の()は外国人留学生で外数

学部学生・大学院学生数の推移



■大学院

2015.5.1現在

区 分	入学定員	収容定員	現 員									大学院計			
			修士課程、博士前期課程			医学博士課程、博士後期課程			専門職学位課程			男	女	計	
			男	女	計	男	女	計	男	女	計				
人文社会科学 研究科	法経専攻	6	12	6 (2)	2 (4)	8 (6)						6 (2)	2 (4)	8 (6)	
	言語・社会文化専攻	6	12	9	2 (2)	11 (2)						9	2 (2)	11 (2)	
	計	12	24	15 (2)	4 (6)	19 (8)						15 (2)	4 (6)	19 (8)	
法務研究科	法曹養成専攻	-	40							6	1	7	6	1	7
	計	0	40							6	1	7	6	1	7
教育学研究科	教育実践開発専攻	20	40	9	19 (1)	28 (1)						9	19 (1)	28 (1)	
	教育内容開発専攻	20	40	14	17	31						14	17	31	
	計	40	80	23	36 (1)	59 (1)						23	36 (1)	59 (1)	
医学系研究科	医科学専攻	15	30	20 (1)	10 (1)	30 (2)						20 (1)	10 (1)	30 (2)	
	看護学専攻	12	24	4	23	27						4	23	27	
	医科学専攻	30	120				94 (9)	44 (12)	138 (21)			94 (9)	44 (12)	138 (21)	
	機能系専攻	-	-				2	1	3			2	1	3	
	計	57	174	24 (1)	33 (1)	57 (2)	96 (9)	45 (12)	141 (21)			120 (10)	78 (13)	198 (23)	
総合理工学 研究科	総合理工学専攻	124	248	211 (9)	24 (2)	235 (11)						211 (9)	24 (2)	235 (11)	
	計	124	248	211 (9)	24 (2)	235 (11)						211 (9)	24 (2)	235 (11)	
	総合理工学専攻	12	24				18 (5)	2 (1)	20 (6)			18 (5)	2 (1)	20 (6)	
	マテリアル創成工学専攻	-	6				4 (5)	1	5 (5)			4 (5)	1	5 (5)	
	電子機能システム工学専攻	-	6				7 (2)	1 (1)	8 (3)			7 (2)	1 (1)	8 (3)	
	計	12	36				29 (12)	4 (2)	33 (14)			29 (12)	4 (2)	33 (14)	
生物資源科学 研究科	生物生命科学専攻	20	40	27 (3)	12 (1)	39 (4)						27 (3)	12 (1)	39 (4)	
	農林生産科学専攻	22	44	13 (7)	6 (4)	19 (11)						13 (7)	6 (4)	19 (11)	
	環境資源科学専攻	18	36	28 (5)	7 (2)	35 (7)						28 (5)	7 (2)	35 (7)	
	計	60	120	68 (15)	25 (7)	93 (22)						68 (15)	25 (7)	93 (22)	
合 計	305	722	341 (27)	122 (17)	463 (44)	125 (21)	49 (14)	174 (35)	6	1	7	472 (48)	172 (31)	644 (79)	

注) 現員欄の()は外国人留学生で外数

附属学校児童・生徒・幼児数

■附属幼稚園

区 分	男	女	計	
2年課程	4才児	16	16	32
	5才児	19	21	40
合 計	35	37	72	

■附属中学校

区 分	男	女	計
1学年	70	70	140
2学年	68	66	134
3学年	66	68	134
合 計	204	204	408

■附属小学校

2015.5.1現在

区 分	男	女	計
1学年	30	30	60
2学年	28	30	58
3学年	35	23	58
4学年	27	32	59
5学年	30	29	59
6学年	30	30	60
合 計	180	174	354

入試実施状況(2015年度入学)

■学部

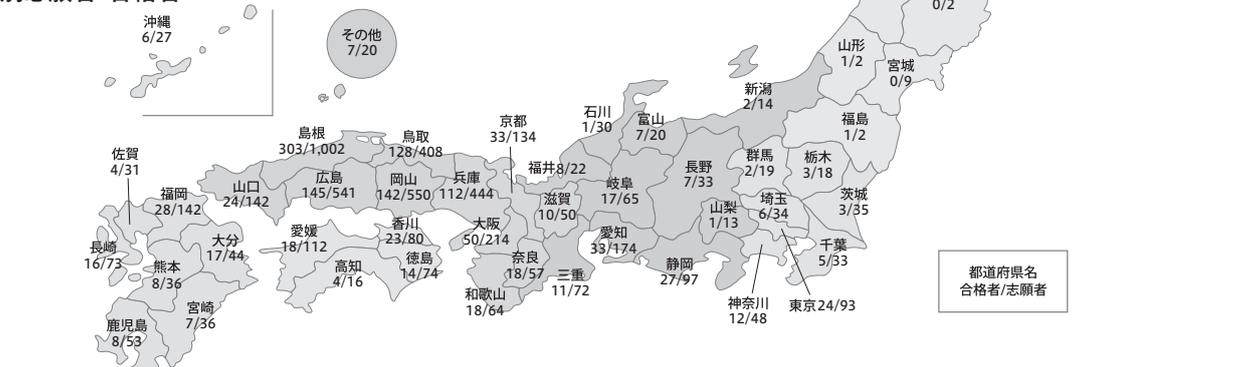
学部	学科・課程・専攻	入学定員	志願者	受験者	合格者	入学者	入学者内訳 (%)		
							県内	県外	
法文学部	法経学科	90	334	174	110	90	29.4	70.6	
	社会文化学科	70	413	262	82	70			
	言語文化学科	65	422	222	81	71			
	計	225	1,169	658	273	231	—	—	
教育学部	学校教育課程Ⅰ類	170	358	273	138	134	39.1	60.9	
	学校教育課程Ⅱ類		健康・スポーツ教育専攻	78	57	16			16
			音楽教育専攻	46	44	18			16
			美術教育専攻	16	16	8			8
	計	170	498	390	180	174	—	—	
医学部	医学科	102	732	630	102	102	28.7	71.3	
	看護学科	60	227	153	65	62			
	計	162	959	783	167	164	—	—	
総合理工学部	物質科学科	400	586	417	148	134	19.2	80.8	
	地球資源環境学科		269	213	54	51			
	数理・情報システム学科		472	391	118	109			
	機械・電気電子工学科		360	252	86	80			
	建築・生産設計工学科		137	131	53	47			
	計		400	1,824	1,404	459	421	—	—
生物資源科学部	生物科学科	30	85	60	33	30	10.8	89.2	
	生命工学科	40	146	106	46	40			
	農林生産学科	85	411	400	106	85			
	地域環境科学科	45	118	80	51	48			
	計	200	760	646	236	203	—	—	
合計		1,157	5,210	3,881	1,315	1,193	24.0	76.0	

注1. 私費外国人留学生入試、3年次編入学は含まない。
 注2. 医学部医学科の受験者数は第1段階選抜不合格者を除く数である。
 注3. 合格者には追加合格者を含む。

■私費外国人留学生入試

学部	学科等	募集人員	志願者	受験者	合格者	入学者	
法文学部	法経学科	若干名	8	8	4	2	
	社会文化学科	若干名	6	6	3	2	
	言語文化学科	若干名	5	5	2	1	
	計	—	19	19	9	5	
総合理工学部	物質科学科	物理系コース	若干名	1	1	1	0
		化学系コース	若干名	1	1	1	1
	地球資源環境学科	若干名	1	1	1	0	
	数理・情報システム学科	数理系コース	若干名	0	0	0	0
		情報系コース	若干名	1	1	0	0
	機械・電気電子工学科	若干名	4	4	3	0	
	建築・生産設計工学科	若干名	2	2	2	1	
	計	—	10	10	8	2	
生物資源科学部	生物科学科	若干名	4	4	3	2	
	生命工学科	若干名	2	2	1	0	
	農林生産学科	若干名	3	3	2	1	
	地域環境科学科	若干名	2	2	2	0	
	計	—	11	11	8	3	
合計		—	40	40	25	10	

●都道府県別志願者・合格者



■内 訳

(1) 一般入試

学部	学科・課程・専攻等	区分	募集人員	志願者	受験者	合格者	追加合格者	入学者	
法文学部	法経学科	前	45	87	81	55		80	
		後	35	222	68	44	1		
	社会文化学科	前	43	131	120	47	1	63	
		後	20	241	102	26			
	言語文化学科	前	38	102	97	49	0	64	
後		20	300	105	25				
	計		201	1,083	573	246	2	207	
教育学部	学校教育課程Ⅰ類	前	74	179	168	83	0	95	
		後	16	97	24	16			
	学校教育課程Ⅱ類	健康・スポーツ教育専攻	前	8	29	26	8	0	12
			後	4	36	18	4		
		音楽教育専攻	前	10	23	21	10	0	8
			後	4	11	11	5		
	美術教育専攻	前	4	11	11	5	0	5	
	計		116	375	268	126	0	120	
医学部	医学科	前	62	559	458	69	0	69	
		後	32	72	67	35			
	看護学科	前	10	114	45	13	0	45	
	計		104	745	570	117	0	114	
総合理工学部	物質科学科	物理受験コース	前	36	143	130	43	0	53
			後	17	102	34	21		
		化学受験コース	前	46	170	151	49	0	57
			後	10	97	28	11		
	地球資源環境学科	前	28	177	170	31	0	39	
		後	10	71	22	11			
	数理・情報システム学科	前	51	246	231	61	0	76	
		後	20	123	57	24			
	機械・電気電子工学科	前	35	152	137	38	3	51	
		後	15	122	29	16			
	建築・生産設計工学科	前	23	90	84	36	0	35	
後		5	16	16	5				
	計		296	1,509	1,089	346	3	311	
生物資源科学部	生物科学科	前	17	28	27	18	0	21	
		後	5	40	16	6			
	生命工学科	前	29	88	83	33	0	35	
		後	5	52	17	8			
	農林生産学科	前	54	166	155	59	2	64	
		後	10	207	207	24			
地域環境科学科	前	30	58	55	34	0	38		
	後	5	47	12	7				
	計		155	686	572	189	2	158	
合計	前		665	2,511	2,272	763	7	910	
	後		207	1,887	800	261			
	一般入試合計		872	4,398	3,072	1,024	7	910	

注1「前」…前期日程 「後」…後期日程

注2医学部医学科の受験者数は第1段階選抜不合格者を除く数である。

(2) 専門高校・総合学科卒業生入試

学部	学科	募集人員	志願者	受験者	合格者	追加合格者	入学者
医学部	看護学科	3以内	4	4	2	—	2
合計		3以内	4	4	2	—	2

(3) 推薦入試

学部	学科・課程・専攻等	区分	募集人員	志願者	受験者	合格者	入学者	
法文学部	法経学科	推Ⅰ	10	24	24	10	10	
		推Ⅱ	7	39	38	7	7	
		推Ⅲ	7	20	20	7	7	
		計	24	83	82	24	24	
教育学部	学校教育課程Ⅰ類	自然環境教育専攻	推Ⅰ	4	4	4	4	
		人間生活環境教育専攻	推Ⅰ	4	9	9	5	
	学校教育課程Ⅱ類	健康・スポーツ教育専攻	推Ⅰ	4	13	13	4	4
			推Ⅱ	6	23	23	8	8
		音楽教育専攻	推Ⅰ	4	5	5	3	3
			美術教育専攻	推Ⅰ	4	5	5	3
	計		22	54	54	24	24	
医学部	医学科	推Ⅱ	25以内	142	141	25	25	
		地推	10以内	15	15	3	3	
		緊推	5以内	16	16	5	5	
	看護学科	推Ⅱ	15	37	37	15	15	
		計		55	210	209	48	48
総合理工学部	物質科学科	物理受験コース	推Ⅰ	5	18	18	7	7
			推Ⅱ	6	26	26	6	6
		化学受験コース	推Ⅰ	4	12	12	4	4
			推Ⅱ	4	14	14	5	5
	地球資源環境学科	推Ⅰ	7	14	14	7	7	
		推Ⅱ	6	29	29	6	6	
	数理・情報システム学科	数理系コース	推Ⅰ	6	16	16	6	6
			推Ⅱ	10	33	33	12	12
		情報系コース	推Ⅰ	5	21	21	7	7
			推Ⅱ	5	21	21	7	7
	機械・電気電子工学科	推Ⅰ	15	45	45	15	15	
推Ⅱ		14	39	39	14	14		
建築・生産設計工学科	推Ⅰ	11	31	31	12	12		
	計		93	298	298	101	101	
生物資源科学部	生物科学科	推Ⅰ	8	17	17	9	9	
		推Ⅱ	6	6	6	5	5	
		推Ⅲ	21	37	37	21	21	
		推Ⅳ	10	13	13	10	10	
		計		45	73	73	45	45
合計	推Ⅰ		149	392	391	156	156	
	推Ⅱ		75	295	294	78	78	
	地推		10	15	15	3	3	
	緊推		5	16	16	5	5	
	推薦入試合計		239	718	716	242	242	

注1「推Ⅰ」…推薦入試Ⅰ(センター試験を課さない) 「推Ⅱ」…推薦入試Ⅱ(センター試験を課す)

「地推」…地域枠推薦入試 「緊推」…緊急医師確保対策枠推薦入試

入試実施状況(2015年度入学)

(4) アドミッション・オフィス入試

学部	学科・課程・専攻等	区分	募集人員	志願者	受験者	合格者	入学者	
教育学部	学校教育課程Ⅰ類	文系型	AOⅡ	20	45	45	17	17
		理系型	AOⅡ	12	24	23	13	13
		計		32	69	68	30	30
総合理工学部	地球資源環境学科	AOⅠ	5	7	7	5	5	
	理工特別コース	AOⅡ	6	10	10	4	4	
	計		11	17	17	9	9	
合 計		AOⅠ	5	7	7	5	5	
		AOⅡ	38	79	78	34	34	
		AO入試合計	43	86	85	39	39	

注1.「AOⅠ」…AO入試Ⅰ(センター試験を課さない) 「AOⅡ」…AO入試Ⅱ(センター試験を課す)

(5) 社会人入試

学部	学科	募集人員	志願者	受験者	合格者	入学者
法文学部	法経学科	若干名	1	1	0	0
	社会文化学科	若干名	1	1	0	0
	言語文化学科	若干名	0	0	0	0
合 計		-	2	2	0	0

(6) 帰国生入試

学部	学科	募集人員	志願者	受験者	合格者	入学者
法文学部	法経学科	推薦Ⅰと合計10名	0	0	0	0
	社会文化学科	若干名	1	1	1	0
	言語文化学科	若干名	0	0	0	0
	計	-	1	1	1	0
生物資源科学部	生物科学科	若干名	0	0	0	0
	生命工学科	若干名	0	0	0	0
	農林生産学科	若干名	1	1	0	0
	地域環境科学科	若干名	0	0	0	0
合 計		-	2	2	1	0

■2016年度入試日程(予定)

区 分		募集要項発表	出願期間	試験実施日	合格発表
一般入試	前期日程	全学部	11月下旬	2/25・26	3/7
	後期日程	全学部		3/12	3/22
専門高校・総合学科 卒業生入試	医学部看護学科			2/25・26	3/7
推薦入試Ⅰ	法文学部, 教育学部, 総合理工学部, 生物資源科学部	7月下旬	11/2～11/6	11/21	12/1
推薦入試Ⅱ	医学部 総合理工学部		11/2～11/6 1/18～1/22	12/5 2/5	2/10
地域枠推薦入試	医学部医学科	4/27		12/5・6	
緊急医師確保対策枠推薦入試	医学部医学科			12/5	
社会人入試	法文学部	7月下旬	11/2～11/6	11/21	12/1
帰国生入試	法文学部 生物資源科学部				
私費外国人留学生入試	法文学部, 総合理工学部, 生物資源科学部		11/30～12/4	書類選考	1/22
AO入試Ⅰ	総合理工学部地球資源環境学科, 生物資源科学部		9/1～9/11	10/3	10/13
AO入試Ⅱ	法文学部社会文化学科		10/1～10/7	11/21	2/10
	教育学部学校教育課程Ⅰ類		10/9～10/16		
	総合理工学部理工特別コース		11/2～11/6		

■3年次編入学入試

学部	学科等	区分	募集人員	志願者	受験者	合格者	追加合格者	入学者	
法文学部	法経学科	一般	10	20	18	3	0	2	
	社会文化学科	一般		7	7	3	0	2	
	言語文化学科	一般		14	13	6	0	6	
		計	10	41	38	12	0	10	
医学部	医学科(学士入学)	一般	10	214	186	11	0	10	
	看護学科	一般	10	12	12	5	0	4	
		一般2次		1	1	0	0	0	
		計	20	227	199	16	0	14	
総合理工学部	物質科学科	物理系	推薦	12	0	0	0	0	0
			一般		2	2	1	0	0
		化学系	推薦		0	0	0	0	0
			一般		0	0	0	0	0
	地球資源環境学科	一般	0		0	0	0	0	
	数理・情報システム学科	数理系	一般		2	2	1	0	0
			情報系		0	0	0	0	0
	機械・電気電子工学科	推薦	一般		4	4	2	0	1
			一般		2	2	2	0	2
	建築・生産設計工学科	推薦	一般		16	16	6	2	7
			一般		1	1	1	0	1
		計	6	6	2	0	2		
		計	12	33	33	15	2	13	
生物資源科学部	生物科学科	推薦	20	1	1	0	0	0	
		一般		2	2	1	0	1	
	生命工学科	推薦		0	0	0	0	0	
		一般		1	1	1	0	0	
	農林生産学科	推薦		9	9	7	0	7	
		一般		12	12	8	0	5	
	地域環境科学科	推薦		0	0	0	0	0	
一般		4	4	4	0	1			
		計	20	29	29	21	0	14	
合計			62	330	299	64	2	51	

■大学院

研究科	専攻等	募集人員	志願者	受験者	合格者	入学者	
人文社会科学研究科 (修士課程)	法経専攻	6	15	14	9	9	
	言語・社会文化専攻	6	9	9	6	6	
	計	12	24	23	15	15	
教育学研究科 (修士課程)	教育実践開発専攻	20	23	20	16	14	
	教育内容開発専攻	20	15	15	14	11	
	計	40	38	35	30	25	
医学系研究科 (修士課程)	医科学専攻	15	12	12	12	12	
	看護学専攻	12	12	12	12	12	
	計	27	24	24	24	24	
医学系研究科 (博士課程)	医科学専攻	30	41	40	35	35	
	計	30	41	40	35	35	
総合理工学研究科 (博士前期課程)	総合理工学専攻	理工・医連携コース	6	4	4	4	4
		物理・材料科学コース	17	25	25	25	18
		物質化学コース	22	30	26	25	23
		地球資源環境学コース	16	16	15	15	14
		数理科学コース	13	16	15	14	12
		情報システム学コース	11	6	6	6	5
		機械・電気電子工学コース	29	42	41	36	34
		建築・生産設計工学コース	10	20	19	19	16
	計	124	159	151	144	126	
総合理工学研究科 (博士後期課程)	総合理工学専攻	理工学際創成コース	12	0	0	0	0
		数理・物質創成科学コース		4	4	4	4
		地球科学・地球環境コース		2	2	2	2
		機械電子情報工学コース		4	4	4	4
	計	12	10	10	10	10	
生物資源科学研究科 (修士課程)	生物生命科学専攻	20	25	24	24	24	
	農林生産科学専攻	22	10	10	10	10	
	環境資源科学専攻	18	20	20	20	18	
	計	60	55	54	54	52	
合計		305	351	337	312	287	

卒業生数・修了者数

■学部

2015.3.31現在

区	分	2014年度卒業生	累計
法文学部	法経学科	88	684
	社会文化学科	76	564
	言語文化学科	64	1,171
	法学科	—	3,988
	社会システム学科	—	762
	文学科	—	1,586
	計	228	8,755
教育学部	学校教育課程	156	1,330
	学校教育教員養成課程	—	1,093
	生涯学習課程	—	527
	生活環境福祉課程	—	174
	小学校教員養成課程	—	4,790
	中学校教員養成課程	—	2,546
	養護学校教員養成課程	—	570
	幼稚園教員養成課程	—	574
	特別教科(音楽)校教員養成課程	—	1,152
	特別教科(保健体育)校教員養成課程	—	856
	社会教育文化課程	—	398
	計	156	14,010
医学部	医学科	85	3,244
	看護学科	66	881
	計	151	4,125
総合理工学部	物質科学科	134	1,882
	地球資源環境学科	44	684
	数理・情報システム学科	92	1,435
	電子制御システム工学科	83	1,143
	材料プロセス工学科	38	687
	計	391	5,831
生物資源科学部	生物科学科	26	471
	生態環境科学科	56	809
	生命工学科	46	654
	農業生産学科	36	534
	地域開発科学科	56	891
	計	220	3,359
文理学部		—	3,950
理学部		—	3,510
農学部		—	5,141
合	計	1,146	48,681

■専攻科他

区	分	2014年度修了者	累計
文学専攻科		—	18
理学専攻科		—	45
教育専攻科		—	232
農学専攻科		—	11
合	計	—	306
教育学部 教員養成2年課程		—	1,106

■大学院

2015.3.31現在

区 分		2014年度修了者 (単位取得退学含む)	累計
人文社会科学研究科	法経専攻	2	46
	言語・社会文化専攻	4	65
	法学専攻	—	56
	社会システム専攻	—	43
	言語文化専攻	—	32
	計	6	242
教育学研究科	教育実践開発専攻	16	99
	教育内容開発専攻	12	108
	学校教育専攻	—	187
	教科教育専攻	—	412
	計	28	806
医学系研究科 (博士課程)	形態系専攻	—	163
	機能系専攻	0	178
	生態系専攻	—	56
	医科学専攻	14	87
	計	14	484
医学系研究科 (修士課程)	医科学専攻	15	99
	看護学専攻	10	112
	計	25	211
総合理工学研究科 (博士後期課程)	マテリアル創成工学専攻	3	75
	電子機能システム工学専攻	1	32
	計	4	107
総合理工学研究科 (博士前期課程)	総合理工学専攻	133	232
	物質科学専攻	—	465
	地球資源環境学専攻	—	184
	数理・情報システム学専攻	—	275
	電子制御システム工学専攻	—	341
	材料プロセス工学専攻	—	133
	計	133	1,630
生物資源科学研究科	生物生命科学専攻	25	128
	農林生産科学専攻	6	67
	環境資源科学専攻	9	82
	生物科学専攻	—	71
	生態環境科学専攻	—	133
	生命工学専攻	—	110
	農業生産学専攻	—	66
	地域開発科学専攻	—	69
	計	40	726
法務研究科	法曹養成専攻	7	122
	計	7	122
理学研究科		—	616
農学研究科		—	739
法学研究科		—	80
合 計		257	5,763

■博士の学位授与者数

2015.3.31現在

区 分	課程博士		論文博士	
	2014年度	累計	2014年度	累計
医学系研究科	15	441	5	306
総合理工学研究科	5	99	0	7

卒業・修了後の状況(2014年度)

学部

2015.5.1 現在

区 分	法文学部	教育学部	医学部	総合理工学部	生物資源科学部	計
卒業者	228	156	151	391	220	1,146
進学者	15	9	5	143	63	235
農業、林業	1			1	6	8
漁業						0
鉱業、採石業、砂利採取業						0
建設業	1			17	2	20
製造業	10	3		44	30	87
電気・ガス・熱供給・水道業				2	4	6
情報通信業	7			26	5	38
運輸業、郵便業	8			2	2	12
卸売業・小売業	25	8		20	20	73
金融業・保険業	29	8		14	7	58
不動産業、物品賃貸業				1	2	3
学術研究、専門・技術サービス業	13	1		25	6	45
宿泊業、飲食サービス業	7	2		1	1	11
生活関連サービス業、娯楽業	7	2		1	1	11
教育（学校教育）	4	94	5	18	5	126
学習支援	2			3	1	6
医療・福祉	9	7	55	4	3	78
複合サービス業	7	1		5	5	18
その他のサービス業	5	2		10	3	20
公務（国家）	8			4	6	18
公務（地方）	33	5		22	24	84
その他	1			1	1	3
就職者計	177	133	60	221	134	725
臨床研修医			82			82
無業者等	36	14	4	27	23	104

※「無業者等」は、「専修学校・外国の学校等の入学者」、「一時的な仕事に就いた者」、「未決定者」である

大学院

2015.5.1 現在

区 分	人文社会 科学研究科	教育学研究科	医学系研究科		総合理工学研究科		生物資源 科学研究科	法務研究科	計
			修士	博士一貫	博士前期	博士後期			
卒業（修了）者	6	28	25	14	133	4	40	7	257
進学者					12		2		14
農業、林業							2		2
漁業									0
鉱業、採石業、砂利採取業					1				1
建設業					10				10
製造業			2		58		15		75
電気・ガス・熱供給・水道業					3				3
情報通信業				1	9		2		12
運輸業、郵便業					1				1
卸売業・小売業			1		4		4		9
金融業、保険業	1								1
不動産業、物品賃貸業									0
学術研究、専門・技術サービス業					8	1	2	1	12
宿泊業、飲食サービス業									0
生活関連サービス業、娯楽業							1		1
教育（学校教育）		16	6	6	5	2	1		36
学習支援	1				2				3
医療、福祉		3	14	5			2		24
複合サービス業			1						1
その他のサービス業					9		3		12
公務（国家）					2		1		3
公務（地方）		6	1		3		1		11
その他									0
就職者計	2	25	25	12	115	3	34	1	216
無業者等	4	3	0	2	6	1	4	6	26

※「無業者等」は、「専修学校・外国の学校等の入学者」、「一時的な仕事に就いた者」、「未決定者」である

●卒業後の主な就職先・進学先

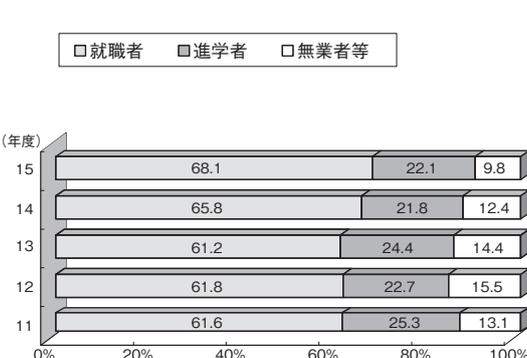
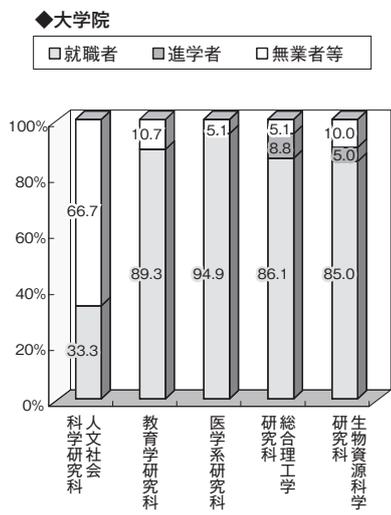
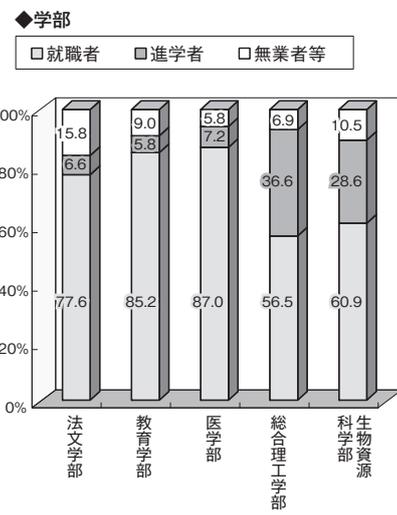
2015.5.1現在

区分	就職先・進学先
法文学部	<p>就職先 あおいニッセイ同和損害保険、イーオン、磐田信用金庫、エイチ・アイ・エス、岡山製紙、オハヨー乳業、川之江信用金庫、コスモス薬品、小西医療器、コネクシオ、JA香川県、JALスカイ、全日信販、高岡信用金庫、玉島信用金庫、天満屋、東武トップツアーズ、ナフコ、西日本新聞社、日本郵便、日本トイザらス、日本生命保険、光軽金属工業、ピザビグループ、ヒマラヤ、福山通運、もみじ銀行、横浜ゴムMBジャパン、両備ホールディングス 岡山労働局、東京消防庁、福岡県庁、敦賀市役所、京丹後市役所、穴栗市役所、高梁市役所、美作市役所、日本年金機構</p> <p>【地元企業等】アースサポート、ウェルネス湖北、LPCグループ、山陰合同銀行、山陰中央新報社、JAいずも、JAくにびき、JA鳥取信連、JAバンク島根信連、島根銀行、しまね信用金庫、東京靴、鳥取銀行、NOSAI鳥取、益田商工会議所、皆美グループ、モルツウェル、米子商工会議所、米子信用金庫 鳥取労働局、島根県、智頭町役場、自衛隊島根地方協力本部、島根県警、島根県市町村総合事務組合、島根大学</p> <p>進学先 島根大学大学院、三重大学大学院、神戸大学大学院、岡山大学大学院、早稲田大学大学院 京都大学法科大学院、岡山大学法科大学院、広島大学法科大学院</p>
教育学部	<p>就職先 【学校関係等】 (小学校)島根県、鳥取県、岡山県、広島県、山口県、京都市(中学校)島根県、鳥取県、岡山県、広島県、山口県、神戸市(高等学校)島根県、広島県、兵庫県 (特別支援)島根県、広島県(私立学校)学校法人水谷学園、学校法人近畿大学(幼稚園・保育園)松江市立幼稚園、津山市立保育園、岡山県幼稚園 【企業等】観音寺信用金庫、小西医療器、住友生命保険、長島観光開発、フレイマわり、山本金属製作所、岡山市役所、広島市役所、宝塚市役所 【地元企業等】山陰合同銀行、島根銀行、しまね信用金庫、島根トヨタグループ、スタジオアリス、野村證券松江支店、島根県庁、島根県警、松江市役所</p> <p>進学先 島根大学大学院、鳥取大学大学院、鳴門教育大学大学院</p>
医学部	<p>【医学科：臨床研修先】島根大学医学部附属病院、島根県立中央病院、松江赤十字病院、松江市立病院、松江生協病院、浜田医療センター、益田赤十字病院、東京大学医学部附属病院、京都大学医学部附属病院、広島大学病院、岡山大学病院、山口大学医学部附属病院、九州大学病院 など</p> <p>【看護学科：就職先】島根大学医学部附属病院、島根県立中央病院、出雲市民病院、松江赤十字病院、島根県(保健師)、島根県公立学校(養護教諭)、岡山大学病院、広島大学病院、神戸大学医学部附属病院、京都大学医学部附属病院、鳥取大学医学部附属病院、国立循環器病研究センター など</p>
総合理工学部	<p>就職先 IHJ、愛三工業、アステム、アルプス技研、NTN、応用地質、大塚商会、オリジン電気、オークマ、関西電力、北川鉄工所、京セラ、協和エクシオ、JR西日本、ジェイ・エム・エス、ジェイテクト、シャープ、スズケン、積水ハウス、ソニーリージョナルセールス、高砂熱学工業、但馬銀行、大気社、中国電力、帝国繊維、TDK、戸田工業、豊田合成、日亜化学工業、ニチコン、日特建設、日本電産、NEXCO西日本、ノーリツ、ハローズ、福屋、不二越、三ツ星ベルト、メイテック、やまびこ、ユーシン 静岡県公立学校、愛知県公立学校、岐阜県公立学校、福井県公立学校、国税庁(国税専門官)、国土交通省中国地方整備局、防衛省地方防衛局、金沢市役所、岡山市消防局、長崎県警</p> <p>【地元企業等】ALSOK山陰、一条工務店山陰、ケイス、寿製菓、山陰合同銀行、山陰酸素工業、さんびる、JAいずも、JAくにびき、島根銀行、しまね信用金庫、島根島津、島根電工、島根情報処理センター、ティーエスケイ情報システム、テクノプロジェクト、鳥取銀行、中筋組、日本ハイソフト、プロビスモ、丸合、米子信用金庫 鳥根労働局、島根県庁、島根県警、鳥取県警、島根大学</p> <p>進学先 島根大学大学院、東北大学大学院、東京大学大学院、東京工業大学大学院、横浜国立大学大学院、名古屋大学大学院、大阪大学大学院、岡山大学大学院、広島大学大学院、九州大学大学院、大阪市立大学大学院</p>
生物資源科学部	<p>就職先 イオンアグリ創造、オイスカ、大阪信用金庫、オハヨー乳業、化学及血清療法研究所、京都信用保証協会、コスモス薬品、コメリ、山陽薬品、JAF、JA周南、JA丹波ひかみ、JAまにわ、ジャパンフーズ、商工中金、ソニーリージョナルセールス、高松信用金庫、なかやま牧場、日本牛乳野菜、日本サンガリアペレグジカンパニー、日本ステリ、日本政策金融公庫、日本ビューアフード、日本郵便、フジパングループ本社、三島食品、源吉兆庵、モンベル、ワキタ、湧永製薬 京都府公立学校、国土交通省中部地方整備局、国土交通省中国地方整備局、農林水産省植物防疫所、広島県庁、香川県庁、長崎県庁、名古屋市役所、岡山県警</p> <p>【地元企業等】アルファー食品、アースサポート、出雲村田製作所、山陰国分、山陰酸素工業、さんれいフーズ、JAくにびき、島根県土地改良事業団体連合会、須山木材、中国環境、テクノプロジェクト、東京靴、本部三慶、松江土建、マルハマ食品、米子ガス 島根県庁、島根県警、安来市役所</p> <p>進学先 島根大学大学院、筑波大学大学院、東京大学大学院、千葉大学大学院、名古屋大学大学院、神戸大学大学院、奈良先端科学技術大学院大学大学院、岡山大学大学院、広島大学大学院、九州大学大学院、横浜市立大学大学院</p>

*順不同。大学院修了者の就職先含む。

●卒業・修了後の状況 (2015.5.1)

●卒業後の状況の推移(学部)



(注)医学部は、臨床研修医を含まない。

(注)法務研究科は含まない(修了者が少ないため)。

(注)各年度の5月1日現在のデータである。

公開講座・公開授業(2014年度)

■公開講座

区分	講座名	回数	総時間	募集人数	受講人数	開設場所	実施部局
前期	救急医療と社会	3	6	30	8	出雲キャンパス	医学部
	六次産業化産品の販売戦略としてのSWOT分析	1	1.5	20	3	松江キャンパス	農林水産業の六次産業化プロジェクトセンター
	金曜日のドイツ語	8	8	20	20	松江キャンパス	外国語教育センター
	日本の医療は安全か?	3	4.5	20	12	松江キャンパス	医学部
	「家族の記録」デジタルアーカイブづくり	5	10	15	10	松江キャンパス	生涯教育推進センター
	旬の果実でジャムづくり	3	7.5	10	10	本庄総合農場	生物資源科学部
	第10回島根まるごとミュージアム体験ツアー	1	6	40	40	安来市・奥出雲市	ミュージアム
	やさしいサツマイモ栽培	6	9	10	12	本庄総合農場	生物資源科学部
	身近な材料でできるナノテクノロジー	1	2	30	10	松江キャンパス	ナノテクノロジーセンター
	新しい医療診断技術「ラマン分光法」とは何か?	1	2	30	9	松江キャンパス	医・生物ラマンプロジェクトセンター
	使ってみよう!ワープロソフト・ワード	4	8	25	20	松江キャンパス	生物資源科学部
	上級者へステップアップ!ワープロソフト・ワード	4	8	25	23	松江キャンパス	生物資源科学部
	理科実験講座1 自然の中の放射線	1	2.5	20	11	出雲科学館	総合科学研究支援センター
	理科実験講座2 台所は実験室	1	2.5	20	10	出雲科学館	総合科学研究支援センター
	お口の探検ツアー	1	4	8	4	出雲キャンパス	医学部
	硬式テニス教室	10	20	40	44	学内テニスコート	教育学部
	仕事で使える「ワード」基本スキルをマスター	10	20	20	5	松江キャンパス	生涯教育推進センター
	子どもテニス教室1A	8	8	30	11	学内テニスコート	教育学部
	子どもテニス教室1B	8	12	30	12	学内テニスコート	教育学部
	泳げない子の水泳教室	5	15	20	10	学内プール	教育学部
少しだけ泳げる子の水泳教室	5	15	20	28	学内プール	教育学部	
後期	「国語」の世界を訪ねる 一國語科の「今」	6	9	30	19	松江キャンパス	教育学部
	金曜日のドイツ語	8	8	20	19	松江キャンパス	外国語教育センター
	始めてみよう!表計算ソフト・エクセル	2	4	25	17	松江キャンパス	生物資源科学部
	キッズサイエンス スクール(午前コース)	3	6	10	6	松江キャンパス	地域課題学習支援センター
	キッズサイエンス スクール(午後コース)	3	6	10	5	松江キャンパス	地域課題学習支援センター
	版画講座—シルクスクリーンでオリジナルプリントを作ろう—	3	6	8	9	松江キャンパス	教育学部
	硬式テニス教室	10	20	40	45	学内テニスコート	教育学部
	子ども硬式テニス教室2A	8	8	30	13	学内テニスコート	教育学部
	子ども硬式テニス教室2B	8	12	30	12	学内テニスコート	教育学部
	仕事で使える「エクセル」基本スキルをマスター	10	20	20	13	松江キャンパス	生涯教育推進センター

(※) すべて有料講座です。

■公開授業

科目名	曜日	時間	募集人数	受講人数	開設場所	実施部局
東アジアのこぼれと文学	月	1・2時限	10	1	松江キャンパス	法文学部
情報化社会と経済	月	1・2時限	5	4	松江キャンパス	法文学部
歴史学概論	月	3・4時限	10	1	松江キャンパス	法文学部
教育臨床心理学概説	月	3・4時限	10	4	松江キャンパス	教育学部
東洋史概説A	月	3・4時限	10	9	松江キャンパス	法文学部
労働法I	月	3・4時限	10	0	松江キャンパス	法文学部
現代フランス語基礎演習I	月	5・6時限	5	4	松江キャンパス	法文学部
考古学概論I	月	5・6時限	10	2	松江キャンパス	法文学部
イギリス文学基礎演習I	月	5・6時限	3	3	松江キャンパス	法文学部
芸術学講義II	月	5・6時限	10	7	松江キャンパス	法文学部
農場基礎実習I	月	7~9時限	5	2	本庄総合農場	生物資源科学部
基礎物理学I B	月	9・10時限	3	1	松江キャンパス	総合理工学研究科
木によるものづくり実習III	月	9・10時限	5	4	松江キャンパス	教育学部
考古学からみた韓半島の先史・古代文化	火	1・2時限	15	14	松江キャンパス	法文学部
共生社会史	火	1・2時限	5	0	松江キャンパス	教育学部
日本史概説A	火	1・2時限	10	3	松江キャンパス	法文学部
汽水域の科学	火	3・4時限	10	6	松江キャンパス	汽水域研究センター
細胞学	火	3・4時限	5	2	松江キャンパス	生物資源科学部
社会保障法	火	3・4時限	10	0	松江キャンパス	法文学部
地誌学概説	火	3・4時限	10	1	松江キャンパス	教育学部
木質建築学I	火	3・4時限	20	1	松江キャンパス	総合理工学研究科
山陰の歴史~古代・中世	火	5・6時限	10	9	松江キャンパス	法文学部
心の世界	火	5・6時限	10	7	松江キャンパス	法文学部
共生社会演習(人文地理学)	火	5・6時限	10	0	松江キャンパス	教育学部
財政学I	火	5・6時限	10	3	松江キャンパス	法文学部
固体物理学I	火	5・6時限	3	0	松江キャンパス	総合理工学研究科
フランスの社会と文化	火	7・8時限	10	8	松江キャンパス	法文学部
日本語史講義	火	7・8時限	10	1	松江キャンパス	法文学部
日本文学史A II	火	9・10時限	10	2	松江キャンパス	教育学部
耕地栽培学	水	1・2時限	5	0	松江キャンパス	生物資源科学部
古代出雲の考古学	水	3・4時限	10	7	松江キャンパス	法文学部
王朝の文学	水	3・4時限	5	4	松江キャンパス	法文学部
西洋史概説A	水	3・4時限	10	1	松江キャンパス	法文学部

	科目名	曜日	時間	募集人数	受講人数	開設場所	実施部局	
前期	植物細胞工学	水	5・6時限	5	3	松江キャンパス	総合科学研究支援センター	
	自然地理学概論	木	1・2時限	5	0	松江キャンパス	法文学部	
	エレクトロニクスセミナー	木	3・4時限	5	1	松江キャンパス	総合理工学研究科	
	農作業学	木	3・4時限	5	1	松江キャンパス	生物資源科学部	
	フランス言語文化入門	木	3・4時限	10	8	松江キャンパス	法文学部	
	農場基礎実習Ⅲ	木	7～9時限	5	3	本庄総合農場	生物資源科学部	
	金融論Ⅰ	木	7・8時限	5	4	松江キャンパス	法文学部	
	文化人類学入門	木	9・10時限	10	2	松江キャンパス	法文学部	
	人文地理学概説Ⅱ	木	9・10時限	10	0	松江キャンパス	教育学部	
	環境の化学	金	1・2時限	10	1	松江キャンパス	総合理工学研究科	
	基礎社会学Ⅰ	金	3・4時限	5	13	松江キャンパス	法文学部	
	アメリカ短篇小説を読む	金	3・4時限	3	3	松江キャンパス	法文学部	
	果樹園芸学	金	3・4時限	3	3	松江キャンパス	生物資源科学部	
	情報産業論	金	3・4時限	5	1	松江キャンパス	法文学部	
	高分子科学	金	3・4時限	5	1	松江キャンパス	総合理工学研究科	
	日本人の宗教と死生観	金	5・6時限	10	7	松江キャンパス	法文学部	
	東アジアの歴史と文化	金	5・6時限	10	12	松江キャンパス	法文学部	
	山陰地域の自然災害	金	5・6時限	3	3	松江キャンパス	法文学部	
	基礎社会学Ⅱ	金	7・8時限	3	3	松江キャンパス	法文学部	
	出雲文化学	金	7・8時限	100	33	松江キャンパス	ミュージアム	
	日本古典文学特殊講義	金	7・8時限	10	1	松江キャンパス	教育学部	
	歴史学史料演習G	金	7・8時限	3	2	松江キャンパス	法文学部	
	環境問題通論A	金	9・10時限	10	2	松江キャンパス	生物資源科学部	
	木によるものづくり実習Ⅰ	金	9・10時限	5	10	松江キャンパス	教育学部	
	基礎フィールド演習		集中講義(不定期)	3	2	フィールドワーク	生物資源教育研究センター	
	後期	中国文学における風土と人間	月	1・2時限	10	2	松江キャンパス	法文学部
		情報経済論	月	1・2時限	5	3	松江キャンパス	法文学部
		農場基礎実習Ⅱ	月	5～8時限	5	1	本庄総合農場	生物資源科学部
		考古学概論Ⅱ	月	5・6時限	10	3	松江キャンパス	法文学部
		イギリス文学基礎演習Ⅱ	月	5・6時限	3	3	松江キャンパス	法文学部
		現代フランス語基礎演習Ⅱ	月	5・6時限	5	7	松江キャンパス	法文学部
		芸術学講義Ⅲ	月	5・6時限	10	16	松江キャンパス	法文学部
		発生生物学	月	9・10時限	10	6	松江キャンパス	生物資源科学部
		木によるものづくり実習Ⅱ	月	9・10時限	5	10	松江キャンパス	教育学部
		考古学から見た古代山陰の世界	火	1・2時限	10	8	松江キャンパス	法文学部
		遺伝学	火	1・2時限	3	1	松江キャンパス	生物資源科学部
		財政学Ⅱ	火	1・2時限	5	2	松江キャンパス	法文学部
		遺伝子を考える	火	3・4時限	5	3	松江キャンパス	生物資源科学部
		地域づくり～地域教育の再生～	火	3・4時限	5	2	松江キャンパス	生涯教育推進センター
		労働法Ⅱ	火	3・4時限	10	2	松江キャンパス	法文学部
地方財政論		火	3・4時限	5	1	松江キャンパス	法文学部	
木質建築学Ⅱ		火	3・4時限	20	1	松江キャンパス	総合理工学研究科	
ヨーロッパの言語文化Ⅱ		火	5・6時限	10	8	松江キャンパス	法文学部	
汽水域の科学(応用編)		火	7・8時限	10	3	松江キャンパス	汽水域研究センター	
東洋史概説B		火	7・8時限	10	13	松江キャンパス	法文学部	
日本語学概論		火	7・8時限	10	13	松江キャンパス	法文学部	
現代史特論A		火	7・8時限	5	1	松江キャンパス	法文学部	
環境問題通論B		火	9・10時限	10	4	松江キャンパス	生物資源科学部	
歴史学史料演習D		水	1・2時限	3	2	松江キャンパス	法文学部	
光環境と生物		水	3・4時限	5	4	松江キャンパス	生物資源科学部	
自然地理学特論		木	1・2時限	5	2	松江キャンパス	法文学部	
動物の世界		木	3・4時限	5	8	松江キャンパス	生物資源科学部	
農場基礎実習Ⅳ		木	5～8時限	5	3	本庄総合農場	生物資源科学部	
環境経済論Ⅱ		木	5・6時限	5	4	松江キャンパス	法文学部	
プレートテクトニクス		木	7・8時限	10	6	松江キャンパス	総合理工学研究科	
金融論Ⅱ		木	7・8時限	6	4	松江キャンパス	法文学部	
木と木工の知識		木	7・8時限	5	3	松江キャンパス	教育学部	
「酒」～一杯の酒から覗く学問の世界～		金	3・4時限	4	3	松江キャンパス	法文学部	
島大ミュージアム学		金	3・4時限	10	7	松江キャンパス	ミュージアム	
経済学概論		金	3・4時限	5	6	松江キャンパス	法文学部	
技術と社会		金	5・6時限	10	7	松江キャンパス	総合理工学研究科	
知ることと生きること		金	5・6時限	10	10	松江キャンパス	法文学部	
日本文学史AⅠ～王朝物語文学史とその周辺-前半-～		金	5・6時限	10	2	松江キャンパス	教育学部	
島根学		金	7・8時限	50	52	松江キャンパス	教育開発センター	
文化共生論～日本の王朝文学と「異界」～		金	7・8時限	10	8	松江キャンパス	教育学部	
歴史学史料演習G～「原教日記」を原教の自筆本で読む～	金	7・8時限	3	2	松江キャンパス	法文学部		

(※) 1・2時限 8:30～10:00、3・4時限 10:15～11:45、5・6時限 12:45～14:15、7・8時限 14:30～16:00、9・10時限 16:15～17:45

(※) 授業回数は15回です。

科学研究費助成事業等の受入状況(2014年度)

■科学研究費助成事業

研究種目	件数	金額(千円)
新学術領域研究	2	17,400
基盤研究(A)	2	12,800
基盤研究(B)	27	89,300
基盤研究(C)	127	134,400
挑戦的萌芽研究	23	22,400
若手研究(A)	2	13,400
若手研究(B)	57	58,900
研究活動スタート支援	4	4,100
特別研究員奨励費	9	9,100
奨励研究	8	4,100
研究成果公開促進費	0	0
計	261	365,900

■厚生労働科学研究費

2015.3.31現在

件数	金額(千円)
4	25,142

■民間等との共同研究

件数	金額(千円)
111	119,900

■受託研究

件数	金額(千円)
69	198,555

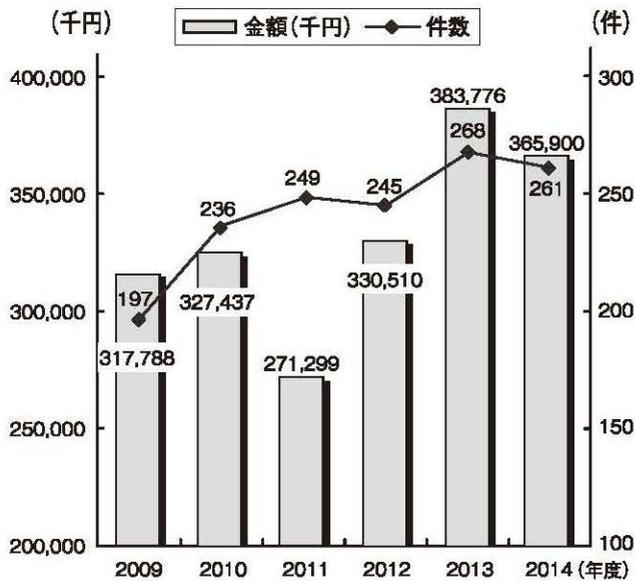
■寄付金

件数	金額(千円)
502	510,131

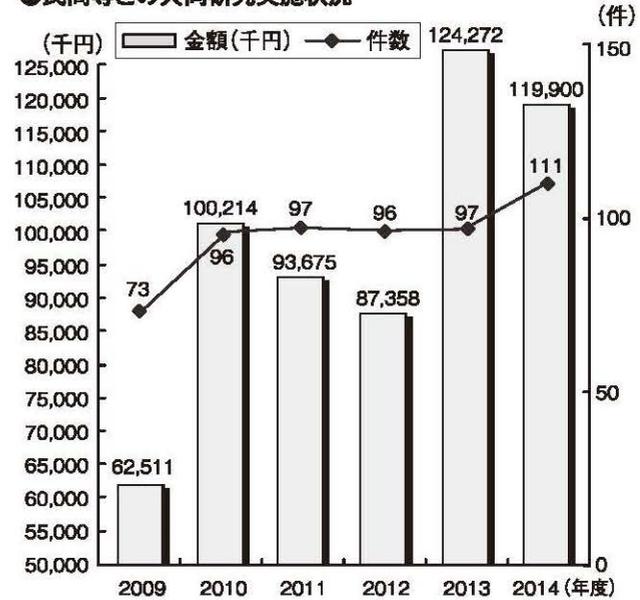
■発明届出等状況(2014年度)

発明届件数	出願件数
19	17

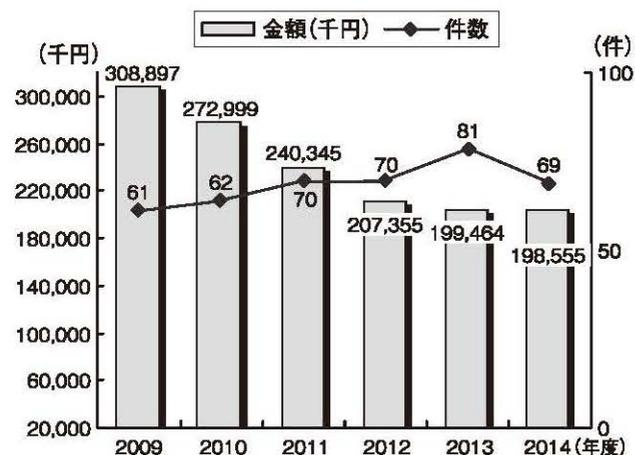
●科学研究費助成事業受入状況



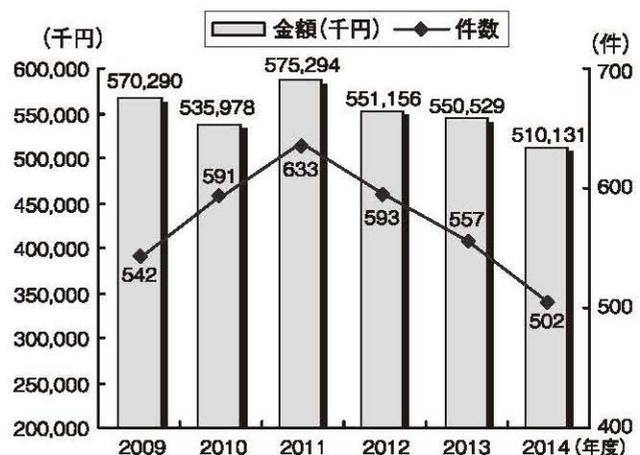
●民間等との共同研究実施状況



●受託研究受入状況



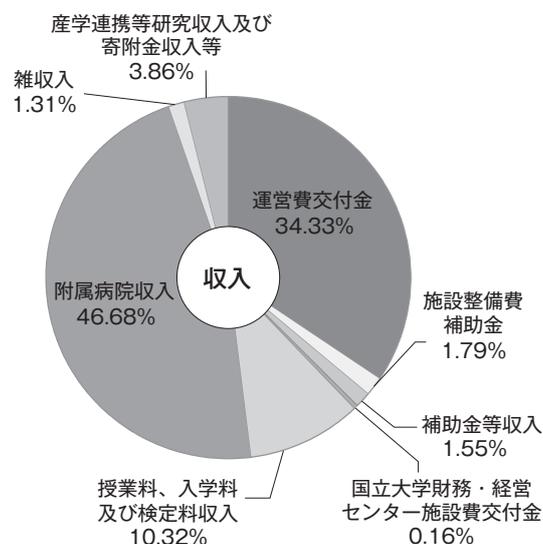
●寄付金受入状況



収入・支出決算額(2014年度)

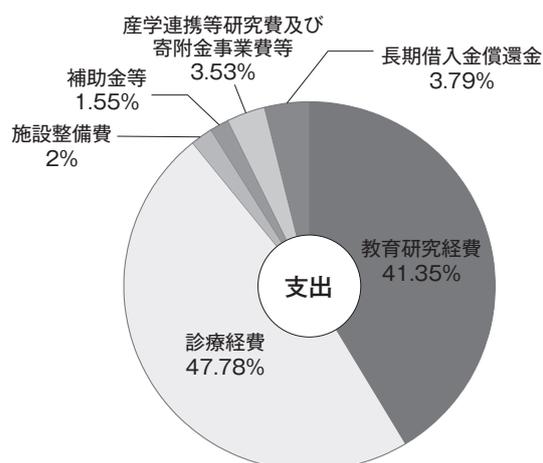
■収入

区 分	金額 (百万円)
運営費交付金	11,299
施設整備費補助金	588
補助金等収入	511
国立大学財務・経営センター施設費交付金	53
授業料、入学料及び検定料収入	3,397
附属病院収入	15,363
雑収入	430
産学連携等研究収入及び寄附金収入等	1,269
合 計	32,910

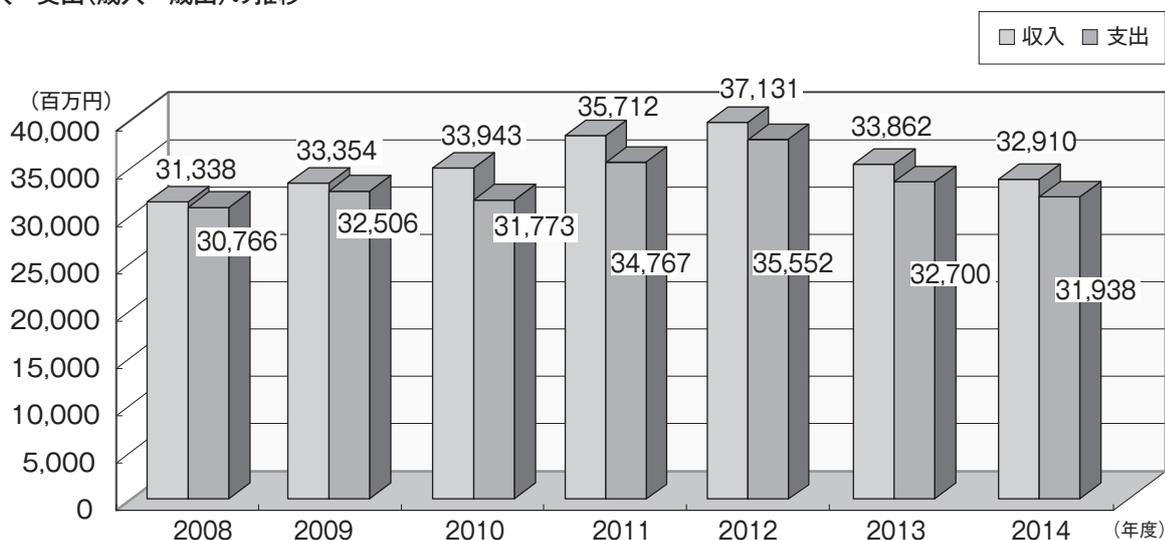


■支出

区 分	金額 (百万円)
教育研究経費	13,205
診療経費	15,261
施設整備費	641
補助金等	495
産学連携等研究費及び寄附金事業費等	1,126
長期借入金償還金	1,210
合 計	31,938



●収入・支出(歳入・歳出)の推移

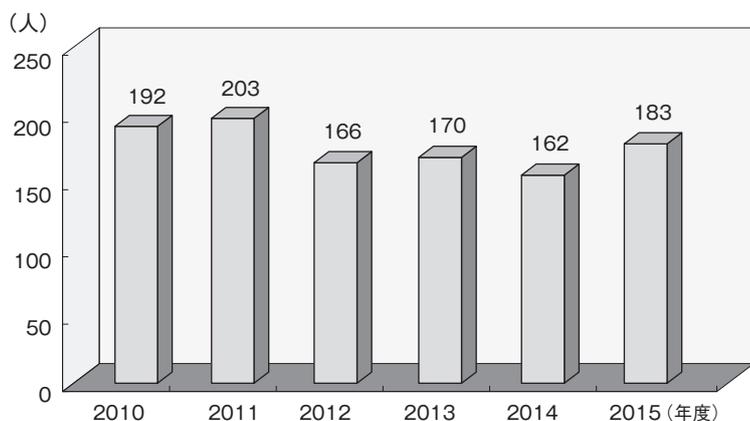


外国人留学生の受入状況

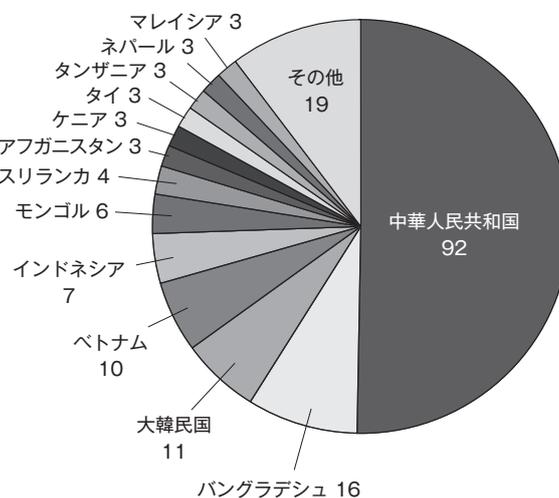
2015.5.1現在

学部等 国籍	法文学部			法文学部 集計	教育学部		教育学部 集計	医学部		医学部 集計	総合理工学部			総合理工学部 集計	生物資源科学部			生物資源科学部 集計	鳥取大学連合農学 研究科	鳥取大学連合農学 研究科 集計	総計
	学部学生	研究生等	大学院学生		研究生等	大学院学生		研究生等	大学院学生		学部学生	研究生等	大学院学生		学部学生	研究生等	大学院学生				
中華人民共和国	13	15	8	36	3	1	4	1	7	8	8	4	7	19	8	5	9	22	3	3	92
Bangladesh									8	8		1	1	2		1	3	4	2	2	16
大韓民国	4			4	1		1					2	1	3	2			2	1	1	11
ベトナム												7	1	8	1			1	1	1	10
インドネシア									3	3							2	2	2	2	7
モンゴル		1		1					4	4			1	1							6
スリランカ													4	4							4
アフガニスタン																	3	3			3
ケニア					1		1										1	1	1	1	3
タイ					1		1						1	1		1	1				3
タンザニア								1	1					2	2						3
ネパール													1	1			1	1	1	1	3
マレーシア											2			2					1	1	3
ギニア													2	2							2
ドイツ		2		2																	2
フランス		2		2																	2
アメリカ合衆国					1		1														1
エジプト																			1	1	1
ガーナ																	1	1			1
キューバ																			1	1	1
キルギス													1	1							1
コロンビア													1	1							1
スイス		1		1																	1
ソロモン諸島																	1	1			1
ナイジェリア													1	1							1
フィジー					1		1														1
ブラジル					1		1														1
ホンジュラス																	1	1			1
リトアニア					1		1														1
総計	17	21	8	46	10	1	11	1	23	24	19	5	24	48	11	7	22	40	14	14	183

●留学生数の推移



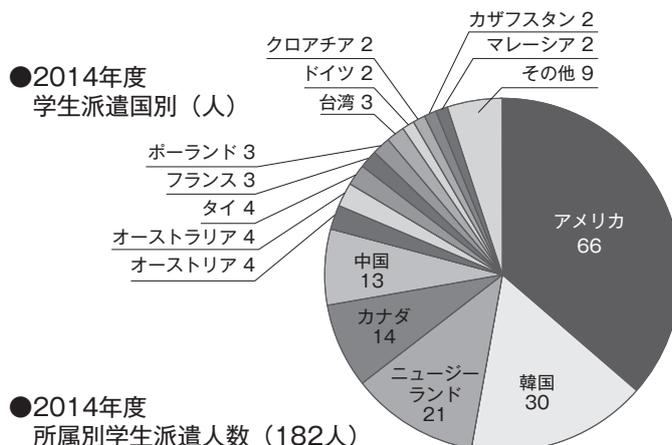
●留学生の国籍内訳



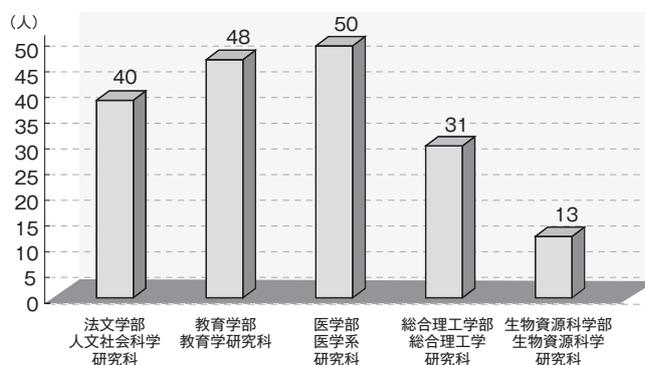
外国への留学状況

■島根大学から留学した学生の数（2014年度）
（留学、語学研修、異文化研修、短期研修等）

1. 派遣国別	(人数)	2. 所属別	(人数)
アメリカ	66	法文学部 人文社会科学研究科	40
韓国	30	教育学部 教育学研究科	48
ニュージーランド	21	医学部 医学系研究科	50
カナダ	14	総合理工学部 総合理工学研究科	31
中国	13	生物資源科学部 生物資源科学研究科	13
オーストリア	4	合計	182
オーストラリア	4		
タイ	4		
フランス	3		
ポーランド	3		
台湾	3		
ドイツ	2		
クロアチア	2		
カザフスタン	2		
マレーシア	2		
その他	9		
合計	182		



●2014年度
所属別学生派遣人数（182人）



■島根大学から交流協定校に交換留学した学生の数（2014年度）

派遣先	法文学部	教育学部	医学部	総合理工学部	生物資源科学部	総計
アメリカ	2	2	0	0	0	4
ドイツ	1	0	0	0	0	1
フランス	1	0	0	0	0	1
中国	0	0	0	0	1	1
韓国	0	0	0	0	1	1
総計	4	2	0	0	2	8

奨学生数

2015.3.1 現在

区分	学生数	日本学生支援機構			比率 (計/学生数)	
		(注1)第一種	(注1)第二種	(注2)計		
法文学部	998	214	285	462	46.3	
教育学部	713	164	215	354	49.6	
医学部	759	158	197	298	39.3	
総合理工学部	1,783	428	539	889	49.9	
生物資源科学部	899	217	274	435	48.4	
計	5,152	1,181	1,510	2,438	47.3	
人文社会科学研究科	13	3	2	4	30.8	
教育学研究科	62	21	2	23	37.1	
医学系研究科	修士課程	63	6	1	7	11.1
	博士課程	119	2	0	2	1.7
総合理工学研究科	博士前期課程	242	112	21	122	50.4
	博士後期課程	27	10	1	11	40.7
生物資源科学研究科	85	44	2	45	52.9	
法務研究科	15	3	0	3	20.0	
計	629	201	29	217	34.5	
合計	5,781	1,382	1,539	2,655	45.9	

(注1)併用貸与者を含むのべ数

(注2)併用貸与者を含む実数

定期刊行文献

● 学術雑誌

発行部局等名	文献誌名	編集	発行回数(年)
法文学部	島大法學	法経学科・法務研究科	4
	経済科学論集	法経学科	1
	社会文化論集	社会文化学科	1
	島根大学社会福祉論集	社会文化学科福祉社会教室	1
	島大言語文化	言語文化学科	2
	山陰研究	山陰研究センター	1
教育学部	島根大学教育学部紀要(教育科学、人文・社会科学、自然科学)	教育学部	1
	島根大学教育臨床総合研究	教育学部附属教育支援センター	1
	島根大学教育学部心理臨床・教育相談室紀要	教育学部心理臨床・教育相談室	1
	附属小学校研究紀要	附属小学校	1
	附属中学校研究紀要	附属中学校	1
	附属学校園研究紀要	附属学校園	1
医学部	島根大学医学部紀要, Shimane Journal of Medical Science	医学部	2
総合理工学部	島根大学総合理工学部紀要	総合理工学部	1
	島根大学地球資源環境学研究所報告	総合理工学研究科地球資源環境学教室	1
生物資源科学部	島根大学生物資源科学部研究報告	生物資源科学部	1
法務研究科	島根大学法文学部紀要法経学科・法務研究科篇(島大法學)	法文学部法経学科・法務研究科	4
外国語教育センター	島根大学外国語教育センタージャーナル	外国語教育センター	1
生涯教育推進センター	島根大学生涯学習研究センター年報	生涯教育推進センター	1
汽水域研究センター	島根大学研究機構汽水域研究センター年次報告	研究機構汽水域研究センター	1
総合科学研究支援センター	島根大学研究機構総合科学研究支援センター教育研究活動報告	研究機構総合科学研究支援センター	1
島根大学・寧夏大学国際共同研究所	島根大学・寧夏大学国際共同研究所年報	島根大学・寧夏大学国際共同研究所	1

● 広報紙等

発行部局等名	文献紙名	編集	発行回数(年)
総務課	島根大学概要	広報室	1
	島根大学案内	広報室	1
	広報しまだい	広報室	4
法文学部	島根大学法文学部(学部案内)	法文学部	1
教育学部	島根大学教育学部(学部案内)	教育学部	1
	島根大学大学院教育学研究科案内	教育学部	1
	1000時間体験学習	教育学部附属教育支援センター	1
	島根大学教員免許状更新講習パンフレット	教育学部附属教師教育研究センター	1
	こころとそだちの相談室	教育学部心理・発達臨床相談室	不定期
	園要覧(附属幼稚園)	附属幼稚園	1
	おりづる	附属幼稚園	3
	学校要覧(附属小学校)	附属小学校	1
	附小だより	附属小学校	11
	ちどり	附属小学校	3
	学校要覧(附属中学校)	附属中学校	1
	SCHOOL GUIDE	附属中学校	1
若樹	附属中学校	3	
学校園要覧	附属学校園	1	
医学部	島根大学医学部(学部案内)	医学部	1
医学部附属病院	しろうさぎ	附属病院	4
	病院ニュース	附属病院	12
総合理工学部	島根大学総合理工学部(学部案内)	総合理工学部	1
	理工特別コースパンフレット	総合理工学部	1
生物資源科学部	島根大学生物資源科学部(学部案内)	生物資源科学部	1
	生物資源科学部だより	生物資源科学部	2
法務研究科	島根大学大学院法務研究科(山陰法科大学院)地域法律相談センター案内	法務研究科	1
教学企画ⅠR室	島根大学卒業生・修了生に対する教育成果の検証に関する調査報告書	教学企画ⅠR室	不定期
教育開発センター	島根大学教育開発センター年報	教育開発センター	不定期
	島根大学優良教育実践表彰者の声	教育開発センター	1
	島根大学生涯教育推進センター年報	生涯教育推進センター	1
生涯教育推進センター	島根大学生涯教育推進センターパンフレット	生涯教育推進センター	不定期
	島根大学公開講座・公開授業受講案内冊子	生涯教育推進センター	2
	島根大学公開講座・公開授業ポスター、募集チラシ	生涯教育推進センター	2
	島根大学キャリアセンター年報	キャリアセンター	1
キャリアセンター	就活ハンドブック	キャリアセンター	1
	島大就活日記	キャリアセンター	1
	企業採用担当者向けパンフレット	キャリアセンター	1
保健管理センター	保健管理センターのしおり(松江)	保健管理センター松江	1
	保健管理センターのしおり(出雲)	保健管理センター出雲	1
産学連携センター	島根大学研究シーズ集	産学連携センター	不定期
	島根大学産学連携センター年報	産学連携センター	1
	島根大学産学連携センターメールマガジン [島根大学産学連携センターニュース]	産学連携センター	不定期
	島根大学産学連携センター・ニュースレター	産学連携センター	1
国際交流センター	SHIMANE UNIVERSITY PROSPECTUS	国際交流センター	1
	国際交流センターニュースレター	国際交流センター	不定期
	島根大学リーフレット	国際交流センター	不定期
附属図書館	島根大学附属図書館概要	図書館課	3年毎
	島根大学附属図書館年報	図書館課	1
	島根大学附属図書館報: 沁雲	図書館課	1
	本館ニュース「Li Me ライム」	図書館課	毎月
	医学図書館ニュース「インフォ・アクセス」	図書館課	毎月
総合情報処理センター	島根大学総合情報処理センター(概要)	総合情報処理センター	不定期
	島根大学総合情報処理センター・News Letter	総合情報処理センター	1
ミュージアム	島根大学ミュージアム・ニュースレター	ミュージアム	不定期
	島根大学ミュージアム年報	ミュージアム	隔年
男女共同参画推進室	島根大学男女共同参画推進室メールマガジン [さぼっと通信]	男女共同参画推進室	不定期
	島根大学男女共同参画推進室事業報告書	男女共同参画推進室	不定期
地域課題学習支援センター	事業成果報告書	地域課題学習支援センター	1
島根大学・寧夏大学国際共同研究所	島根大学・寧夏大学国際共同研究所ニュースレター	島根大学・寧夏大学国際共同研究所	不定期
	島根大学・寧夏大学国際共同研究所パンフレット	島根大学・寧夏大学国際共同研究所	不定期

土地・建物

2015.5.1現在

区 分	土 地	建 物		備 考
		建面積	延面積	
	m ²	m ²	m ²	
松江キャンパス(川津団地)	201,195	40,621	125,466	京田(駐車場)を含む
本部棟(松江)		714	2,799	
法文学部		1,921	7,631	法文学部校舎
教育学部		4,132	16,554	教育学部実験研究室棟
総合理工学部		6,952	34,541	総合理工学部1・2・3号館
生物資源科学部		5,080	22,375	生物資源科学部1・2・3号館
生物資源科学部附属施設		1,434	1,542	水利実験室、農業機械実験室、林産加工場、製材加工室、動物実験飼育室、降雨実験室
温室・ガラス室		864	864	
光物性実験室		53	53	
教養講義室棟		1,301	4,292	教養講義室棟1・2号館
大学ホール		820	831	
保健管理センター		261	479	
汽水域研究センター		250	774	
遺伝子実験施設		515	1,514	
附属図書館		2,035	6,826	
総合情報処理センター		361	683	
ミュージアム		155	155	
古代出雲研究施設		65	130	
体育施設		4,863	5,293	第1・2体育館、トレーニングセンター、プール棟、武道場、弓道場
学生市民交流ハウス		130	75	
学生センター		782	1,400	
学生支援センター		345	656	
学生会館(松江)		877	2,166	
学生食堂		1,592	1,636	第1・2学生食堂
課外活動施設		515	1,976	
学生寄宿舎		2,237	7,466	
環境安全施設		180	180	
有機廃液焼却処理施設		93	93	
中央監視室棟		69	69	
特高受変電棟		168	336	
その他		1,857	2,077	倉庫及び雑建屋
附属学校キャンパス(大輪団地)	54,688	8,468	15,268	
教育学部附属幼稚園		748	912	園舎、物置器具置場
教育学部附属小学校		3,882	7,364	校舎、体育館
教育学部附属中学校		3,838	6,992	校舎、体育館
出雲キャンパス(塩治団地)	222,625	41,258	129,910	
本部棟(出雲)		981	3,351	
講義棟		661	1,965	
実習棟		1,180	4,525	
基礎研究棟		631	4,997	
臨床研究棟		903	4,647	
看護学科棟		1,211	6,189	
共同研究棟		601	2,312	
第二研究棟		754	3,715	
第三研究棟		333	1,335	
第二共同研究棟		395	1,087	
第三共同研究棟		216	420	
第四共同研究棟		207	415	
チュートリアル教室		184	368	
臨床講義棟		884	1,434	
産学連携センター(出雲)		846	2,268	地域医学共同部門
RI-動物実験施設		1,201	3,944	
RI研究棟		193	428	
国際交流会館(出雲)		412	843	
附属図書館(出雲)		1,026	2,232	
体育館		1,315	1,175	
武道館		457	422	武道場、弓道場、弓道練習場
学生会館(出雲)		833	1,998	
医学部会館		451	586	
保育所		186	186	
看護師宿舎		984	4,007	
地域医療支援センター(みらい棟)		773	2,480	
附属病院棟		14,038	57,972	外来・中央診療棟、A・B・C病棟
高エネルギー診療棟		1,156	1,270	
MRI-CT装置棟		531	531	
病歴室		175	482	
立体駐車場		3,921	7,771	
中央機械室		1,923	2,567	
塵芥焼却炉室・発電機室		300	300	
廃水処理施設管理室		340	336	
RI排水処理施設		216	259	
特高受変電棟		215	410	
その他		625	683	倉庫及び雑建屋
フィールド教育・研究キャンパス	5,990,145	6,592	8,242	
生物資源科学部附属生物資源教育研究センター				
森林部門(三瓶・頼原・匹見・二ノ谷団地)	5,804,845	531	739	三瓶演習林、匹見演習林、三坂山演習林等
農業生産科学部(本庄・神西団地)	180,713	5,167	5,997	本庄農場、神西農場
海洋生物科学部(隠岐団地)	4,587	894	1,506	隠岐臨海実験所
その他の団地	15,280	1,891	2,786	
江島	3,124	410	377	汽水域研究センター-中海分室
北陵	1,350	668	1,141	産学連携センター(松江)
菅田	3,182	435	830	国際交流会館(松江)
柴	4,864	74	74	第2運動場(テニスコート、自動車練習場)
朝酌	1,314	304	364	艇庫
南田町	557	0	0	
曲り田	889	0	0	駐車場

沿革・組織

学部等

学生数・入試・就職・進学状況

公開講座・公開授業

外部資金・収入・支出決算額

国際交流・その他

連絡先一覧

大学ホームページ <http://www.shimane-u.ac.jp> E-mail: webinfo@office.shimane-u.ac.jp

	▶電話	▶E-mail		
学部等	法文学部・人文社会科学研究所	0852-32-6113	lit-jimu@office.shimane-u.ac.jp	
	教育学部・教育学研究科	0852-32-6251	edu-jimu@office.shimane-u.ac.jp	
	附属教育支援センター	0852-32-9836	aces@edu.shimane-u.ac.jp	
	附属教師教育研究センター	0852-32-6495	crte-shimane@edu.shimane-u.ac.jp	
	附属FD戦略センター	0852-32-9850	kyofd001@edu.shimane-u.ac.jp	
	附属幼稚園	0852-29-1120	sora@edu.shimane-u.ac.jp	
	附属小学校	0852-29-1200	yaegumo@edu.shimane-u.ac.jp	
	附属中学校	0852-29-1300	shimafu@edu.shimane-u.ac.jp	
	附属学校学習生活支援研究センター	0852-29-1314		
	医学部・医学系研究科	0853-20-2015	mga-somu@office.shimane-u.ac.jp	
	医学部附属病院	0853-20-2061	mse-iryoshien@office.shimane-u.ac.jp	
	総合理工学部・総合理工学研究科	0852-32-6095	sci-jimu@office.shimane-u.ac.jp	
	生物資源科学部・生物資源科学研究科	0852-32-6492	lif-jimu@office.shimane-u.ac.jp	
	附属生物資源教育研究センター	0852-34-0311	lif-honjo@office.shimane-u.ac.jp	
	法務研究科	0852-32-9835	law-jimu@office.shimane-u.ac.jp	
	機構等	教育・学生支援機構		
		教学企画IR室	0852-32-9777	ir-staff@soc.shimane-u.ac.jp
教育開発センター		0852-32-9860	sucerd@soc.shimane-u.ac.jp	
外国語教育センター		0852-32-9837	epd-gaikoku@office.shimane-u.ac.jp	
生涯教育推進センター		0852-32-6408	ercll@edu.shimane-u.ac.jp	
入学センター		0852-32-6625	admissioncenter@office.shimane-u.ac.jp	
キャリアセンター		0852-32-6061	ssd-shushoku@office.shimane-u.ac.jp	
保健管理センター 松江キャンパス		0852-32-6568		
出雲キャンパス		0853-20-2098		
学生支援センター		0852-32-6330		
研究機構				
戦略的研究推進センター		0852-32-6056	rsd-kenkyu@office.shimane-u.ac.jp	
重点研究部門		0852-32-6056	rsd-kenkyu@office.shimane-u.ac.jp	
萌芽研究部門		0852-32-6056	rsd-kenkyu@office.shimane-u.ac.jp	
特別研究部門		0852-32-6056	rsd-kenkyu@office.shimane-u.ac.jp	
プロジェクトセンター		0852-32-6056	rsd-kenkyu@office.shimane-u.ac.jp	
汽水域研究センター		0852-32-6099	kisui@soc.shimane-u.ac.jp	
産学連携センター				
地域産業共同研究部門		0852-60-2290	crcenter@ipc.shimane-u.ac.jp	
知的財産創造部門		0852-60-2290	crcenter@ipc.shimane-u.ac.jp	
連携企画推進部門 (松江キャンパス)		0852-60-2290	crcenter@ipc.shimane-u.ac.jp	
地域医学共同研究部門 (出雲キャンパス)		0853-20-2912	cmrc@med.shimane-u.ac.jp	
総合科学研究支援センター				
・松江キャンパス 遺伝子機能解析部門		0852-32-6109	idenshi@life.shimane-u.ac.jp	
RI実験施設		0852-32-6109		
物質機能分析部門		0852-32-6122	shijo@riko.shimane-u.ac.jp	
・出雲キャンパス 実験動物部門		0853-20-2363	kkawaka@med.shimane-u.ac.jp	
生体情報・RI実験部門	0853-20-2369	brcenter@med.shimane-u.ac.jp		
国際交流機構				
国際交流センター	0852-32-9756	international@office.shimane-u.ac.jp		
島根大学・寧夏大学国際共同研究所	0852-32-9735	ied-koryu@office.shimane-u.ac.jp		
学術情報機構				
附属図書館 本館 (松江キャンパス)	0852-32-6083	library@lib.shimane-u.ac.jp		
医学図書館 (出雲キャンパス)	0853-20-2090	m-kanri@lib.shimane-u.ac.jp		
総合情報処理センター	0852-32-6091	center@ipc.shimane-u.ac.jp		
ミュージアム	0852-32-6496	museum@riko.shimane-u.ac.jp		
評価室	0852-32-6606			
男女共同参画推進室	0852-32-6018	kyodo-sankaku@edu.shimane-u.ac.jp		
広報室	0852-32-6603	webinfo@office.shimane-u.ac.jp		
地域課題学習支援センター	0852-32-9814	lscrc@riko.shimane-u.ac.jp		
山陰法実務教育研究センター	0852-32-6426	law-jimu@office.shimane-u.ac.jp		
広島オフィス	082-236-1926	su-hiroshima@jn.shimane-u.ac.jp		
事務組織	監査室	0852-32-6026	aud-kansa@office.shimane-u.ac.jp	
	総務部			
	総務課	0852-32-6603	gad-koho@office.shimane-u.ac.jp	
	人事労務課	0852-32-6018	pld-romu@office.shimane-u.ac.jp	
	企画・地域連携推進部	0852-32-6605	gad-kikaku@office.shimane-u.ac.jp	
	財務部	0852-32-6023	fad-zaimu@office.shimane-u.ac.jp	
	財務課	0852-32-6027	apd-chotatsu@office.shimane-u.ac.jp	
	経理・調達課	0852-32-6044	fpd-msomu@office.shimane-u.ac.jp	
	施設企画課/施設整備課	0852-32-6052	epd-kyoiku@office.shimane-u.ac.jp	
	教育・学生支援部	0852-32-7029	sad-kyoiku@office.shimane-u.ac.jp	
	学務課	0852-32-6330	ssd-gakusei@office.shimane-u.ac.jp	
	学生支援課	0852-32-6056	rsd-kenkyu@office.shimane-u.ac.jp	
	学術国際部	0852-32-6106	ied-ryugaku@office.shimane-u.ac.jp	
	研究協力課	0852-32-6248	ipd-joho@office.shimane-u.ac.jp	
	国際交流課	0852-32-6083	library@lib.shimane-u.ac.jp	
情報企画課				
図書情報課				

アクセス



松江キャンパス

空路 	東京(羽田)→出雲	約1時間25分
	福岡→出雲	約1時間5分
	大阪(伊丹)→出雲	約55分
※出雲空港から空港連絡バス松江行(約30分) J R松江駅下車		
J R 	東京(羽田)→米子	約1時間20分
	※米子空港から空港連絡バス松江行(約45分) J R松江駅下車	
	東京→岡山→松江	約6時間10分
高速バス 	福岡→岡山→松江	約4時間30分
	大阪→岡山→松江	約3時間40分
	東京(渋谷)→松江	約10時間25分
大阪(梅田)→松江		約4時間40分
岡山→松江		約3時間
広島→松江[特急便]		約3時間20分
福岡→松江		約10時間10分

JR松江駅より

市営バス	北循環線内回り 島根大学前下車	約15分
	島根大学・川津行 島根大学前下車	約20分
※他に「平成ニュータウン」「あじさい団地」「東高校」等もあります。		
一畑バス	美保関ターミナル行 島根大学前下車	約20分
	マリンゲートしまね行 島根大学前下車	約20分



出雲キャンパス

空路 	東京(羽田)→出雲	約1時間25分
	福岡→出雲	約1時間5分
	大阪(伊丹)→出雲	約55分
※出雲空港から空港連絡バス出雲市駅行(約25分) J R出雲市駅下車		
J R 	東京→岡山→出雲市	約6時間40分
	福岡→岡山→出雲市	約5時間
	大阪→岡山→出雲市	約4時間10分
高速バス 	東京(渋谷)→出雲	約11時間20分
	大阪(梅田)→出雲	約5時間35分
	岡山→出雲	約4時間
	広島→出雲[特急便]	約3時間
福岡→出雲		約9時間10分

JR出雲市駅より一畑バス

出雲市駅・上塩治車庫行 島根医大病院下車	約10分
市内循環左まわり(150円バス)・	
上塩治車庫行 島根医大入口下車	約5分
出雲須佐行 島根医大病院前下車(2番のりば)	約10分





人とともに 地域とともに
国立大学法人

島根大学

国立大学法人 島根大学概要 2015-2016

編集・発行 / 島根大学広報室(総務部総務課)

〒690-8504 島根県松江市西川津町1060 TEL. (0852) 32-6100
<http://www.shimane-u.ac.jp> E-mail: webinfo@office.shimane-u.ac.jp



学 章

総合大学として飛躍し、発展する島根大学を日本海の青色のUで、
知性を愛し感性を育む学問の探究を茜色の扉と本で象徴しています。